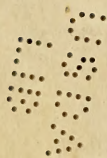


Historic, Archive Document

Do not assume content reflects current scientific knowledge, policies, or practices.

福岡縣花筵沿革誌



插入刪除

三頁中組合員ノ次(組ハ合員)
ヲ删除シ(ハ組合員)ヲ挿入ス

百十六頁二行中(九)ヲ削除ス

四十頁末行中全ノ次ニ(元)ヲ挿入ス

百五十三頁三行中大分縣ノ下
(花薹)ヲ除キ(薹業)ヲ挿入ス

四十一頁一行中全ノ次ニ(元)ヲ
挿入ス

百六十三頁十四行中(員)ヲ除ク

四十二頁中行中八女郡ノ次ニ(元)
ヲ挿入ス

百六十四頁十二行中三ヶ月ノ
次ニ(内)ヲ挿入ス

六十二頁五行中末欄ニ（一）ヲ挿入ス

百八十一頁四行中念ノ次ニ
(チ)ヲ挿入ス

八十頁七行中二ノ欄ニ(一)ヲ挿入シ全四ノ欄ノ(一)ヲ削ル

百八十二頁十三行中掛川ノ下
ノ(、)ヲ除ク

二頁七行中自明治廿八年七月至
次二（明治三十九年六月）ヲ挿入ス

百八十四頁二行中但シ十ノ次
(二)ヲ挿入ス

百八十六頁十三行(大)ヲ刪除ス
百八十八頁十六行中失墜シノ次ニ(一)ヲ挿入ス
百八十九頁二行中至レリノ次ニ(此時ニ當リ)ヲ挿入ス
二百五頁三行中氷結ノ次ノ(メ)ヲ削ル
二百六頁四行中前後ノ次ニ(約)ヲ挿入ス
二百十六頁六行中花蕊ノ次ニ(葉)ヲ挿入ス

緒言

我福岡縣花蕤輸出年額八拾餘萬圓之ニ内國向莫産ノ年
 産額參拾餘萬圓ヲ合スレハ其高實ニ壹百拾有餘萬圓ト
 ナル又タ盛ナラストセンヤ於是乎西ヨリ東ヨリ書ヲ飛
 ハシテ其沿革ヲ問ヒ車ヲ馳セテ之カ製法ヲ尋ヌルモノ
 陸續相踵キ應答ノ紙片漸ク積ンテ堆ヲナス偶々來年三
 月九州冲繩八縣聯合共進會ノ本縣ニ開催セラレントス
 ルヤ必要止ム可カラサルモノアリ則チ編ンデ一卷トナ
 シ題シテ福岡縣花蕤沿革誌ト云フ簿書堆裡俗務倅倅俄
 カニ修文ノ暇ナシト雖モ亦以テ斯業ノ一班ヲ窺フニ足
 ラン乎片々ノ辞聊カ江湖ヲ益スルヲ得ハ幸甚矣

明治四十二年十二月

福岡縣花蕤同業組合事務所ニ於テ

理事 井口喜道識

福岡縣花菰沿革誌目次

第一編 同業組合沿革

第一節	組合成立ノ由來	一
第二節	組合規約及定款	四
第三節	組合員ノ變遷	五七
第四節	役員變遷及事務所位置	八八
第五節	組合經費ノ増減	九八
第六節	組合ノ重モナル業務	一一六
一	証票發行	一一七
二	製品検査	一一七
三	製品取締	一二〇
四	獎勵事業	一二一
(一)	花菰教習所ノ設置	一二二
(二)	染色改良	一二二
(三)	標本配布	一二三

(四) 捺染工場

五 經費補助

一一二
一一二

六 聖路易世界大博覽會及北米合衆國花莖商況視察

一一三

七 日本花莖同業組合聯合會

一一三

第二編 事業來歷

一七一

第一節 莫蘆ノ濫觴

一七一

第二節 花莖貿易ノ起元

一七一

第三節 花莖輸出ノ増減及花莖輸出業者ノ變遷

一七三

第四節 花莖生產進步ノ概況

一七七

一 染色

一七七

二 技術

一七八

三 機械

一七九

第五節 北米合衆國關稅改正

一八〇

第三編 生產狀態

一八一

第一節 花莖及莫蘆ノ生産者

一八一

第二節 花莖及莫蘆ノ產地

一八二

第三節 花薙及莫蔭ノ品質種類

一八二

第四節 販路ノ消長

一八六

第五節 北米合衆國商況

一八九

第六節 本邦花薙ニ對スル各種競爭品

一九二

一「イングレーン、カーペット」

一九二

二「フアイバーマツチング」

一九四

三「ココマツチング」

一五九

四「クレツクス」

一九六

五「リノリヤム」

一九七

六 清米兩國製花薙

一九八

第七節 本邦花薙ノ粗製濫造

一九九

第八節 雜件

二〇〇

一時季「シーズン」

二〇〇

二 角物ト耳探リ及糸房

二〇一

三 土地ト縞柄

二〇二

四 染色ノ均一

二〇二

第九節 結論

第十節 花莖原料

一 經系

二 蘭草及七島草

第四編 本縣花莖界ノ功勞者

二〇一

二〇三

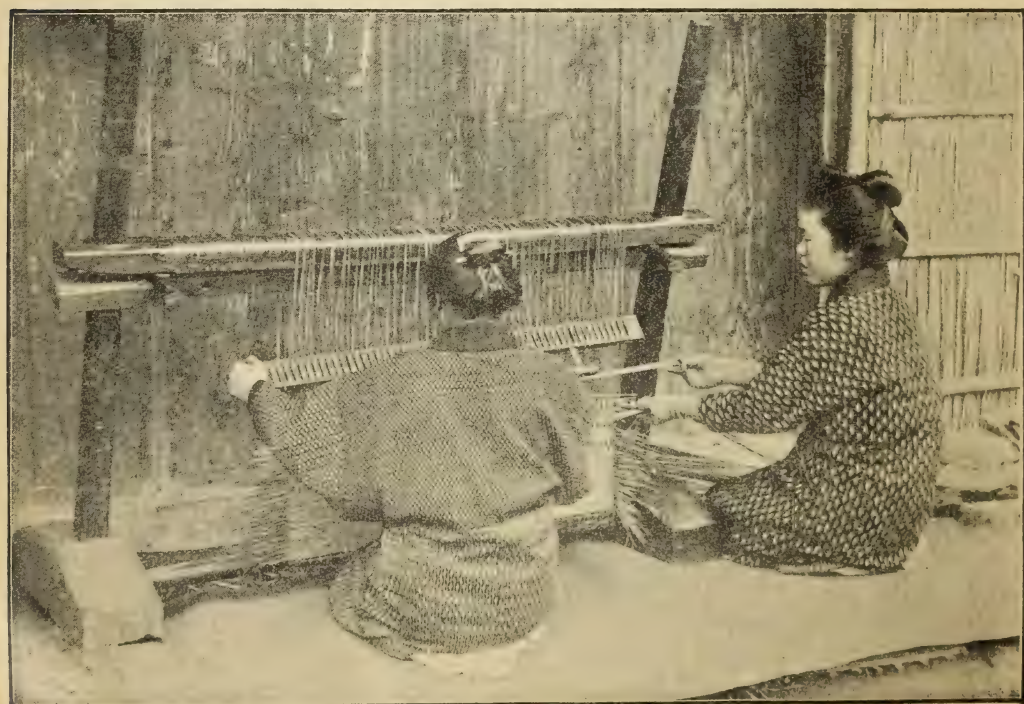
二〇三

二〇三

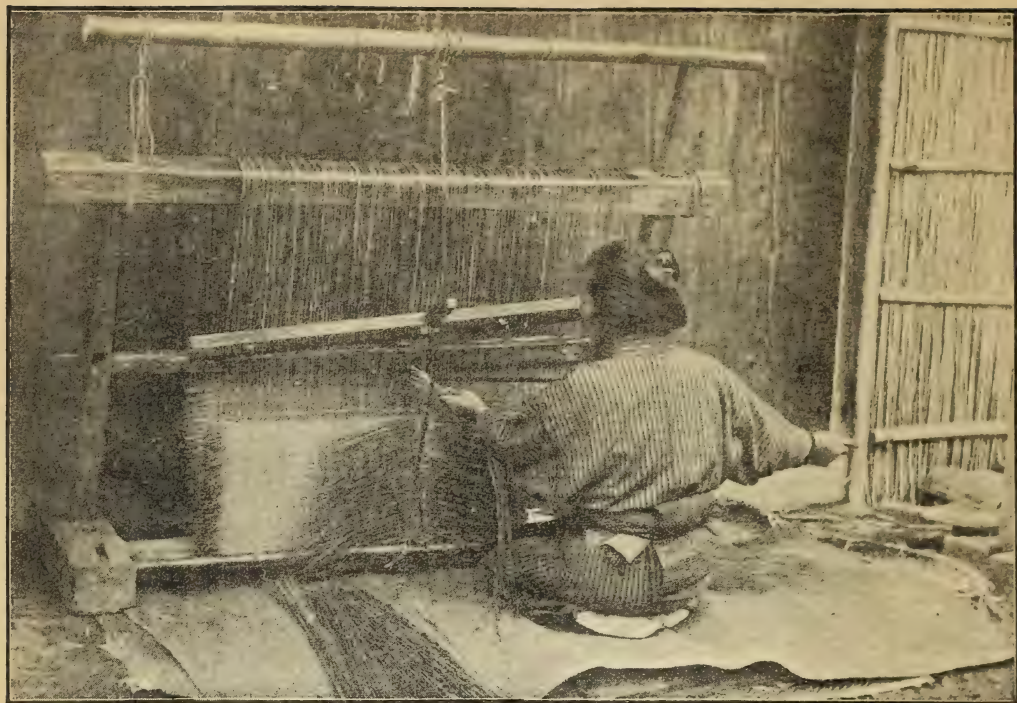
二二二



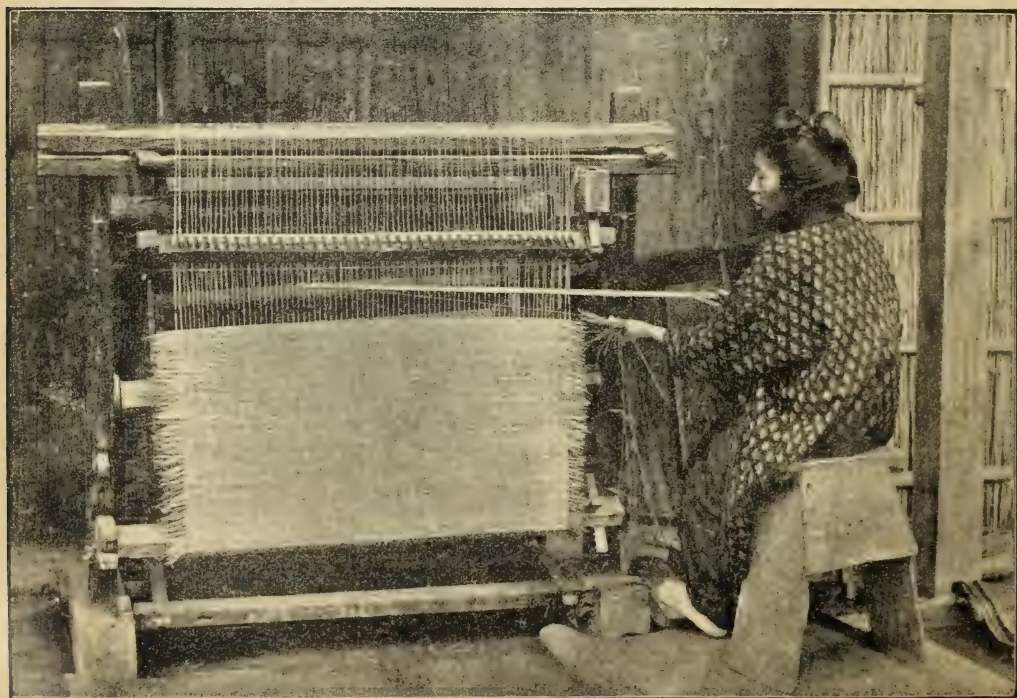
所務事合組業同延花縣岡福



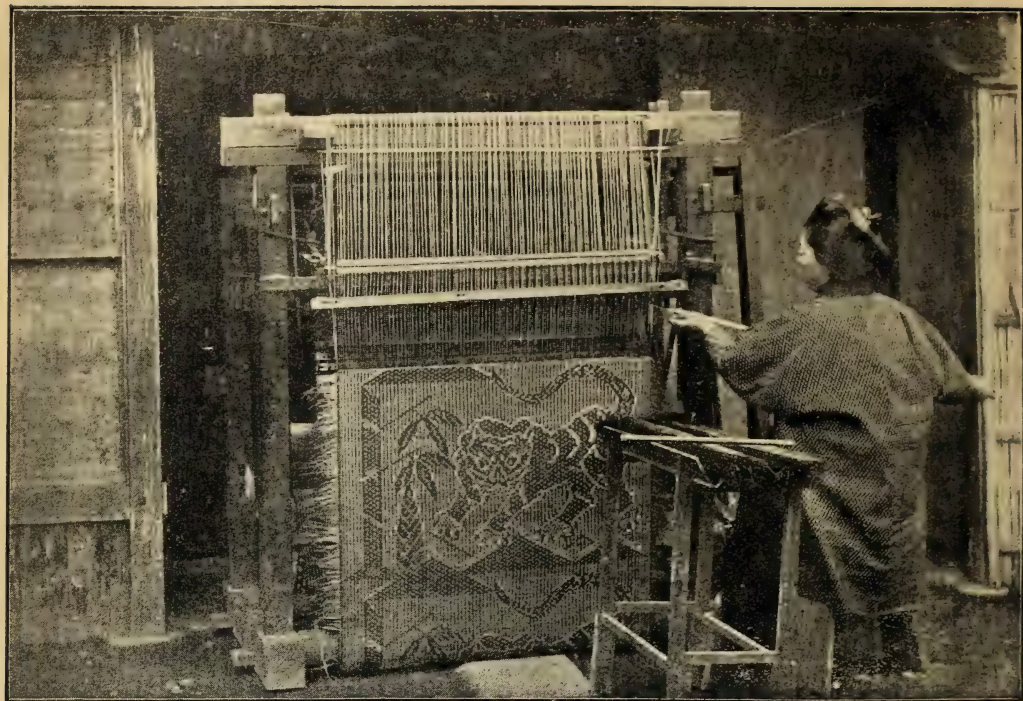
圖ノ用使機織人二ノ來舊



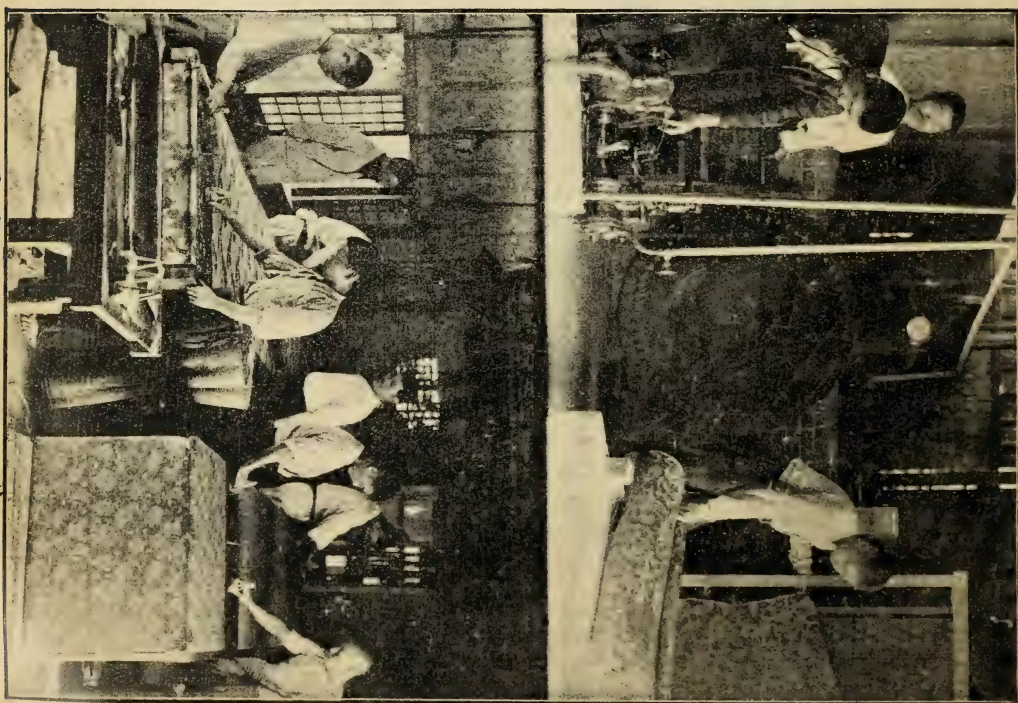
圖ノ用使機織表縵中



圖ノ用使機織筵花易簡



花莖機織機使用ノ圖



花莖染工場ノ實景

筑後國 浮羽郡

三井郡

肥前國 養基郡

佐賀郡

鹿本郡

臼田郡

肥後國

玉名郡



▲印 事務所
●印 出張所
□印 主産地

福岡縣花筵沿革誌

第一編 同業組合沿革

第一節 組合成立ノ由來

我カ福岡縣ニ於ケル花筵同業組合カ漸ク其形ヲ備ヘタルハ去ル明治二十六年八月本縣重要物產同業組合取締規則ノ下ニ筑後薩商同業組合ヲ設立シタル時ニ在リトス是ヨリ先キ明治十九年本縣同業者ハ早ク己ニ農商務省令第三十七號同業組合準則ニ基キ三藩、上妻、下妻（上妻、下妻ハ今ノ八女郡）山門ノ四郡及久留米市ヲ地區トシ筑後薩商組合ヲ創立セシモ取締法其他ノ規定尙ホ頗ル幼稚ニシテ單ニ內國用莫蔭ノ長巾ヲ定メタルニ過ギス花筵ハ當時長莫蔭ノ名ヲ以テ己ニ多少ノ產出アリシモ之ニ對スル規定ハ未タ設ケラレズ一方ニ於テ組合員ノ思想如何ヲ見ルニ一般ニ未タ組合ノ何物タルヲ解セズ全然共同一致ヲ欠キタルヲ以テ規約ノ實行困難ヲ極メ改善ノ施設容易ニ其効ヲ奏セズ因テ明治二十四年六月規約ニ一大改正ヲ行ヒ之カ實施前在來品ニハ一定ノ目票ヲ付シ以テ改正前後ノ品物ヲ區別シ製織各戸ニ莫蔭ノ定尺表ヲ配付シ大ニ規約ヲ勵行シタル結果組合ノ體面幾分カ改マリ取締方法モ稍々實行ヲ見ルニ至リシト雖素ト是レ一片私約ニ屬シ經費寡少、爲メニ必要ノ職員スラ之ヲ任用スル能ハザルノミナラズ之ガ徵收ノ方法モ至ツテ澁難ヲ極メ往々不足ヲ生スルコアリ此場合ハ概テ役員ノ出捐ヲ煩ハシ以テ纔ニ組合ノ命脈ヲ繫ク等當時率先組合ノ成立ニ

執掌セル役員諸氏ノ苦辛ハ深ク察スルニ餘アルナリ

當時花蒔ハ追々産額ヲ増シ稍々發展ニ向フト全時ニ粗製濫造ノ弊起リ製織家ノ智度低クシテ輸出品ノ何物タルヲ解セサルト同時ニ奸商ハ目前ノ小利ニ走リ將來ノ利害ヲ意トセズ粗惡品ヲ輸出シテ一時ヲ糊塗セルヨリ信用忽チ地ニ墜チ挽回策ナキヨリ重立タル當業者ハ大ニ之ヲ慨シ奮ツテ莫産業ヲ本縣重要物産同業組合取締規則中ニ編入セラレンコトヲ其筋ニ請願シタリシニ幸ニシテ明治二十六年ニ至リ三瀨郡、上妻郡、下妻郡、山門郡及久留米市ノ莫産販賣業者ヲ全規則中ニ追加セラレタルヲ以テ全年八月組合組織ヲ改メ該規則ノ下ニ制裁力アル組合ヲ設立シ組合員協同一致シテ營業上ノ弊害ヲ矯正シ製品改良ノ實ヲ舉クルノ基礎ヲ確立セリ

以上ノ如ク莫産販賣業者ハ縣ノ重要物産同業組合取締規則ニ追加セラレ之ガ制裁ヲ受クルニ至リタリト雖莫産製織業者ハ未タ之ニ加ヘラレス此ノ方面ニ對スル取締ハ全ク之レナカリシニヨリ該業者ヲモ之ニ加ヘラレンコトヲ其筋ニ請願スルコト數回ニ及ビタルモ當時縣當局ノ意見ハ莫産製織ヲ以テ副業トスル無數ノ農業者ヲ取締規則ノ下ニ置クハ不穩當ナリト云フニ在リテ採用セラレズ依テ製織業者ニ於テハ不得止私約ヲ以

テ筑後花蒔同業組合ヲ設立シ之カ取締ノ途ヲ建テタリ是レ實ニ明治二十八年ノコトナリキ
尋テ明治三十年當業者ノ意向漸ク縣當局ニ認メラレ製織業者及三池郡ヲ重要物産取締規則ニ追加セラレタルヲ以テ既設ノ筑後産商同業組合ト筑後花蒔同業組合トハ協定ヲ遂ケ打シテ一團トナリ筑後産同業組合ヲ組織シ製織販賣共ニ一定ノ取締ヲナシ得ルニ至レリ

越ヘテ明治三十二年五月本組合ハ其發展ノ手段トシテ更ラニ組織變更ノ必要ヲ感シ明治三十年法律第四十七號重要輸出品同業組合法ノ下ニ組合ヲ設立シ以テ大ニ秩序アル進行ノ首途ヲナセリ爾後多年星霜ヲ經ル毎ニ組合ノ基礎彌々固ク以テ今日アルニ及ベリ茲ニ本節ヲ終ルニ臨ミ一言附記ノ必要ヲ感スルハ久留米通莫蔭商團體ノ事蹟ナリ

右團體ノ起原ハ明治十一年久留米蔭卸商八名ガ其仲間ニ於テ商品仕入方ニ付規約ヲ結ヒタルニ起因シ之ニ對シ三潞郡下妻郡ニ於ケル久留米通莫蔭商亦タ其仲間ノ規約ヲ設クルノ必要ヲ感シ同業百三十七名ヲ糾合シ一ノ團體ハ組織セラレ號シテ久留米通ヒ莫蔭商仲間ト云フ此ノ團體成立後已ニ三十年ニ及ブモ依然存立シ不文ノ申合規約ハ今尙ホ些ノ變更ヲ見ズシテ現行セリ則チ其申合ノ大要ハ

一 久留米通莫蔭商ハ一車莫蔭六把以上ヲ積載セサルヲ（注文ハ此限ニ非ス）

一 久留米出荷ハ隔日タル可キヲ

一 仲間中ニ申合ニ背ク者アルキハ除名スルヲ

等ニシテ仲間ノ株（即チ加入權）ハ今尙ホ相當價格ヲ以テ賣買セラレ最初創立ノ際ニ於ケル百三十七名ノ員數中加除人名ノ交迭アルモ其人員ハ曾テ増減ナシト云フ數年前迄ハ市郡交々主宰トナリ毎年一回必ス例會ヲ開キ其團體ノ氣脈ヲ通シ來リシモ今ハ之ヲ中止セリ斯クノ如ク不文規約確守ノ例ハ四十三年ノ明治時代ニ於テハ稀有ノ事蹟ト稱シツ可シ

第二節 組合規約及ヒ定款

組合組織及取締方法ノ寬嚴ヲ見ント欲セハ先ツ其當時ニ於ケル規約又ハ定款ノ規定ヲ見ルヲ要ス本組合ノ濫觴タル明治十九年筑後産商組合設立當時ノ申合規約ハ全二十四年六月改正規約ト大同小異ナルヲ以テ之ヲ略シ以下順次之ヲ掲載スルコトセリ則チ

一 筑後産商組合規約抜萃（明治廿四年六月廿四日認可）

第一條 本組合ハ筑後産商組合ト稱ス

第二條 本組合ハ筑後國久留米、上妻、下妻、三瀧、山門四郡一市ノ産商ヲ以テ組織シ之レヲ四拾貳小區

ニ分割ス

第四條 本組合ノ事務ヲ處理スルタメ左ノ役員ヲ撰定ス

組 長 壹 名

取 締 各小區一名宛

監 査 人 壹 名

書 記 臨時雇

第八條 本組合ハ全業者從來ノ弊風ヲ矯正シ協力以テ益々販路ノ擴張ヲ謀リ共ニ福利ヲ増進スルヲ以テ目的トス

第九條 本組合員ハ前條ノ目的ヲ達センカタメ左ノ各項ヲ確守實行スルモノトス

第一項 各種産ノ精良ナルト及其寸尺ヲ証明スルタメ末項雛形ノ章票ヲ發行スルモノトス

第二項 組合員ニシテ産ヲ販賣スルルハ組合ノ内外ヲ問ハス左ノ束把ニ依リ必ス一葉ノ章票ヲ貼付スルモノトス

小産 二十枚以上 三十枚以下

中繼表 八枚以上 十二枚以下

鯢表、枕花、菱、無地 十枚以上 二十五枚以下

七島表 十枚以上 十五枚以下

長産 一本

一間半物 六枚以上 十五枚以下

二間物 四枚以上 十三枚以下

折産 二十枚以上 三十枚以下

坐産 三十枚以上 六十枚以下

第三項 前項束把以下端數ノ産ニハ章票ヲ貼付スルニ及ハスト雖モ定尺未滿ノモノハ一切之ヲ取扱フヲ得サルモノトス

第四項 一度貼用シタル章票ハ再度之ヲ使用スルヲ許サズ

第五項 章票ハ之ヲ組合外ニ賣渡シ又ハ分與シ若クハ組合内相互ニ賣買分與スルヲ得サ、ルモノトス
第七項 各種産ノ寸尺ヲ定ムルコト左ノ如シ

種	類	長 (鯨 尺)	幅
二 間	物	一丈一寸	二尺五寸
一 間 半	物	七尺六寸	全
本間表 (中繼、蜆、七島、 菱、無地、花)	物	五尺一寸五分以上	全
九 合	物	四尺五寸	二尺二寸五分
八 合	物	四尺一寸	二尺一寸三分
七 合	物	三尺九寸	二 尺
六 合	物	四尺一寸	一尺七寸
八 合	山	四 尺	二尺以上
七 合	山	三尺七寸	一尺九寸
下	山	三尺五寸	一尺八寸
大 目 枕 花	花	五 尺	二尺四寸五分

第三十六條 第九條第三項ヲ犯シタルモノハ現品ハ切斷シテ本人へ返付シ尙參圖ノ違約金ヲ出サシム

但シ精品ヲ交ヘタルハ其品丈其儘之ヲ本人ヘ返付ス

第三十七條 第九條第二項及第四項ヲ犯シタルモノハ參圓ノ違約金ヲ出サシム

第三十八條 第九條第五項ヲ犯シタルモノハ壹圓ノ違約金ヲ出サシム

第三十九條 役員ニシテ規約第九條ノ各項ヲ犯シタルモノハ定尺未滿ノ産ハ之ヲ切斷シ各違約金ハ組合員ノ二倍トシ尙其任ヲ解クモノトス

第四十條 役員又ハ組合員ニシテ諸違犯者ヲ庇陰シタルハ本犯ニ準シ之ヲ處分ス

第四十一條 役員ニシテ其職ヲ怠リ又ハ專行偏頗ノ所爲アルハ其任ヲ解クモノトス

一一 筑後産同業組合定款抜萃（明治三十年十月認可）

筑後産同業組合定款

第一章 總 則

第一條 本組合ハ三潯郡八女郡山門郡三池郡久留米市ノ筑後産販賣業者及花蒔製造業者ヲ以テ組織ス

第二條 本組合ハ筑後産同業組合ト稱ス

第三條 本組合事務所ハ之ヲ三潯郡ニ設置ス

第二章 目的及方法

第四條 本組合ハ筑後産ノ弊害ヲ矯正シ其改良ヲ圖リ同業者ノ福利ヲ増進スルヲ以テ目的トス

第五條 本組合ハ筑後産ノ精良ナルヲ表明スルタメ左記各項ノ章標ヲ發行ス

第一項 産販賣業者ハ左記雛形ノ甲乙号章標ニ其住所姓名及發送ノ年月日販賣章標ニ其住所姓名ヲ記入捺印シ之ヲ結付スベシ

甲 精
章 福岡縣筑後國
品 之
標 証
號 筑後産同業組合

日 月 年 治明

乙 號 章 標

精 品 之 証

筑後産同業組合

福岡縣筑後國 郡 市 町 村

仲買人 姓

名

日 月 年 治明

第二項 花蒔製造業者ハ左記雛形章標ニ其住所姓名ヲ記入捺印シ一本毎ニ一葉ツ、結付スヘシ

大 日 本
JAPAN
Certification of
choice good

組合監査員

精品之証

筑後座同業組合

福岡縣筑後國

販賣者

大 日 本
CHIKUGO JAPAN

組合監査員

精品之証

筑後花蒔同業組合

福岡縣

製造者

第六條 本組合ハ第四條ノ目的ヲ達センカタメ左記各項ヲ遵守ス可キモノトス

第一項 規定以外ノ不正品ニ章標ヲ結付シ信用ヲ害スルカ如キ所爲アル可カラス

第二項 章標ハ之ヲ組合員外ニ賣渡シ又ハ譲與ス可カラス

第三項 一度結付シタル章票ハ再ヒ之ヲ使用ス可カラス

第四項 章標ハ左記ノ規定ニヨリ第一種ニハ製造業者ハ製造章標組合員互ニ賣買又ハ運搬スルハ乙號章標組合員外ニ賣渡スカ又ハ組合地區外ニ輸送スルハ販賣章標第二種以下第七種迄ハ甲號章標各一

葉ヲ結付スヘシ

但賣買ノ目的ニアラサルヲ証明スルハ此限ニ非ス

第一種 花薙（並花薙、綾薙、タマスク薙、花鳥薙、八角薙、紋花薙、七島薙）等以下花薙類ト云

フモノ之ニ倣フ

一本

第二種 二間物、間落二間物

四枚以上 十三枚以下

第三種 一間半物

四枚以上 十五枚以下

第四種 中繼表

六枚以上 十六枚以下

第五種 蛭表、七島表、菱、無地、花、枕花、

十枚以上 二十五枚以下

第六種 間落、九合、八合、七合、六合
各種山、裏蔭半中繼

十五枚以上 三十五枚以下

第七種 坐蔭

三十枚以上 百枚以下

第五項 運搬上便宜ノ爲メ前項ノ數量ヲ増加シ同種ノモノ規定以上ニ及フハ其割合ニヨリ章標ヲ増付

第六項 花筵及各種塵ノ寸尺量目耳組ヲ定ムル左ノ如シ

種	類	長 (鯨 尺)	巾 (鯨 尺)	干揚耳落量目	耳組
二	間物	十尺一寸以上	二尺五寸		
間落	二間物	十尺以上	二尺四寸		
一間	半物	七尺六寸以上	二尺五寸		
本間表、中繼表、七島表、花菱、無地		五尺一寸五分以上	二尺五寸		
大目	枕花	五尺以上	二尺四寸五分		
間落	物	四尺五寸以上	二尺四寸		
九	合物	四尺五寸以上	二尺二寸五分		
八	合物	四尺一寸以上	二尺一寸三分		
七	合物	三尺九寸以上	二尺		
六	合物	四尺一寸以上	一尺七寸		
八	合山	四尺以上	二尺以上		
七	合山	三尺七寸以上	一尺九寸		

並	山	三尺五寸以上	一尺八寸	五貫目以上	三本以下
裏	産	五尺以上	二尺四寸五分	六貫五百目以上	四本以下
半	中 繼	三尺八寸以上	一尺九寸	五貫五百目以上	全
坐	産	一尺四寸以上	一尺三寸以下	五貫目以上	三本以下
並	花 産	二尺以下	一尺九寸以上	六貫目以上	四本以下
花鳥産、八角産	全	九十六尺以上	二尺四寸	五貫五百目以上	全
紋 花 産	全	全	全	六貫五百目以上	全
綾産、ダマスク産	全	全	全	八貫目以上	稍頭二本以下
七島産 ^(脊高製ヲ除ク)	全	全	全	九貫目以上	二本以下
七島綾産	全	全	全	全	全
全ダマスク産	全	全	全	全	全

表中並花産以下ニシテ綿糸ヲ用ユルモノハ長サ九十八尺以上トス

第七項 特ニ注文ノ証アルモノハ前項ノ寸尺ヲ増減スルヲ得此場合ニ於テハ量目モ亦其割合ニ準シ増減スルヲ要ス如何ナル場合ト雖モ花産類ニシテ單ニ量目ノミヲ減スルカ又ハ規定以上ノ耳組ヲナスノ注文ニ應スルヲ得ス

第八項 腐敗若クハ變色シタル蘭草及七島草又ハ燈心ノ拔殻等ヲ經緯ニ交ヘ製造又ハ賣買スルヲ得ス

第九項 花薙類ハ壹本ノ製造品中原質ノ一定セルモノ又ハ同色ニシテモ淡濃アルモノ若クハ花形ノ流乱スルモノ或ハ蘭切レ甚シキモノハ製造又ハ賣買スルコトヲ得ス

第十項 花薙類ハ製造者ニ於テ干揚ケタル後ニ非サレハ賣買スルコトヲ得ス

第十一項 花薙類經糸ニ綿糸ヲ用ユルモノハ總テ紡績二十手ニシテ百經以上ハ六合耳糸八筋(四筋以上燃合セ)以上百經未滿ハ八合耳糸六筋(三筋以上燃合セ)以上ノモノニ非サレハ製造又ハ賣買スルコトヲ得ス

第十二項 販賣業者ハ組合員外ノ製造花薙類ヲ取扱フコトヲ得ス

但組合地區外ニ於テ製造シタル證アル花薙類ハ此限リニアラス此場合ニ於テハ買受人ハ本條第四項ノ規定ニヨリ製造章標ヲモ結付スヘシ

第十三項 花薙類ハ檢査ヲ受ケタル後ニ非ラサレハ組合員外ニ賣渡シ又ハ組合地區外ニ輸出スルコトヲ得ス

第十四項 内國用産經糸ニ紡績麻糸ヲ用ヒタルモノハ二合撚以上ノモノニ非サレハ賣買スルコトヲ得ス

全花鳥薙、八角薙、紋花薙、綾薙、ダマスク薙ヲ除ク外綿糸ヲ用ヒタルモノ亦同シ

第十五項 組合員中ノ雇人ニ於テ組合ノ目的又ハ定款ノ實施上ニ對シ妨害ヲナスノ所爲アル者ハ雇主ニ於テ之ヲ頭取ニ届出テ役員會ニ於テ其實否ヲ調査シ果シテ右等ノ行爲アリト決定シタル片ハ直チニ組合員中ニ通知ヲナシ組合員ハ其者ヲ雇入ルヘカラス

第十二條 本組合ニ評議員ノ互撰ヲ以テ左ノ役員ヲ置ク

但無記名投票ヲ以テ撰舉スルモノトス

頭 取

一名

副頭取

一名

取締役

十名

違約處分委員

六名

第十三條 組合事務ヲ補助センタメ左ノ職員ヲ置ク監査員及會計書記ハ頭取取締役協議ノ上之ヲ任免シ會計ハ相當ノ身元保証人ヲ出サシム

監査員

十名以下

會計書記

各二名以下

第六章 違約處分

第三十五條 第六條第一項第二項第三項ヲ犯シタルモノハ章標一葉ニ付金貳拾錢以上拾圓以下ノ違約金ヲ

徴収ス

第三十六條 第五條各項ニ記載ノ事項ヲ記入セサルモノ及捺印ヲナサ、ル者ハ各章標一葉ニ付貳拾錢以上

壹圓以下ノ違約金ヲ徴収ス

第三十七條 第六條第十項第十一項ヲ犯シタルモノハ各花莖壹本ニ付貳拾錢以上貳圓以下ノ違約金ヲ徴収

ス

第三十八條 第六條第十四項ヲ犯シタルモノハ壹枚ニ付貳拾錢以上壹圓以下ノ違約金ヲ徵收ス

第三十九條 第六條第四項第五項第八項ヲ犯シタルモノハ各花薙壹本ニ付壹圓以上五圓以下其他ノ薙ハ貳拾錢以上拾圓以下ノ違約金ヲ徵收ス

第四十條 第六條第六項第七項但書第九項中ノ一ヲ犯シタルモノハ花薙類ハ壹本ニ付壹圓以上五圓以下其他ノ薙ハ各貳拾錢以上拾圓以下ノ違約金ヲ徵收ス

第四十一條 第六條第十二項第十三項ヲ犯シタルモノハ各花薙一本ニ付壹圓以上拾圓以下ノ違約金ヲ徵收ス

第四十二條 第六條第十五項及第十六項ヲ犯シタルモノハ貳圓以上貳拾圓以下ノ違約金ヲ徵收ス

第四十三條 數犯俱發シタルキハ一ノ重キニ從ヒ處分シ再犯以上ニ係ルキハ各本項ニ定メタル違約金ノ五割ヲ加重處分ス

第四十四條 組合役員及職員ニシテ違約處分ヲ受ケタルキハ同時ニ其任ヲ解ク

第四十五條 不正品ノ處分ハ花薙類ハ一丈五寸（鯨尺）毎ニ裁斷シ其他ノ薙ハ烙印ヲナシ違約金納入濟ノ上本人ヘ還付スルモノトス

但花薙類ニシテ長サ定尺ニ滿タサルモノハ織繼ヲ命スルコトアルベシ

名稱	報酬	月給	日當宿泊料	巡廻手當	旅費
頭取	參拾圓以下 貳百圓以上		組合內六拾錢 組合外壹圓五拾錢		陸路一里 參錢
副頭取	參拾圓以下 百五拾圓以上		同六拾錢 同壹圓五拾錢		同拾貳錢 參錢
取締役			同六拾錢 同壹圓五拾錢		同拾貳錢 參錢
違約處分委員			六拾錢		拾錢
評議員	參圓以下 五圓以上		六拾錢		拾錢
監查員		六圓以上 拾貳圓以下	三里外宿泊料 六拾錢	月手當 壹圓八拾錢	組合外拾錢 貳錢
會計書記		六圓以上 拾貳圓以下	一里外日當 四拾錢		一里外拾錢 貳錢

評議員撰舉區及人員表

區別	撰舉區域	評議員數	販賣製造計
----	------	------	-------

十一區	同	大川町	一	一	二
十區	同	田口村、濱武村、久間田村、川口村、大野島村	二	三	五
九區	同	木室村	二	三	五
八區	同	三叉村	一	一	三
七區	同	青木村	一		
六區	同	江上村	二	一	四
五區	同	城島町	一		
四區	同	大溝村	二	一	三
三區	同	木佐木村	二	三	五
二區	同	蒲池村	二	三	五
一區	三瀨郡	大莞村	二	三	五

十二區	三瀨郡	三瀨村大善寺村安武村大塚村西牟田村荒木村鳥飼村	一	一	三
十三區	久留米市		一	一	三
十四區	八女郡	下妻村古川村	二	一	三
十五區	同	水田村	二	二	四
十六區	同	二川村羽犬塚村岡山村	一		四
十七區	同	福島町川崎村上妻村豊岡村黒木町上廣川村北川内村光友村 下廣川村串毛村	一	一	四
十八區	同	大淵村笠原村矢部村横山村中廣川村長峰村忠見村白木村 北山村邊春村		一	四
十九區	山門郡	柳河町城内村沖端村西宮永村東宮永村両開村	一	二	三
二十區	同	川北村	一	一	二
廿一區	同	川邊村宮ノ内村	一	一	二
廿二區	同	垂見村應尾村鹽塚村有明村	一	一	三

廿三區	同	上瀬高町下瀬高町本郷村小川村川沿村水上村清水村	一	一
廿四區	三池郡一圓		一	二
			二	三

三 福岡縣花菰同業組合定款（明治四十一年五月五日認可）

目次

第一章

總則

第二章

組合業務

第一款

証票及票紙

第二款

營業及製品取締

第三款

違約處分

第三章

組合機關

第一款

役員資格撰舉及任期

第二款

役員權限

第三款

職員事務

第四章

組合會

第五章

會計

第六章

加入及脫退

第七章

証札

第八章

定款變更

第九章

解散及清算

第十章

雜則

福岡縣花筵同業組合定款

第一章 總 則

第一條 本組合ハ明治三十年法律第四十七號重要輸出品同業組合法ニ依リ地區内同業者五分ノ四以上ノ同一意ヲ得テ組織ス

第二條 本組合ハ福岡縣三潯郡八女郡山門郡三池郡及久留米市ヲ以テ區域トス

第三條 本組合ヲ福岡縣花筵同業組合ト稱シ組合事務所ヲ三潯郡木佐木村大字八町牟田九百九十三番地ニ置ク

第四條 本組合地區内ニ於テ左ノ事業ノ一種又ハ二種以上ヲ營ム者ヲ以テ組合員トス

一 製織業

(花筵又ハ莫蔭ヲ製織スルモノヲ云フ)

一 染色業 (花薙又ハ莫薩ノ染蘭ヲ染出スルモノヲ云フ)

一 經糸業 (花薙經糸ヲ撚糸スルモノ又ハ單ニ之ヲ賣買取引ヲナスモノヲ云フ)

一 篋業 (花薙製織篋製造スルモノ又ハ單ニ之ヲ賣買取引ヲナスモノヲ云フ)

一 花薙仲買業 (製織業者ヨリ買受ケタル花薙ヲ花薙仲次業者又ハ花薙賣込業者ヘ賣渡シ若クハ花薙仲買業者互ニ賣買スルモノ及賃織ヲナサシムルモノヲ云フ)

一 花薙仲次業 (花薙仲買業者又ハ製織業者ヨリ買受ケタル花薙(内國需用ノ花薙ヲ除ク)ヲ花薙賣込業者又ハ組合員外(輸出營業人ヲ除ク)ヘ賣渡スモノヲ云フ)

一 花薙賣込業 (花薙仲買業者又ハ花薙仲次業者若クハ其他ヨリ買受ケタル花薙ヲ輸出營業人ト直接ニ賣買取引ヲナスモノヲ云フ)

一 莫薩販賣業 (卸賣、小賣、觸賣ヲナスモノヲ云フ)

第五條 本組合ハ組合員協同一致シテ營業上ノ弊害ヲ矯正シ其利益ヲ増進スルヲ以テ目的トス

第二章 組合業務

第一款 証票及票紙

第六條 本組合ハ左記雛形ノ証票ヲ發行ス

一 花薙証票

買業
花薙
仲買
者
町市
郡市
大日本福岡縣花薙同業組合花薙証票
町市
郡市
製織
業者

一 輸送証票

輸送証票

福岡縣花筵同業組合

輸送者

一 染色証票

染色証票

福岡縣花筵同業組合

福岡縣郡市町村

染色業者

一 箴証票

箴証票

福岡縣花筵同業組合

福岡縣郡市町村

箴業者

一 莫蔴証票

莫 蔴 証 票

福岡縣都市町村

製織業者

福岡縣花蔴同業組合

福岡縣都市町村

莫蔴販賣業者

明治 年 月 日

第七條 花蔴証票、莫蔴証票ハ賣捌人ヲ指定シ發賣セシム

染色証票、輸送証票、箴証票ハ組合事務所ニ於テ直チニ之ヲ賣渡スモノトス

組合員組ハ合員外ニ証票ヲ賣買譲與ス可カラス

第八條 証票及票紙使用ノ方法ヲ定ムルヲ左ノ如シ

一 染色証票ハ染色業者ニ於テ自己ノ住所氏名ヲ記入シ第一種品染蘭壹本分ニ壹葉ヲ結付スヘシ

二 花蔴証票ハ製織業者ニ於テ自己ノ住所氏名ヲ記入シ第一種品壹本毎ニ壹葉前號ノ証票ト共ニ其織口

ニ織込ムヘシ

三 花蔴仲買業者第一種品ヲ取扱フキハ（花蔴仲次業者及花蔴賣込業者ニシテ製織業者ヨリ直接買受タルモノ亦同シ）製織業者ノ織込ミタル花蔴証票ニ其取扱人ノ住所氏名ヲ記入スヘシ

四 花蔴賣込業者又ハ花蔴仲次業者ハ第二號ニヨリ証票ヲ織込マサルモノヲ取扱フヲ得ス

五 花蔴賣込業者、花蔴仲次業者又ハ花蔴仲買業者ニ於テ花蔴ヲ輸送スルハ輸送証票ニ住所氏名ヲ記入シ壹本毎ニ之ヲ結付スヘシ

六 莫蔴販賣業者ニシテ内國需用ノ花蔴ヲ取扱フハ第三號乃至第五號ノ規定ヲ履行スヘシ

七 莫蔴証票ハ製織業者ニ於テ自己ノ住所氏名ヲ記入シ第二第三第四第五第六第七種壹把毎ニ各壹葉ヲ結付スヘシ莫蔴販賣業者本文ノ品ヲ取扱フハ製織業者ノ結付シタル証票ニ住所氏名及其年月日ヲ記入スヘシ輸送ノ便宜上規定ノ數量ヲ増加スルハ其割合ニ準シ証票ヲ増付スヘシ

八 箴証票ハ製造者ニ於テ自己ノ住所氏名ヲ記入シ箴壹個毎ニ壹葉ヲ貼付スヘシ

九 經糸業者ハ花蔴經糸壹本毎ニ自己ノ住所氏名ヲ記入シタル票紙ヲ結付スヘシ

十 組合地區外ニ於テ製造シタル証アルモノヲ取扱フハ其取扱人ニ於テ規定ノ証票又ハ票紙ヲ添付ス

ヘシ

前各號ノ規定ニ違フ者ハ之ヲ賣買讓與輸送又ハ其荷造ヲナスヘカラス

第九條 証票及票紙ハ再ヒ之ヲ使用スベカラス

第二欸 營業及製品取締

第十條 花蔴賣込業者、花蔴仲次業者、花蔴仲買業者ハ左記ノ信認金ヲ組合事務所ニ預入スヘシ

一 花蔴賣込業 金五百圓

一 花蔴仲次業 金貳百圓

一花菱仲買業

金貳拾圓

信認金ハ有價証券ノ時價額ヲ以テ之ニ代用スルコヲ得代用品ノ擔保價格ハ組長之ヲ指定ス

信認金ハ評議員會ノ指定シタル銀行ヘ組長ノ名義ヲ以テ寄托スルモノトス

信認金ハ過怠金若クハ賦課金ノ補足ニ充ツルコヲ得此場合ニ於テハ十四日以内ニ其欠額ヲ補充スヘシ

第十一條 左ノ各號ニ該當スルモノアルハ組合員相互ノ取引ヲ停止シ其旨公告ス

一 前條第一項ノ信認金ヲ預入セサルモノ又ハ第四項ノ欠額ヲ期間内ニ補充セサルモノ

二 第七十九條ノ賦課金ヲ期間内ニ納入セサルモノ

三 第十三條第三項ニ違フモノ

第十二條 前條取引停止ノ公告アリタルハ各組合員ハ其者ト營業上ノ取引ヲ爲スコヲ得ス

第十三條 組合員相互間ノ契約ニ關シ爭ヲ生シタル場合ニ組合ニ對シ和解又ハ仲裁ヲ請ハントスル者ハ契約締結ニ際シ豫メ其契約書ヲ提出シ組長ノ承認ヲ受クヘシ

組長ノ承認ヲ受ケタル契約ニ對シ違約者アリタルハ其狀況ヲ組長ニ申告スルコヲ得此場合ニ於テハ組

長ハ評議員會ノ意見ヲ聞キ和解又ハ仲裁ヲナスコアルヘシ

組合員ハ契約ノ不履行及營業ノ安固信用ヲ害スル不當ノ行爲ヲナスコヲ得ス

第十四條 組合外ノ者ニシテ本組合ノ業務ヲ阻害スルモノアルハ組長ハ評議員會ノ決議ヲ經六ヶ月以内

ノ期間ヲ以テ組合員ヲシテ其者トノ取引拒絶ヲ行ハシム

第十五條 取引拒絶施行前ノ契約ニシテ取引中途ニ属スルモノハ其取引ニ限り取引拒絶後ト雖モ組長ノ承

諾ヲ得テ繼續履行スルコトヲ得但當該取引者ニシテ取引拒絶實施前其取引高期限品目等ヲ具シ豫メ組長ノ

承諾ヲ得タル者ニアラサレハ繼續履行ヲ許サ、ルモノトス

前項ノ物品ハ引渡ノ都度組長ノ檢閲ヲ受クヘシ

第十六條 運送取扱業者ニシテ左ノ各號ニ該當スルハ第十四條ニ準シ組合員ヲシテ其者ニ荷物取扱ノ拒

絶ヲ行ハシム

一 組合員ノ出荷シタル現品ヲ監査スルトキ之ヲ拒ミタルモノ

二 荷主ノ不當行為ヲ幫助又ハ曲庇シ其他本組合ノ業務ヲ阻害スルモノ

第十七條 取引又ハ取扱ヲ拒絶セラレタルモノ改悛ノ情狀ヲ表シタルハ組長ハ評議員會ノ決議ヲ經テ其

取引又ハ取扱拒絶ヲ廢止ス但組合員ハ組長ヨリ一定ノ期日ニ依リ其廢止通知ヲ受ケタル後ニアラサレハ

取引又ハ取扱委託ヲ開始スルコトヲ得ス

第十八條 製品ヲ分ツテ七種トシ左ノ數量ヲ以テ壹本又ハ壹把トス

第一種 (第十九條表中綾地織以下拾四種目ヲ云フ) 壹本(九拾八尺モノ)

第二種 (貳間物、間落貳間物)

第三種 (一間半物)

第四種 (中繼表)

一把 (三)	一把 (四)	一把 (六)
十枚以上	十枚以上	十枚以上
三枚以下	六枚以下	六枚以下

第五種 (鯢表、七島表、菱、無地、花、機械織、)

第六種 (大目枕花、間落、九合、八合、七合、六合、)
(各種山、半中繼)

第七種 (坐莫蔭)

第十九條 製品ノ名稱定尺耳組ヲ定ムルヲ左ノ如シ

一把(六枚以上)
一把(二十五枚以上)
一把(三十五枚以上)
一把(百枚以下)

名	稱	長(鯨尺)	幅(鯨尺)	耳組
綾地	織	九十八尺	二尺四寸	二本以下
平地	織	全	全	全
機械	織	全	全	全
平地	飛込	全	全	全
機械	飛込	全	全	全
目迫	飛込	全	全	全
目迫貳百四十經	全	全	全	三本以下
目迫百八十經	全	全	全	全
目迫百五十經	全	全	全	全
目迫百二十經	全	全	全	全

目	迫	八	十	經	九	十	八	尺	二	尺	四	寸	三	本	以	下	
亭	立	八	分	目	並	五	分	目	全	全	全	全	全	全	全	全	
糸	經	八	分	目	並	五	分	目	全	全	全	全	全	全	全	全	
諸	目	貳	百	四	十	經	全	全	全	全	全	全	全	全	全	全	
二	間	物	十	尺	一	寸	二	尺	五	寸	二	尺	四	寸	二	尺	
間	落	二	間	物	十	尺	二	尺	四	寸	二	尺	四	寸	二	尺	
山	二	間	物	十	尺	以	上	二	尺	以	上	二	尺	以	上	二	尺
一	間	半	物	七	尺	六	寸	二	尺	五	寸	二	尺	五	寸	二	尺
本	間	表	中	繼	表	七	島	五	尺	一	寸	五	分	二	尺	五	寸
表	花	菱	無	地	機	械	織	五	尺	一	寸	五	分	二	尺	五	寸
大	目	枕	花	五	尺	二	尺	四	寸	五	分	二	尺	四	寸	五	分
間	落	物	四	尺	八	寸	二	尺	四	寸	二	尺	四	寸	二	尺	
九	合	物	四	尺	五	寸	二	尺	二	寸	五	分	二	尺	二	寸	
八	合	物	四	尺	一	寸	二	尺	一	寸	三	分	二	尺	一	寸	
七	合	物	三	尺	九	寸	二	尺	一	寸	三	分	二	尺	一	寸	
六	合	物	四	尺	一	寸	一	尺	七	寸	一	尺	七	寸	一	尺	

八	合	山	四	尺	二	尺	以	上
七	合	山	三	尺	七	寸	一	尺
並		山	三	尺	五	寸	一	尺
半	中	繼	三	尺	八	寸	一	尺
坐	莫	崖	一	尺	四	寸	以	上
			二	尺	以	下	一	尺
							九	寸
							以	下

第一種品ノ量目ハ政府ノ花薙検査量目程度ニ從フ目拔花薙ノ經糸數ハ本表ニ定メタル限ニアラス

第一種品ニハ本條定尺ノ外兩端ニ各二寸五分以上ノ區畫ヲ立テ素蘭ヲ織込ムヘシ但無地ハ此限リニアラ

ス

第一種品ハ幅二尺五寸ノモノヲ製織スルヲ得

本條ノ規定ニ違フモノハ製織又ハ賣買スルヲ得ス

第二十條 特ニ注文ノ証アルモノハ前條ノ定尺ヲ伸縮スルヲ得此場合ニ於テハ量目モ亦其割合ニ從ツテ増

減スルヲ要ス

如何ナル場合ト雖モ第一種品ニシテ單ニ量目ノミヲ減シ又ハ規定以上ノ耳組ヲナスノ注文ニ應スルヲ得
ス

第二十一條 第一種品ニシテ左ノ各號ニ該當スルモノハ之ヲ製出又ハ賣買スルヲ得ス

一 原料不齊一ノ甚タシキモノ枯藺其他不良ノ原料ヲ用ヒタルモノ又ハ藺切レ甚タシキモノ
 二 染色不完全濃淡不整ノモノ又ハ脫色スヘキモノ若クハ飛形ニシテ着色區劃判明ナラサルモノ
 三 模様ノ錯誤甚タシキモノ又ハ配置ヲ誤リ形狀ノ崩レタルモノ
 四 厚薄不同ノモノ織込薄ク經糸ノ現出甚シキモノ又ハ經糸ノ弛張甚タシキモノ敷延バシテ甚シキ彎曲
 狀ヲナスモノ

五 耳組ノ粗漏ナルモノ又ハ耳組不完全ニシテ藺ノ形狀蜿蜒彎曲セシモノ

六 幅ノ廣狹甚タシキモノ

第二十二條 腐敗若クハ變色シタル藺草及七島草又ハ燈心ノ拔殼等ヲ經緯ニ交ヘ製織又ハ賣買スルヲ得ス

第二十三條 第一種品ヲ製織スルニハ泥垢ヲ洗脫セス又ハ左ノ定尺ニ滿タサル藺草ヲ使用シ及其製品ヲ賣

買スルヲ得ス

一 等物

二尺七寸五分以上

(鯨尺)

二 等物

二尺四寸以上

(全)

三 等物

一尺八寸以上

(全)

第二十四條 第一種品經糸ニ綿糸ヲ用ヒルモノハ左表ノ通り之ヲ定ム

種 類	原 料	燃 合 數	片 耳 糸 數		糸 總 數	定 尺	干 揚 量	目
			內	外				

八十經	紡績綿糸二 十手	七行撚	二筋 以上	三筋 以上	八十六筋	百〇 二尺	百八十四匁以上
百二十經	全	六行撚	全	四筋 以上	百二十六筋	全	二百三十五匁以 上
百五十經	全	全	全	全	百五十六筋	全	二百九十匁以上
百八十經	全	全	全	全	百八十六筋	全	三百四十五匁以 上
二百四十 經	全	全	全	全	二百四十六 筋	全	四百六十匁以上
三百經	全	全	全	全	三百〇六筋	全	五百七十匁以上
三百六十 經	全	全	全	全	三百六十六 筋	全	六百八十匁以上

原糸十八手ノ煮糸ヲ用ユルハ八十經ハ六行其他ハ五行撚トナスヲ得
本條ニ定メタル經糸數外ノモノハ其割合ニ依ルヘシ

紡績麻糸ヲ用ユルモノハ八十經ニシテ三番以上耳糸二筋以上トス

本條ノ規定ニ違フモノハ撚糸又ハ賣買使用及其原糸ヲ購入スルヲ得ス

第二十五條 第二種品以下ニシテ經糸ニ紡績麻糸ヲ用ユル者ハ二行撚以上トス

百經以上ヲ除ク外經糸ニ綿糸ヲ用ユルヲ得ス但第一種不合格品ヲ横斷シタル者ハ此限リニアラス

第二十六條 第一種品ハ其製織業者ニ於テ干揚ケタル後ニアラサレハ之レヲ賣買スルヲ得ス

第二十七條 染蘭ヲ染出スル爲メ一市町村内八ヶ所以下ノ染場ヲ指定ス但市町村ノ形狀ニ依リ止ムヲ得サル場合ハ染場ノ數ヲ増加スルコトヲ得

染場ノ認許ヲ得サル者ハ前項ノ染蘭ヲナスヲ得ス

染場ノ許否ハ評議員會ノ協賛ヲ經テ組長之ヲ決ス

第二十八條 第十九條表中ノ品ヲ製織シ若クハ製織セシムル者ハ前條ノ染場ニ於テ染出セル染蘭ノ外之ヲ使用スルコトヲ得ス

第二十九條 染蘭ハ洗滌シタル後干揚ク可シ

第三十條 染蘭及捺染品ハ染色見本ニ適合セサルモノ及第二十一條中ノ第二號ニ該當スルモノヲ染出又ハ販賣スルヲ得ス

第三十一條 染色業者ノ不注意又ハ怠慢等ノ爲メ染色不合格ノ染蘭ヲナスコト數回ニ及フモノ若クハ染色ノ改良ニ障礙ヲ與フル者アリト認ムルキハ染場ヲ停止シ又ハ其認許ヲ取消スコトアルヘシ

第三十二條 本組合ニ於テ使用スル箴ハ左ノ規定ニ依ル可シ

摘要	八十經	百二十經	百五十經	百八十經	二百四十經	三百經	三百六十經
經糸目	七十九目	百十七目	百四十七目	百七十七目	二百三十目	二百九十目	三百五十目

本表ニ定メタル經糸目ノ箴ニテ第一種品ノ幅ニ廣狹ヲ生スルモノ又ハ竹硝子混用シテ製造スルヲ得ス
箴ハ編ミタル糸ノ内側表裏共必ス竹ヲ貼付スヘシ

本條ノ規定ニ違フモノハ之ヲ製造賣買又ハ使用スルヲ得ス

第三十三條 定款違反ノ現品ヲ發見シタル片第一種品ハ十八個ニ横斷シ定尺ニ滿タサルモノハ之ニ準シ相當個數ニ横斷シ本人ニ還付スルモノトス

其他ノ品ハ封印ヲ施シ其違犯ニ關スル証據物件ヲ處分決定迄一時組合事務所ニ押收シ若クハ本人ニ保管セシムルヲアルヘシ但組合事務所ニ押收スル場合ハ其預リ証ヲ交付スヘシ

組合員ハ故ナク之ヲ拒ムヲ得ス

第三十四條 製品又ハ製造中ノモノニシテ不合格ト認ムルモノアル片ハ仮リニ封印ヲ施シ保管ヲナサシメ製造、乾燥、修補濟ノ上更ニ監査ヲ行フモノトス

組合員ハ故ナク之ヲ拒ムヲ得ス

第三十五條 前二條ノ封印アル現品ハ其封印ヲ解キ又ハ賣買譲與スヘカラス

第三十六條 定款違反ノ現品ヲ藏匿シタルモノアリト認ムルハ其居宅倉庫船舶等ニ立入り監査スルヲ得

組合員ハ故ナク之ヲ拒ムヲ得ス

第三十七條 第三十三條第一項ノ執行ヲ拒絕シタルハ違約處分ニ付シ尙ホ其現品ハ之ヲ沒收スルモノトス

第三十八條 附屬者又ハ家族ノ所爲ニ付テハ組合員其責ニ任ス

第三款 違約處分

第三十九條 第七條末項第八條第九條ヲ犯シタル者アルハ証票及票紙一葉ニ付貳拾錢以上拾圓以下ノ過

怠金ヲ課ス

第四十條 第十九條末項第二十條第二項第二十一條第二十三條第二十四條末項第二十六條ヲ犯シタル者アルハ一本又ハ一枚ニ付貳拾錢以上拾圓以下ノ過怠金ヲ課ス

第四十一條 第二十七條第二項第二十八條第二十九條第三十條ヲ犯シタル者アルハ一本分又ハ一本分ニ付五拾錢以上拾圓以下ノ過怠金ヲ課ス

第四十二條 第二十二條第二十五條ヲ犯シタル者アルハ一本又ハ一枚ニ付貳拾錢以上五圓以下ノ過怠金ヲ課ス

第四十三條 第三十二條末項ヲ犯シタル者アルハ一個ニ付壹圓以上拾圓以下ノ過怠金ヲ課ス

第四十四條 第三十三條末項第三十四條末項第三十五條第三十六條末項ヲ犯シタル者又ハ第十條第一項ニ該當スル者ニシテ營業資格屆(變更屆モ之ニ含有ス)ヲ怠タル者アルハ貳圓以上參百圓以下ノ過怠金ヲ課ス

第四十五條 第八十七條ノ証札ヲ携帯セサル者アルハ拾錢以上貳圓以下ノ過怠金ヲ課ス

第四十六條 第十二條ヲ犯シタル者又ハ第十四條第十五條第十六條第十七條但書ノ取引或ハ荷物取扱拒絕ニ違背スル者アルハ五圓以上五百圓以下ノ過怠金ヲ課ス

第四十七條 數犯俱發シタルハ一ノ重キニ從ツテ處分シ再犯以上ニ係ルハ各犯件ニ付過怠金五割以內ヲ增課ス

第四十八條 過怠金ハ處分通知書送達ノ日ヨリ十四日以內ニ組合事務所ニ納入スヘシ

過怠金納入ノ義務ヲ怠ルモノアルハ起訴ノ手續ヲ爲スヘシ

信認金ヲ預入シアルモノハ本人ニ通知ノ上過怠金ニ充ツルコトアルヘシ本項ノ場合ニ於テ尙ホ不足ヲ生スルハ其不足額ニ對シ前項ノ手續ヲナスモノトス

第四十九條 定款違犯ノ爲メ押收シタル証據物中不合格染蘭ハ之ヲ沒收シ第一種品ハ第三十三條ニ準シ之ヲ横斷シ第二種品以下ハ烙印ヲ捺シ箴ハ一方ノ組糸ヲ切斷シ經糸ハ四個ニ切斷シ過怠金納入濟ノ上本人ヘ還付ス

第三章 組合機關

第一款 役員資格選舉及任期

第五十條 本組合ニ左ノ役員ヲ置ク

一組長 一名 一副組長 一名 一評議員 九名

第五十一條 左ノ各號ニ該當スル者ハ役員タルヲ得ス

一 本組合地區内ニ於テ花蒔又ハ莫産ノ製織、染色、經糸、箴業、花蒔仲買、花蒔仲次、花蒔賣込、莫産販賣等ノ業ニ從事シ一ケ年ヲ經サルモノ

二 丁年未滿ノモノ及女子

三 重禁錮一年以上ノ刑ニ處セラレ又ハ商業及農工業ヲ妨害スル罪財産ニ對スル罪風俗ヲ害スル罪及信用ヲ害スル罪ヲ犯シ刑ニ處セラレ滿期又ハ赦免後二ケ年ヲ經サルモノ及本組合定款ニ違犯シ違約處分ヲ受ケ二ケ年ヲ經サルモノ

四 公權ヲ剝奪セラレタル者又ハ其停止中ノ者

五 復權セサル破産者及家資分散者

第五十二條 役員ハ組合會ニ於テ之ヲ選舉ス

第五十三條 選舉ハ投票ノ多數ヲ得タル者ヲ以テ當撰トス同点者二名以上アルキハ年長者ヲ採リ同年ナル者ハ抽籤ヲ以テ之ヲ定ム

辭任其他ノ事由ニヨリ役員ニ欠員ヲ生シタル時ハ通常會ヲ待ツコト能ハサル場合ニ限り臨時會ヲ開キ補

欠撰學ヲナス者トス

第五十四條 役員ノ任期ハ滿四ケ年トシ滿期再撰スルコトヲ得但任期滿了後ト雖凡後任者就任迄ハ其職務ヲ行フモノトス

第五十四條ノ二 本組合ニ顧問若干名ヲ置クコトヲ得

顧問ハ評議員會ニ於テ薦推シ其任期ハ役員ノ任期ニ同シ

第二欸 役員權限

第五十五條 組長ハ本組合ヲ代表ス

組長ハ組合ヲ總理シ業務ヲ遂行スルニ付必要ノ處置ヲ行フ

第五十六條 副組長ハ組長ヲ補佐シ組長事故アルル之ヲ代理ス

第五十七條 評議員會ニ於テ議定若クハ認定スヘキ事件左ノ如シ

一 出張所ノ設置廢止

二 違約者處分

三 職員ノ任免黜陟并ニ賞罰

四 庶務會計ノ監査

五 組合經費ノ決算及業務成績ノ認定

六 事務執行上ノ諸規程

七 豫備費ノ支出

八 組長ノ諮詢ニ答ヘ又ハ意見ヲ開陳スルコト

評議員會ノ召集、議長、開會、決議ニ關シテハ第七十四條乃至第七十七條ノ規定ヲ準用ス但庶務會計ノ監査ニ限リ評議員ノ互撰ヲ以テ議長ヲ定ム

第三款 職員事務

第五十八條 本組合ニ左ノ職員ヲ置ク

一 理事一名

一 書記若干名

一 監査員二十名以下

第五十九條 理事及書記ハ組長ノ指揮ヲ受ケ庶務、會計ノ事務ニ從事シ監査員ハ組長及理事ノ指揮ヲ受ケ定款違反者ノ巡察事務ニ從事ス

第四章 組合會

第六十條 組合會ハ撰舉區畫中ヨリ撰出セル代表員ヲ以テ組織ス

代表員ハ製織業者、販賣業者ヨリ各総員ノ半數ヲ撰出ス（本條ニ於テ販賣業ト稱スルハ花筵賣込業者、花筵仲次業者、花筵仲買業者、莫蔭販賣業者、染色業者、經糸業者、箴業者ヲ云フ）但販賣ト製織ト兼業ノモノ、撰被撰權ハ總テ販賣業ノミニ屬スルモノトス

撰舉區畫及代表員并ニ豫備員數ハ左表ノ通り之ヲ定ム

區 別		所 属 郡 市 町 村 名		製 織 業 者		販 賣 業 者	
				代 表 員	正 員	代 表 員	正 員
第 一 區	三 瀧 郡	木 佐 木 村		二	二	二	二
第 二 區	全	大 莞 村		二	二	二	二
第 三 區	全	蒲 池 村		二	二	二	二
第 四 區	全	田 口 村		二	二	二	二
第 五 區	全	濱 武 村、久 間 田 村		一	一	一	一
第 六 區	全	川 口 村 大 野 島 村		一	一	一	一
第 六 區	全	大 川 町		一	一	一	一
第 六 區	全	三 又 村		一	一	一	一

第七區	三潞郡 木室村	二	二	二	二
第八區	全 大溝村	一	一	二	二
第九區	全 江上村	一	一	一	一
第九區	全 青木村	一	一	一	一
第十區	全 城島町	一	一	一	一
第十一區	全 三潞村、西牟田村、犬塚村、大善寺村、安武村 荒木村、鳥飼村	一	一	一	一
第十二區	久留米市 八女郡 古川村、八幡村、三河村、上妻村、福島町、長峰村 岡山村、羽犬塚村、上廣川村、中廣川村、下廣川村 忠見村、川崎村、横山村、北川内村、星野村、矢部村 笠原村、大淵村、木屋村、黒木町、豊岡村、串 毛村、邊春村、光友村、北山村、白木村	一	一	一	一
第十二區	全 二川村	一	一	一	一

第二十區	全	三池郡一圓							
	瀨高町、山川村、東山村		一	一	一	一	一	一	一
第十九區	全	元川邊村	二	二	一	一	一	一	一
第十八區	全	元宮ノ内村	一	一	一	一	一	一	一
第十七區	全	元垂見村	一	一	一	一	一	一	一
	全	元有明村、元鹽塚村、元鷹尾村	一	一	一	一	一	一	一
第十六區	全	柳河町、城内村、沖端村、西宮永村、東宮永村、兩開村	一	一	一	一	一	一	一
第十五區	山門郡	元川北村	一	一	一	一	二	二	二
第十四區	八女郡	下妻村	一	一	一	一	二	二	二
第十三區	全	水田村	二	二	一	一	一	一	一

第六十一條 代表員及豫備員ハ組合員之ヲ公撰シ其任期ヲ滿四ケ年トス但滿期再撰スルコトヲ得

第六十二條 組長ハ代表員撰舉ニ關スル一切ノ事務ヲ管理ス但其事務ヲ役員又ハ官公衙ニ囑托スルコトヲ得

第六十三條 組長ハ豫メ各撰舉區ニ於テ組合員中ヨリ三名ノ撰舉立會人ヲ囑托スルモノトス

第六十四條 撰舉名簿ハ撰舉期日二十日以前ノ現在組合員ニヨリ之ヲ調製ス

撰舉名簿ハ撰舉ノ當時各撰舉場ニ備ヘ置クモノトス

第六十五條 組長ハ撰舉ノ日時場所各撰舉區ニ於ケル撰出代表員ノ數ヲ撰舉期日七日前之ヲ告示ス

第六十六條 投票用紙ハ撰舉場ニ於テ交付スルモノトス

第六十七條 撰舉ハ記名投票トシ撰舉場ニ於テ撰舉人自ラ之ヲ行フモノトス

第六十八條 投票ニハ定數被撰舉人ノ氏名ヲ記シ撰舉人記名調印スヘシ但自書シ能ハサル者ハ書記ニ托シ

代書セシムルコトヲ得

第六十九條 左ノ投票ハ無効トス

一 一定ノ用紙ヲ用ヒサル者

二 被撰舉人ノ姓名ヲ認知スヘカラサル者

三 被撰舉ノ資格ナキモノ、姓名ヲ記載シタル者但連名中ニ資格アルモノハ有効トス

四 第六十八條ノ規定ニ違背シタル者

第七十條 投票ニ記載ノ人員定數ヨリ多キ時ハ末尾ヨリ順次除却ス其足ラサル者ハ現ニ記載シアルモノ、

ミヲ採リ姓名ヲ復記シタル者ハ一人トシテ採点ス

第七十一條 前數條ノ外第五十一條第五十三條第一項第二項ノ規程ヲ準用ス

第七十二條 會議ヲ分ツテ通常會及臨時會ノ二種トス

通常會ハ毎年一月臨時會ハ組長ニ於テ必要ト認ムル場合又ハ評議員三分ノ二以上及代表員三分ノ一以上ノ請求アル片之ヲ開ク

第七十三條 組合會ニ於テ議決スヘキ事項左ノ如シ

一 組合經費ノ豫算并ニ徵收法

二 組合業務ニ關シ行政廳ニ建議ヲ要スル事項

右ノ外組合ニ關スル重要事項

第七十四條 組合會ハ組長之ヲ召集ス

組長ハ會議ノ目的事項日時及場所等ヲ指定シ召集期日一週間前ニ代表員ニ通知スヘシ但緊急ノ場合ニ於テハ日時ヲ短縮スルコトヲ得

第七十五條 議長ハ組長ヲ以テ之ニ充ツ組長事故アル片ハ副組長之ニ代リ副組長事故アル片ハ代表員中ヨリ互撰ス

第七十六條 組合會ハ過半數ノ出席員アルニアラサレハ開會スルヲ得ス但同一事件ニ付召集再會ニ至ルモ

尙ホ過半數ニ滿タサル場合ハ此限リニアラス

第七十七條 組合會ノ決議ハ多數ヲ以テ之ヲ定ム可否同數ナルキハ議長之ヲ決ス

第五章 會計

第七十八條 本組合ノ會計年度ハ毎年四月一日ニ始マリ翌年三月三十一日ニ終ル

第七十九條 本組合ノ經費ハ証票料及賦課金其他雜收入ヲ以テ之ヲ支辨シ賦課金額及其徵收方法ハ毎年總會ニ於テ之ヲ定ム

第八十條 証票、証札及証札書換料金ヲ定ムルコト左ノ如シ

証票料表

摘	要	花 証票 一葉ニ付	輸送 証票 一葉ニ付	染色 証票 一葉ニ付	莫 証票 一葉ニ付	箴 証票 一葉ニ付
料	金	六錢以下	貳錢以下	貳錢以下	參錢以下	貳錢以下

証札料及証札書換料表

摘	要	証 札 料 一葉ニ付	証 札 書換料 一葉ニ付
花 証	仲 買 業 者 証 札	五圓以下	壹圓以下

花 蕊 仲 次 業 者 証 札	貳 拾 圓 以 下	貳 圓 以 下
花 蕊 賣 込 業 者 証 札	五 拾 圓 以 下	五 圓 以 下
製 織 業 者 証 札	四 拾 錢 以 下	拾 錢 以 下
經 糸 業 者、 篋 業 者、 莫 薤 販 賣 業 者 証 札	壹 圓 以 下	貳 拾 錢 以 下
經 糸 販 賣 業 者 者 携 帶 証 札	五 拾 錢 以 下	拾 錢 以 下
花 蕊 仲 買 業 者 付 屬 員 莫 薤 販 賣 業 者 付 屬 員	五 拾 錢 以 下	拾 錢 以 下
染 色 認 許 証 札	五 圓 以 下	五 拾 錢 以 下

第八十一條 組長以下報酬給料旅費日當ハ組合會之ヲ定ム

第八十二條 豫算費目中一欸内ノ項目ハ評議員會ノ諮詢ヲ經組長ニ於テ適宜流用スルコトヲ得

第八十三條 組合經費ノ決算及業務成績ハ評議員會ノ認定ヲ經組合員ニ公示シ主務官廳ニ報告スルモノト

ス

第六章 加入及脱退

第八十四條 本組合ニ加入セント欲スルモノハ其區内代表員一名以上ノ連署ヲ以テ組合事務所ニ届出テ

(染色業者ハ其認許ヲ受ケタル後)其証札ヲ受クヘシ但信認金ヲ要スルモノハ其營業資格届ニ信認金ヲ添ヘ差出スヘシ

第八十五條 組合員改名轉籍其他ノ事由ニ因リ証札書換ヲ要スルハ組合事務所ニ請求スヘシ

但信認金アルモノニシテ營業資格ヲ變更シタルハ同時ニ該届書ヲ差出シ信認金ノ追預又ハ其還付請求ノ手續ヲナスヘシ

第八十六條 廢業其他ノ事由ニ因リ本組合ヲ脫退セント欲スル者ハ証札ヲ添ヘ組合事務所ニ届出ツヘシ

但信認金アルモノハ其還付ヲ請求スヘシ

前項ノ手續ヲナサルモノ又ハ地區外ニ轉住若クハ死亡等ニ依リ脫退ノ届出ヲナス者ナキハ市町村長ノ証明ニ依リ組合員名簿ヲ除却スルモノトス

第七章 証 札

第八十七條 組合員証札ノ種類及其雛形ヲ定ムルコト左ノ如シ

一 「製織業者」「經糸業者」「箴業者」「莫蔴販賣業者」之証

一 「莫蔴販賣業者」及「經糸業者」携帶証

一 花蔴仲買業者附屬員携帶証

一 莫蔴販賣業者附屬員携帶証

一 染色認許証

一 花蒔仲買業者之証

一 花蒔仲次業者之証

一 花蒔賣込業者之証

七 寸

第何號

福岡縣花蒔同業組合員之證

住 所

何 業 者

氏

名

製織業者、經糸業者、箴業者、莫塵販賣業者右ニ倣フ

三寸五分

第何號

福岡縣花蒔同業組合員攜帶證

住 所

莫塵販賣
經 糸業者

氏

名

四七

三寸五分

第何號

福岡縣花蒔同業組合員攜帶證

一寸五分

住 所
花蒔仲買業者
附屬員

氏

名

三寸五分

第何號

福岡縣花蒔同業組合員攜帶證

一寸五分

住 所
花蒔販賣業者
附屬員

氏

名

一 尺

第何號

福岡縣花蒔同業組合染色認許之證

一寸

住 所
染色業者

氏

名

第何號

一 尺

福岡縣花蒔同業組合員之證

住所

花蒔仲買業者

氏

名

一 尺

第何號

福岡縣花蒔同業組合員之證

住所

花蒔賣込業者
花蒔仲次

氏

名

第八章 定款變更

第八十八條 此定款ノ變更ヲ要スルハ組合會ニ於テ三分ノ二以上ノ同意ヲ得テ決議シ主務大臣ノ認可ヲ

受クヘシ

第九章 解散及清算

第八十九條 本組合ハ左ノ場合ニ於テ解散ス

一 組合員五分ノ四以上ノ同意ヲ得テ之ヲ決議シ主務大臣ノ認可ヲ受ケタルトキ

二 主務大臣ノ命令

第九十條 本組合解散ヲナシタル場合ト雖モ清算ノ目的ノ範圍内ニ於テハ尙ホ存續セルモノト見做ス

第九十一條 本組合解散ノ場合ニ於テハ組長副組長ヲ以テ清算人トナス

組長副組長清算人トナル能ハサルトキハ評議員ノ互撰ヲ以テ三名ノ清算人ヲ撰任ス

第九十二條 清算人ノ職務權限左ノ如シ

一 現務結了

一 債權取立及債務ノ辨濟

一 殘餘財産ノ引渡

清算人ハ前掲職務ノ完了ニ關シ凡テ裁判上裁判外ノ行爲ヲナス權限ヲ有ス

第九十三條 清算人ハ本組合解散後一週間内ニ其氏名住所解散ノ原由及年月日ヲ公告スヘシ

第九十四條 清算人ハ就職後遲滯ナク組合財産ノ現況ヲ調査シ財産目錄及貸借對照表ヲ作り組合員ニ公示ス可シ

第九十五條 清算人ノ就職ノ日ヨリ二ヶ月以内ニ三回以上公告ヲナシ債權者ニ對シ第一公告日付ヨリ二ヶ月以内ニ請求ノ申出ヲナスヘキヲ催告シ尙此期限内ニ申出ヲナサ、ルキハ其債權ハ清算ヨリ除外セラル可キヲ附記スヘシ

第九十六條 清算ノ結果組合財産ニ剩餘ヲ生シタルキハ評議員會ノ意見ヲ聞キ之ヲ類似ノ目的ヲ有スル團體ニ寄附スヘシ

若シ類似ノ目的ヲ有スル團體ナキハ組合員ニ分配ス清算ノ結果組合財産ニ不足ヲ生シタルキハ評議員會ノ決議ヲ經其當時ノ組合員ニ賦課徵收スルモノトス

第九十七條 清算人清算ヲ完了シタルキハ遲滯ナク清算始末書ヲ作り組合員ニ公示シ且主務官廳ニ届出ツヘシ

第九十八條 組合ノ業務ニ關スル緊要ノ帳簿書類等ハ適當ノ保管者ヲ指定シ組合解散後十年間之ヲ保存スルモノトス

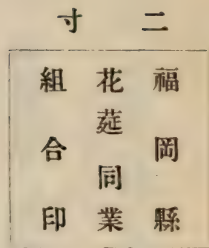
第十章 雜則

第九十九條 本組合ハ組合相互ノ氣脈ヲ通シ其目的ヲ達スルニ必要ナリト認ムルキハ他ノ同業組合ト共ニ同業組合聯合會ヲ設置スルコトヲ得此場合ニ於テハ組合會ノ決議ヲ經ルヲ要ス

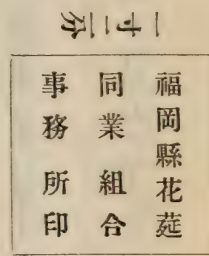
第一百條 組合事務所ハ組合ノ業務及業合員營業上ノ狀況ニ關シ必要アリト認ムルキハ之ヲ組合員ニ報告スヘシ

第一百一條 本組合ニ於テ使用スル印章左ノ如シ

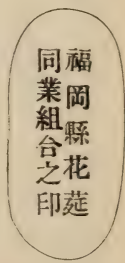
二 寸



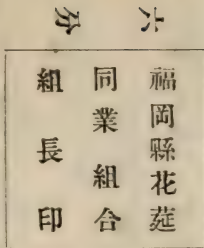
一寸二分



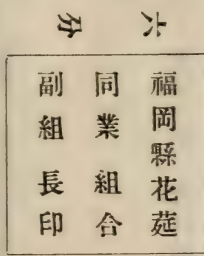
一寸四分



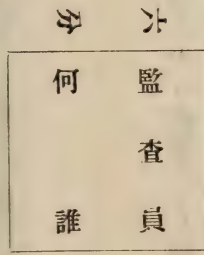
六 分



六 分



六 分



附 則

第二百二條 此定款ヲ實施スルニ必要ナル方法細則ハ評議員會ノ協賛ヲ經テ組長之ヲ定ム

第二百三條 増員ノ爲メ新ニ撰舉セラルヘキ代表員ハ現任代表員改撰期ニ於テ之ヲ撰舉ス

第二百四條 役員又ハ代表員ヲ減員スルハ滿期改撰ノ際之ヲ行フモノトス

第二百五條 定款變更ノ結果証札ノ書換ヲ要スヘキモノハ組合事務所ノ通知ヲ受ケタル日ヨリ十四日以内ニ

其書換ヲ請求スヘシ

決議要項

第一 評議員會分任事項

- 一 主務官廳ノ諮問ニ對スル調査報告ヲ議定スルコト
- 二 經費ノ流用一時借入金及金額百五十拾圓以下ノ豫算外支出ヲ議定スルコト
- 三 緊急事件ニ對シ組合會ヲ召集スル能ハサル場合ニ於テ其事件ヲ議定スルコト但此場合ニ於テハ後日組員會ノ承認ヲ求ムルヲ要ス

定款第八十一條ニ據リ組長以下報酬給料旅費日當ヲ定ムルコト左ノ如シ

給 額 表

名 稱	報 酬	月 俸
組 長	四百圓以下	
副 組 長	參百圓以下	
評 議 員		
代 表 員	五圓以下	
理 事		拾五圓以上參拾圓以下
書 記		七圓以上貳拾五圓以下

監 査 員

七圓以上貳拾五圓以下

現行定款中多少ノ変更アリシモ其変更ノ重ナル点ハ先述原料タル蒲草ノ改良ヲ
圖ル為メ蒲草生産業者及蒲草販賣業者ヲ組合員中ニ組織シ以テ之ヲ取締ノ法
ヲ規定セシモノナリ

第一條 旅費ノ役員職員公務ニ依リ旅行スル時之ヲ支給ス

第二條 旅費ハ等級ヲ分ツテ三等トシ別表定ムル處ノ順路ノ里程ニ依リ之ヲ支給ス

第三條 汽車旅行ニハ哩數ニ應シ汽車賃ヲ海路旅行ニハ海里數ニ應シ汽船賃ヲ其他ノ旅行ハ陸路旅行トシ
テ里數ニ應シ車馬賃ヲ日當ハ日數ニ應シ宿泊料ハ泊數ニ應シ之ヲ支給ス

但非常急劇或ハ夜中旅行ノ場合ハ車馬賃ニ限リ其二倍ヲ給ス

第四條 汽車賃汽船賃車馬賃ハ旅行ノ種類毎ニ經過セシ路程ヲ合算シテ之ヲ支給ス

但一里及一哩未滿ノ端數ハ切捨トス

第五條 旅費ハ陸路片道一里未滿ノ旅行ニハ支給セス

但公務ノ都合ニ依リ宿泊ヲ要スルトキハ宿泊料ヲ支給ス

第六條 役員、顧問、代表員及委員ハ一等理事ハ二等書記、監査員（車馬賃ハ片道三里以上日當及宿泊料

ハ地區外出張ノトキニ限ル）ハ三等旅費ヲ給ス

第七條 旅費日當支給等級表ハ左ノ如シ

摘要			日		宿泊料	
三等	二等	一等	汽船	陸路	地區內	地區外
貳	參	參	一哩	一里	地區內	地區外
錢拾五	錢拾五	錢貳拾	八拾錢	壹圓	壹圓貳拾錢	壹圓貳拾錢
錢拾五	錢拾五	錢貳拾	壹圓	壹圓貳拾錢	壹圓貳拾錢	壹圓貳拾錢
錢拾五	錢拾五	錢貳拾	壹圓	壹圓貳拾錢	壹圓貳拾錢	壹圓貳拾錢
錢拾五	錢拾五	錢貳拾	壹圓	壹圓貳拾錢	壹圓貳拾錢	壹圓貳拾錢
錢拾五	錢拾五	錢貳拾	壹圓	壹圓貳拾錢	壹圓貳拾錢	壹圓貳拾錢
錢拾五	錢拾五	錢貳拾	壹圓	壹圓貳拾錢	壹圓貳拾錢	壹圓貳拾錢
錢拾五	錢拾五	錢貳拾	壹圓	壹圓貳拾錢	壹圓貳拾錢	壹圓貳拾錢
錢拾五	錢拾五	錢貳拾	壹圓	壹圓貳拾錢	壹圓貳拾錢	壹圓貳拾錢

第八條 監查員地區內巡察又ハ出張所勤務ノトキハ各別表定ムル處ノ手當ヲ支給ス

巡察手當表

巡察區域		手當
本佐木村、大莞村、蒲池村、田口村、木室村、大溝村、水田村ノ内（四ヶ所江口、富久、高江、庄島、富重、若菜、長崎、野町、上北島、水田下北島、折地、古島、島田、井田）		拾五錢
濱武村、久間田村、川口村、大野島村、大川町、三叉村、江上村、青木村、城島町、三瀝村、犬塚村、西牟田村、羽犬塚村、水田村ノ内（尾島、志、津島、常用、中折地、下妻、富安、馬間田、中牟田）		

城内村、冲端村、西宮永村、東宮永村、三橋村ノ内（新村、吉開、柳河、枝光、高畑、下百町、蒲船津、正行、百町、久末、中山、起田、磯島、江曲、藤吉、今古賀、木元）

柳河町

大善寺村、荒木村、兩開村、三橋村ノ内（垂見、白島、柵町、五十町）大和村ノ内（六合、鷹尾、島鹽塚、豊原、徳益）

以上ニ掲ケサル谷市町村

貳拾錢

四拾錢

六拾錢

出張所勤務手當表

摘 要	羽犬塚大川兩出張所	瀬高出張所
手 當	五拾錢	六拾錢

以上掲載セル一規約ニ定款以テ本組合ガ今日ニ至レル變遷ノ大要ヲ見ル可シ其間年ヲ閱スル二十年組合狀態ノ變遷ト業務ノ進捗トニ伴ヒ幾ント毎年規約定款ノ變更ヲ必要トシ之ヲ企畫シ之ヲ實行シタルモ其詳細ニ至リテハ煩ヲ避ケテ之ヲ略セリ

第三節 組合員ノ變遷

本組合員中販賣業ニ属スル部分ハ明治十九年己ニ組合ノ創立ヲ見タリト雖製織業者カ組合ヲ設立セシハ明治廿八年ノコナリ爾後一兩年間兩々相分立シタルヲ以テ業務ノ進捗頗ル不便ヲ感シタリ、然ルニ明治三十年六月兩者ノ打シテ一團トナルヤ組合狀態ニ一進歩ヲ與ヘタルコト恰モ車ノ兩輪初メテ具備セルノ觀アリ明治三十二年重要輸出品同業組合法ニヨリテ更ニ組合ノ組織ヲ變更シタルモ之カ要素タル組合員ハ猶ホ販賣、製織二業ニ止リタリ爾後組合業務ノ整頓シ取締法ノ細密ヲ加フルニ從ヒ染色業者ヲ組合員ノ一部トナスノ必要ヲ感シ明治三十四年之ヲ組合員ノ一部ニ加ヘタリ尋テ全一ノ理由ノ下ニ全三十五年經系業者ヲ加ヘ全三十六年箴業者ヲ加ヘ全三十九年ニ至リテハ更ニ販賣業者ヲ割キテ賣込仲次、仲買、販賣ノ四種ニ區別シ今ヤ本組合ニ抱含スル組合員ノ種類ハ製織、販賣、仲買、仲次、賣込、染色、經系、箴ノ八種ヲ數フルニ至リ此上若シ花筵ノ最要原料タル蘭草ノ產出者ヲ組合員ノ一部ニ數ヘ以テ之カ取締ヲ實行スルニ至ラバ本組合ノ能事殆ンド茲ニ悉セリト謂フ可シ今左ニ順次組合員數ノ變化増減ヲ表示シ組合盛衰ノ一斑ヲ窺フノ資料トナサン即チ

明治二十六年ヨリ三十一年ニ至ル本組合員數表

年 別	販 賣 業 者	製 織 業 者	計
明治廿六年	八四三		
全 廿七年	九三〇		
全 廿八年	一、〇一三	三、五三〇	四、五四三
全 廿九年	一、〇五五	四、〇九二	五、一四七
全 三十年	一、一二八	四、二〇五	五、三三三
全 卅一年	一、三三三	四、八七〇	六、二〇三

備考廿六、廿七年ハ製織業組合設置前ニ付其人員ヲ掲ケズ

明治三十二年以降組合員數表

製織業者人員表

町 村 名	卅二年 組合設立ノ際	卅三年 三月	卅四年 三月	卅五年 三月	卅六年 三月	卅七年 三月	卅八年 三月	卅九年 三月	四十年 二月	四十一年 三月	四十二年 三月
水佐木村	六六六	六六八	六九六	七〇〇	七三三	七五五	七九二	七五七	七六七	七三三	七三二

大 莞 村	蒲 池 村	田 口 村	濱 武 村	久 間 田 村	川 口 村	大 野 島 村	大 川 町	三 又 村	本 室 村
五二三	六五三	五八〇	四三	二〇	一六		七二	二三五	六八九
五二七	六五八	五八六	四五	二二	二〇		八一	二三五	六九三
五三四	六九〇	六〇一	七九	一〇四	二六	一	一八九	二八〇	七〇〇
五五〇	七三七	六二四	一〇五	二四	一七二	六	二七〇	三〇一	七二〇
五五七	七五七	六八	二五	一八七	二四〇	三三	三五〇	三〇七	七三四
五六一	七六六	六九	二七	一九八	二五七	三九	三六一	三二一	七三八
五六一	七六八	六二一	二八	二〇七	二六三	三九	三六三	三二一	七四一
五六六	七八一	六四五	一四二	二三一	三〇一	四一	三七八	三二一	七五七
五七六	八〇七	六五二	一四八	二五五	三二一	四一	三六六	三四八	七五七
五五五	七五六	六二五	一三七	二四九	二九九	二六	三〇〇	三八	七二四
五二三	七四八	五九二	一一八	二二五	二八八	二九	三〇一	三〇六	六九九

郡

町村	組合設立ノ際	卅二年	卅三年	卅四年	卅五年	卅六年	卅七年	卅八年	卅九年	四十年	四十一年	四十二年
大溝村		二九四	二九五	三三八	三五五	三九八	四〇九	四〇九	四一六	四一八	四〇四	四〇二
江上村		二七八	二八〇	三二三	三六六	三六六	三四二	三四一	三五八	三五七	三四八	三四二
青木村		九五	一二二	一四三	一六六	一六八	一七二	一七一	一七〇	一七三	一六〇	一六八
城島町			一八五	三〇六	三三三	三三九	三三九	三三九	三三二	三三二	二七三	二六七
三淵村				二五	二五	二五	二七	二七	二七	二七	三〇	二八
大善寺村		二五	二五	二五	二五	二六	二六	二六	二七	二八	二三	二三
安武村				二	二	二	三	三	三	三	一	一
荒木村				一	一	一	二	二	二	二	一	一
鳥飼村			一	一一	一八	一八	一八	一八	一八	一八	六	六

八

西牟田村	犬塚村	計	水田村	羽犬塚村	下廣川村	中廣川村	上廣川村	横山村	星野村
一〇		四、一九八	六九四						
一五		四、四五五	七八						
二三		五、一六四	七九五						
二五		五、五六八	八七三	七	一				
二九	六	五、九六八	九四八	一三	一				
二八	九	六、〇八五	九八二	一八	一				
二八	九	六、二四	九八三	一八	一				
二七	九	六、三九	九九八	一八	一				
二七	九	六、四三	一、〇二四	一八	一				
一二	四	五、九六三	八九四	八					
一一	四	五、七九二	九〇八	六					

女

町村名	冊二年 組合設 立ノ際	冊三年 三月	冊四年 三月	冊五年 三月	冊六年 三月	冊七年 三月	冊八年 三月	冊九年 三月	冊十年 三月	冊十一年 三月	冊十二年 三月
笠原村											
北川内村					一	一	一	一	一		
川崎村											
忠見村	一	一	一								
福島町											
長峰村											
岡山村					二	二	二	二	二		
古川村					一	一	一	一	一		
八幡村				二	五	五	五	五	四	四	四

郡

大淵村	黒木町	豊岡村	串毛村	邊春村	光友村	北山村	白木村	上妻村	三河村
					二				
					四				一
					四				一
一					四				一
一					四				一
一					四				一
一					四				一
一					四				一
一					三			一	
一					二			四	
一		一	二		三		二	四	

町村名
組合設立ノ際
 卅二年 卅三年 卅四年 卅五年 卅六年 卅七年 卅八年 卅九年 卅四十年 卅四十一年 卅四十二年
 三月 三月 三月 三月 三月 三月 三月 三月 三月 三月 三月

木屋村
 一
 八
 八
 八
 八
 七
 一〇

矢部村
 二

計
 六九七
 七四
 八〇一
 八九一
 九八五
 一、〇三四
 一、〇一五
 一、〇四〇
 一、〇五一
 九二〇
 九四四

三橋村
 八七九
 八八七
 一、〇七一
 一、一二九
 一、三三四
 一、三五六
 一、三六七
 一、三八五
 一、四二三
 一、二六八
 一、一九七

柳河町
 八
 九
 一五
 二〇
 二五
 二六
 二六
 二四
 一七
 一五
 一六

城内村
 一四
 一五
 二〇
 二二
 二二
 二二
 二二
 二〇
 一七
 一二
 一四

冲端村
 二五
 一八
 二四
 二四
 二七
 三四
 三四
 三二
 三四
 三九
 三四

西宮永村
 三六
 四四
 五二
 五四
 五九
 六二
 六二
 五九
 六〇
 五一
 五一

東宮永村
 三五
 三五
 五七
 六九
 八二
 九〇
 九〇
 八五
 八九
 六七
 六一

山

三				郡 門					
開 村	江 浦 村	岩 田 村	飯 江 村	計	山 川 村	東 山 村	瀬 高 町	大 和 村	兩 開 村
二	一六	一		一、一九八	八	三	二九	一一八	四三
三	二七	一		一、三〇〇	八	四	四二	一二七	四二
四	一七	一		一、五四三	五	四	九一	一五五	四九
三	一七	一		一、七九九	五	七	二四	二〇一	五五
五	一八	一		二、〇八二	五	一二	一六一	二七五	八一
五	一八	一		二、一四七	六	一三	一七五	二七九	八五
五	一八	一		二、二六二	六	一六	一七五	二七九	八六
五	一八	一		二、一九八	六	二五	一七六	二九八	八八
五	一八	二	一	二、二五二	七	三三	一八三	三二二	八八
三	九	一	一	一、八六九	七	二七	一一九	二二三	四二
二	八	一	一	一、七七七	七	二四	一〇四	一八九	三〇

池 郡									
町 村 名	二 川 村	銀 水 村	三 池 町	大 牟 田 町	三 川 村	駛 馬 村	玉 川 村	計	久 留 米 市
冊二年 組合設 立ノ際	二	四		一				二六	一
冊三年	四	四		一				三〇	五
冊四年	四	四		四				三四	四
冊五年	三	二		六				三三	八
冊六年	四	三		六				三七	一〇
冊七年	四	三		七				三八	一二
冊八年	四	三		七				三八	一二
冊九年	五	三		七				三九	一二
四十年	五	三		七				四一	一二
四十二年	四	二		六	二	二		三〇	四
四十二年	三	四		一八	二	二		四一	三

合 計	六、二〇六、四四四	七、五四六	八、二九八	九、〇八二	九、三〇五	九、三五〇	九、六〇七	九、七八八	八、七八六	八、五〇七
-----	-----------	-------	-------	-------	-------	-------	-------	-------	-------	-------

莫薩販賣業者人員表

町村名	卅三年 組合設立ノ際	卅三年 三月	卅四年 三月	卅五年 三月	卅六年 三月	卅七年 三月	卅八年 三月	卅九年 三月	四十年 三月	四十二年 三月	四十二年 三月
木佐木村	九七	一〇四	一二三	一二六	一八五	一九四	一九五	一九四	一九〇	一四四	一二六
大莞村	一〇一	一〇六	一一〇	一二一	一二二	一二七	一二九	一二九	一二〇	九八	七三
蒲池村	一二四	一三一	一四〇	一四九	二〇〇	二〇四	二〇八	二〇九	二〇四	二五八	一四二
田口村	二八	三二	三九	四二	五二	五五	五七	六〇	五七	四三	三三
濱武村	二	二	二	一	二	二	二	二	二	一	二
久間田村			二	四	五	六	七	九	一〇	八	八

瀨

町村名	廿二年 組合設立ノ際	卅三年 三月	卅四年 三月	卅五年 三月	卅六年 三月	卅七年 三月	卅八年 三月	卅九年 三月	四十年 三月	四十二年 三月
川口村	二	三	五	八	三	三	三	三	一四	二
大野島村				一	一	一	一	一		
大川町	一七	一八	二五	二七	三二	三三	三三	三三	三三	一九
三又村	一四	一四	一八	二〇	二三	二三	二四	二七	三〇	二七
木室村	五〇	五五	六三	七二	七七	八一	八五	九〇	九二	七〇
大溝村	八二	八八	八八	九五	一〇五	一〇九	一〇九	一二四	八八	七三
江上村	三七	三七	三八	四二	四五	四六	四八	四八	五〇	四七
青木村	七	七	七	七	八	一〇	一〇	一〇	一〇	八
城島村	三三	三四	四二	四六	四七	四七	四七	五一	五一	三四

郡

羽犬塚村	水田村	計	犬塚村	西牟田村	鳥飼村	荒木村	安武村	大善寺村	三瀨村
	一〇	六二		五	二		四	七	一
	一三一	六五〇		六	二		四	七	一
	一三九	七二五	二	六	二		四	八	三
	一四八	七七八	二	七	三		四	八	四
	一七二	九三四	二	七	三		五	八	四
	一七九	九六九	二	七	三		五	八	四
	一八三	九八七	二	七	四		五	八	四
	一九二	一、〇〇九	二	七	四		五	八	四
	一七七	九八一	二	六	五		五	八	四
一	二〇	七六六	二	四	六		四	六	二
一	一〇〇	六六八	二	五	五	二	三	七	二

八

町村名	廿二年 組合設立ノ際	廿三年三月	廿四年三月	廿五年三月	廿六年三月	廿七年三月	廿八年三月	廿九年三月	四十年三月	四十一年三月	四十二年三月
下廣川村	五	五	五	五	五	五	五	五	四	三	三
中廣川村	八	八	八	八	八	八	八	八	八	六	六
上廣川村		四	四	四	四	四	四	五	七	四	四
横山村											
星野村				一	一	三	三	三	四	四	八
笠原村											
北川内村				四	五	五	五	五	五	五	四
川崎村				三	五	七	七	七	八	七	九
忠見村	二	三	三	二	四	四	四	四	五	三	二

女

光 友 村	北 山 村	白 木 村	上 妻 村	三 河 村	八 幡 村	古 川 村	岡 山 村	長 峰 村	福 島 町
六			四			四	二		九
六	一		四			四	三		一四
六	一		四			四	四		一五
八	一		四			三	四	一	一五
八	一		四			三	四	二	一七
八	一		四			三	四	二	一七
八	一		四			三	四	二	一七
八	一		四			三	五	二	一九
八	一		五			四	四	二	一五
七	一		四			五	四	二	一五
六	一		三			五	四	二	一四

郡

町村名	廿二年 組合設立ノ際	廿三年 三月	廿四年 三月	廿五年 三月	廿六年 三月	廿七年 三月	廿八年 三月	廿九年 三月	四十年 三月	四十一年 三月	四十二年 三月
邊春村									二	三	三
串毛村											
豊岡村	一	一	一	五	六	六	六	六	六	六	六
黒木町	七	10	10	11	11	11	11	11	13	九	八
大淵村	四	五	五	六	六	六	六	六	六	三	二
木屋村		一	一	一	一	一	一	一	一	一	一
矢部村				三	八	八	八	八	10	六	七
計	272	200	210	236	275	286	290	302	295	209	199
三橋村	八二	八八	101	113	137	143	146	149	141	103	八七

郡

門

山

山 川 村	東 山 村	瀬 高 町	大 和 村	両 開 村	東 宮 永 村	西 宮 永 村	沖 端 村	城 内 村	柳 河 町
七		一八	一六			四	四		一三
九	一	一九	一六			五	二		一三
一〇	一	二二	一七	二	一	七	三		一三
一〇	一	二三	一八	四	二	七	二		一三
一一	一	二二	一九	四	二	八	三		一三
一一	一	二三	一七	四	二	八	三		一三
一一	一	二三	一七	四	二	八	三		一四
一一	一	二三	一七	四	三	八	四		一四
一二	一	二〇	一八	四	三	九	四		一〇
九	一	一三	一二	三	三	七	三		五
八	二	一四	九	三	五	七	三		六

町村名		計	飯江村	岩田村	江浦村	開町	二川村	銀水村	三池町	大牟田町
卅二年	一四三			四	三		七	二	六	六
卅三年	一五			四	三		八	二	六	一三
卅四年	一七六			四	三		一〇	三	七	一四
卅五年	一九二			四	三		一〇	三	九	一四
卅六年	二一九			四	四		一一	三	九	一四
卅七年	二三四			四	四		一一	三	九	一四
卅八年	二三八			四	四		一二	三	九	一五
卅九年	二三三			四	四		一二	三	九	一六
四十年	二二二			三	四		一一	四	一〇	一四
四十一年	一五七			三	四		八	四	七	七
四十二年	一四四			三	四		七	四	五	一二

町村名		計	飯江村	岩田村	江浦村	開町	二川村	銀水村	三池町	大牟田町
卅二年	一四三			四	三		七	二	六	六
卅三年	一五			四	三		八	二	六	一三
卅四年	一七六			四	三		一〇	三	七	一四
卅五年	一九二			四	三		一〇	三	九	一四
卅六年	二一九			四	四		一一	三	九	一四
卅七年	二三四			四	四		一一	三	九	一四
卅八年	二三八			四	四		一二	三	九	一五
卅九年	二三三			四	四		一二	三	九	一六
四十年	二二二			三	四		一一	四	一〇	一四
四十一年	一五七			三	四		八	四	七	七
四十二年	一四四			三	四		七	四	五	一二

卅二年 卅三年 卅四年 卅五年 卅六年 卅七年 卅八年 卅九年 四十年 四十一年 四十二年
組合設立ノ際 三月 三月 三月 三月 三月 三月 三月 三月 三月 三月 三月

郡

三川村	駿馬村	玉川村	計	久留米市	台計
五	六		三九	四一	一、〇〇七
五	六		四七	四九	一、〇九九
五	七		五三	四八	一、一〇一
五	七		五五	四七	一、一三八
五	七		五七	四八	一、一五三
五	五		五五	四九	一、一五八
五	五		五六	五一	一、一六二
五	五		五七	五一	一、一六五
五	四		五五	五一	一、一六三
四	三	一	四一	三一	一、二〇五
六	四	一	四五	三三	一、〇八九

染色業者人員表

町村名	卅四年三月	卅五年三月	卅六年三月	卅七年三月	卅八年三月	卅九年三月	四十年三月	四十一年三月	四十二年三月
木佐木村	六	七	七	八	八	九	九	七	六

瀧

三

町村名	大莞村	蒲池村	田口村	濱武村	久間田村	川口村	大野島村	大川町	三又村
卅四年三月	五	七	六	一	一	二		三	二
卅五年三月	七	七	六	一	一	五	一	二	三
卅六年三月	七	九	六	二	一	五	二	六	二
卅七年三月	七	九	六	一	一	六	三	五	二
卅八年三月	六	九	五		一	五	二	四	二
卅九年三月	七	九	六		一	四		三	二
四十年三月	七	九	六		一	四		三	二
四十一年三月	七	七	六		一	四		三	二
四十二年三月	七	七	六		一	四		三	二

郡 女 八			郡						
計	三河村	水田村	計	鳥飼村	青木村	城島町	江上村	大溝村	木室村
二	一	一〇	四二					三	五
二		二	五一				一	四	六
二		二	六五	一	二	一	二	四	八
一〇		一〇	六二	一		一		三	八
九		九	、五三			一		三	七
九		九	五〇					二	七
一〇		一〇	五〇					二	七
一〇		一〇	四四					二	五
一〇		一〇	四二					二	四

山 門 郡									町 村 名
東山村	瀬高町	大和村	両開村	東宮永村	冲端村	西宮永村	柳河町	三橋村	卅四年 三月
	一	三			一	一	二	二〇	卅五年 三月
	一	三		一		一	二	一八	卅六年 三月
一	二	七	二	二		一	三	一八	卅七年 三月
一	二	五	二	二		一	三	一七	卅八年 三月
一	一	二	一	二			三	一六	卅九年 三月
		二	一	一		一		一五	四十年 三月
		二	一	一		一		一六	四十一年 三月
		一	一	一		一		一六	四十二年 三月
		一	一	一		一		一六	

經系業者人員表

三		池		郡	
町村名	三 月	江 浦 村	開 村	計	久留米市
三十六年	三	一	一	七	合
三十七年	三	一	一	九〇	計
三十八年	三	一	一	二五	久留米市
三十九年	三	一	一	一〇七	合
四十年	三	一	一	九〇	計
四十一年	三	一	一	八〇	久留米市
四十二年	三	一	一	八二	合
	三	一	一	二五	計
	三	一	一	七三	久留米市
	三	一	一	一	合

八		郡		藩							
水田村	計	久間田村	大野島村	大溝村	木室村	大川町	田口村	蒲池村	町村名		
六	一三			二	一	一	四		三十六年三月	三十七年三月	三十八年三月
七	一五			二	一	一	四	一	三十九年三月	四十年三月	四十一年三月
七	一五		一	二	一	一	四	一	四十二年三月	四十三年三月	四十四年三月
五	四	一	一				二		四十五年三月	四十六年三月	四十七年三月
五	五	一					二		四十八年三月	四十九年三月	五十年三月
五	四	一				一	一		五十一年三月	五十二年三月	五十三年三月
三	四	一				一	一		五十四年三月	五十五年三月	五十六年三月

山 門 郡						女 郡			
計	三橋村	大和村	冲端村	柳河町	西宮永村	計	古川村	岡山村	羽犬塚村
二六	二	一	一三	三	七	一〇		二	二
二六	二	一	一三	三	七	一一		二	二
二七	二	一	一四	三	七	一一		二	二
一〇			四	四	二	一〇		三	二
一〇			四	三	三	一〇		三	二
九			四	三	二	一二	三	二	二
九			四	三	二	九	四	一	一

花菱仲買業者人員表

町村名	三十六年三月	三十七年三月	三十八年三月	三十九年三月	四十年三月	四十一年三月	四十二年三月
合計	四九	五二	五三	二四	二五	二五	二二

町村名	三十九年三月	四十年三月	四十一年三月	四十二年三月
木佐木村	六九	五三	五四	五〇
大莞村	三七	二八	二九	二七
蒲池村	三四	三〇	三七	三六
田口村	二四	二二	二三	二三
久間田村	五	四	四	三
川口村	一	一	一	一

八女郡		瀬 郡							
三 橋 村	計	水 田 村	計	青 木 村	江 上 村	大 溝 村	木 室 村	三 又 村	大 川 町
三四	四九	四九	二五一	一	四	二二	三七	一一	六
三二	四五	四五	二二五		三	一六	四〇	一〇	八
三二	四四	四四	二三一		四	二二	四一	九	七
三〇	四〇	四〇	二一二		四	二〇	三二	九	七

三池郡		山門郡							
計	江浦村	計	柳河町	大和村	兩開村	東宮永村	西宮永村	冲端村	町村名
一	一	四三		二	一	二	一	三	三十九年三月
一	一	四一		二	一	二	一	三	四十年三月
一	一	四二	一	二	一	二	一	三	四十一年三月
一	一	四〇	一	二	一	二	一	三	四十二年三月

花薙仲次業者人員表

合 計	三四四	三〇二	三一八	二九三
-----	-----	-----	-----	-----

三 瀧 郡							町 村 名	三十九年三月	四十年三月	四十一年三月	四十二年三月
計	大溝村	木室村	久間田村	田口村	大莞村	木佐木村					
一二	二	三	一	二	二	二					
四		一		二	一						
四		一		二	一						
四		一		一	一	一					

花蒔賣込業者人員表

八 女 郡		山 門 郡		三	
町 村 名	水 田 村	計	柳 河 町	計	合 計
三十九年三月	一	一	一	一	一四
四十年三月	一	一	一	一	六
四十一年三月	一	一	一	一	六
四十二年三月	一	一	一	一	六
町 村 名	木 佐 木 村	大 莞 村			
三十九年三月	三	二			
四十年三月	二	一			
四十一年三月	二				
四十二年三月	一				

箴業者人員表

山 門			八 女 郡			瀨 郡		
柳河町	冲端村	町村名	合計	計	水田村	計	大川町	蒲池村
	四	三十九年三月	八	一	一	七	一	一
	四	四十年三月	五	一	一	四		一
四	三	四十一年三月	四	一	一	三		一
四	三	四十二年三月	三	一	一	二		一

郡		三橋村	
計		四	四
		八	一
		八	一

第四節 役員變遷及事務所ノ位置

明治十九年ヨリ全四十二年ニ至ル二十四年間ニ於ケル組合役員及事務所位置變更ノ事蹟ヲ索ムルニ左表ノ如シ

明治十九年ヨリ全廿六年七月ニ至ル組合組長ノ在任期間及事務所位置左ノ如シ

在任期間	事務所位置及組長住所	組長氏名
自明治十九年 至全二十年	三潞郡木佐木村大字上牟田口	牟田口太平
自明治二十一年 至全二十二年	全郡蒲池村大字蒲生	近藤善太郎
自明治二十三年 至全二十六年七月	全郡大莞村大字大藪	朽網浪江

明治二十六年八月ヨリ全三十二年五月ニ至ル組合頭取在任期間及事務所位置左ノ如シ

在任期間	頭取			事務所位置
	住	所	氏名	
自明治廿六年八月 至全 三十年十月	三瀧郡木室村大字中木室	熊本	壽人	三瀧郡木佐木村大字八町牟田
自明治三十年十一月 至全 三十二年五月	全 郡青木村大字上青木	津城	謙助	全

明治三十二年六月ヨリ現今ニ至ル組合組長在任期間及事務所位置左ノ如シ

在任期間	組長			事務所位置
	住	所	氏名	
自明治卅二年六月 至全 卅六年四月	三瀧郡荒木村大字荒木	稻益	一義	三瀧郡木佐木村大字八町牟田
自明治卅六年五月 至全 卅八年一月	全 郡木室村大字大橋	溝田	精一	全
自明治卅八年二月 現今在任中	全 郡全村大字中木室	熊本	壽人	全

明治二十六年八月以降副組長在任期間表

在任期間	住	所	氏	名	備	考
自明治廿六年八月 至全 廿七年十月	三瀧郡大莞村大字大藪	境	信	太郎	當時副頭取ト稱ス	
自明治廿八年七月 至全 卅二年五月	山門郡三橋村大字高畑	藤	丸	逸二	全上	
自明治卅二年六月 至全 卅五年六月	三瀧郡大莞村大字奥牟田	永	松	卓爾		
自明治卅五年七月 至全 卅九年七月	全 郡蒲池村大字高島	野	口	格二		
自明治卅九年八月 現今在任中	山門郡三橋村大字藤吉	碓	井	正路		

明治二十六年八月以降評議員在任期間表

在任期間	住	所	氏	名	備	考
自明治廿六年八月 現今在任中	三瀧郡蒲池村大字蒲生	近	藤	善太郎	十九年以來間斷ナク在任ス 從來取締役ト稱ス	

自明治廿六年八月 至全 廿八年六月	全 郡全村大字立石	本 園 平 助	當時取締役ト稱ス
自明治廿六年八月 至全 廿八年六月	山門郡三橋村大字磯島	野 村 列 根	全 上
自明治廿六年八月 現今在任中	八女郡水田村大字島田	下 川 七 平	廿三年以來間斷ナク在任ス 從來取締役ト稱ス
自明治廿六年八月 現今在任中	久留米市通町	佐 田 恒 助	廿三年以來在任ス從テ取締 役ト稱ス三十五年七月退任 全三十六年二月再就任
自明治廿八年七月 至全 卅五年六月	三潞郡木室村大字中木室	水 落 精 一	廿六年八月處分委員トナリ 廿八年七月取締役就任
自明治廿八年七月 現今在任中	全 郡田口村大字北古賀	鶴 周 一	當時取締役ト稱ス三十年十 月退任三十二年六月再就任
自明治廿八年七月	全 郡大莞村大字大藪	西 村 寅 次 郎	就任當時取締役ト稱ス
自明治廿八年七月 至全 三十年十月	山門郡瀬高町大字下庄	東 原 卯 三 郎	當時取締役ト稱ス
自明治廿八年七月 至全 卅八年三月	三潞郡三又村大字下林	高 山 賢 哉	廿六年八月處分委員トナリ 廿八年七月取締役就任
自明治三十年十一月 至全 卅二年五月	全 郡木室村大字中木室	熊 本 壽 人	當時取締役ト稱ス

自明治三十年十一月 至全 卅九年七月	山門郡三橋村大字藤吉	碓井正路	從來取締役ト稱ス
自明治三十年十一月 至全 卅二年五月	三瀨郡荒木村大字荒木	稻益一義	當時取締役ト稱ス
自明治三十年十一月 現今在任中	山門郡城內村大字宮永町	安東多記	從來取締役ト稱ス
自明治三十年十一月 至全 卅二年五月	三瀨郡木佐木村大字八町 牟田	水落操	當時取締役ト稱ス
自明治卅二年六月 現今在任中	全 郡令村大字蛭池	北島利	廿六年八月處分委員トナリ 三十二年六月評議員就任
自明治卅二年六月 現今在任中	八女郡水田村大字馬間田	吉田清一	
自明治卅二年六月 至全 卅九年七月	三瀨郡青木村大字上青木	津城謙助	
自明治卅五年七月 至全 卅九年七月	山門郡柳河町大字細工町	田島鹿次郎	
自明治卅五年七月 至全 卅五年十二月	久留米市三本松町	中川源次郎	
自明治卅九年八月 現今在任中	三瀨郡大莞村大字奥牟田	松永次助	

自明治卅九年八月
現在任中

全郡大溝村大字横溝

池田藤治

現任ノ代表員左ノ如シ

住所

氏名

三潞郡水佐木村大字八町牟田	水落	鶴岡逸太郎
全郡全村大字上牟田口	益田榮太郎	北島
全郡全村大字蛭池	北島	益田榮太郎
全郡全村大字繪下古賀	辻喜次郎	德永藤七
全郡大莞村大字高橋	深町平藏	境信太郎
全郡全村大字筏溝	吉武勝平	與田嘉平太郎
全郡全村大字大藪	近藤善太郎	
全郡蒲池村大字立石		
全郡全村大字東蒲池		
全郡全村大字蒲生		

甲 木 豐 次

全郡 田口村大字北古賀

鶴
周
一

全郡全村大字坂井

坂井道太

全郡全村大字三九

下
川
幸
助

全郡全村大字鄉原

鐘
々
江
忠
五
郎

全郡久間田村大字間

高田善助

全郡 川口村大字新田

龍與三郎

全郡全村大字全所

古
賀
慶
吉

全郡 大川町大字向島

石
橘
藤
苑

全郡三又村大字諸富

平田次助

全郡 大川町大字榎津

矢
夕
音
伊
太
郎

木室村大字下木佐木

和
湯
作
次
良

全 君 全 村大字上白旗

古
登
一

全 耕 全 村大字中木室

米

三 木大寺 八 附

日 月 作 且

全郡大溝村大字横溝

池田藤治

全郡 全村大字全所

全郡 全村大字全所

全郡 江上村大字江上本

全郡 全村大字江上

全郡 青木村大字下青木

全郡 城島町大字下田

全郡 全町大字六丁原

全郡 三瀨村大字草場

全郡 西牟田村

久留米市通町

八女郡水田村大字四ヶ所

全郡 全村大字富久

全郡 福島町大字本町

全郡 水田村大字井田

全郡 全村大字全所

全郡 全村大字島田

野田 作太郎

境 勘太郎

佐藤 勝平

千代島 忠太郎

徳永市 太郎

野口 増助

下坂 次作

合戸 茂太郎

桑野 文太郎

佐田 恒助

北島 長平

田中 卯太郎

高橋 榮次郎

野田 岩太郎

下川 新太郎

下川 七平

八女郡	水田村大字中折地	太田	黒	俊	一郎
全郡	全 村大字馬間田	吉	田	清	一
全郡	全 村大字下妻	井	口	壽	作
山門郡	三橋村大字柳河	井	上	重	俊
全郡	全 村大字木元	木	下	小	三郎
全郡	全 村大字起田	野	田	市	太郎
全郡	城内村大字宮永町	安	東	多	記
全郡	柳河町大字細工町	田	島	鹿	次郎
全郡	大和村大字中島	花	田		宣
全郡	三橋村大字垂見	藤	吉	恒	吉
全郡	大和村大字築	石	川	駒	太郎
全郡	三橋村大字藤吉	碓	井	正	路
全郡	全 村大字江曲	東	原	拓	造
全郡	全 村大字百町	津	末	釣	夫
全郡	全 村大字全所	川	口	卯	平
全郡	全 村大字全所	石	橋	梅	次郎

全郡 瀬高町大字濱田
 山門郡 瀬高町大字上庄
 三池郡 江浦村大字江浦
 現任役員職員左ノ如シ

役員		職員	
組長	熊本壽人	理事	井口喜道
副組長	碓井正路	書記兼	大數長太
評議員	近藤善太郎	書記兼	馬場友次郎
	下川七平	監査員	馬場友次郎
	北島利平	監査員	甲木熊次郎
	鶴周		久良木與三郎
	吉田清一		澁田吉次郎
	安東多記		富安利三郎
	佐田恒助		富重清一郎
	松永次助		江崎新太郎
	池田藤治		

顧問 稻 益 一 義

第五節 組合經費ノ増減

組合經費ノ増減ハ以テ組合盛衰ノ如何ヲ徵スルノ好証憑タリ今左ニ明治二十六年以降ニ於ケル經費ノ決算ヲ示シ以テ本組合カ如何ニ發展擴張シ來リタルカノ事實ヲ見ントス即チ

自明治二十六年度 六ケ年間組合經費決算表
至明治三十一年度

收入之部

科 目	廿六年度	廿七年度	廿八年度	廿九年度	三十年度	三十一年度
第一欸 前年度繰越金						
第二欸 子預ケ金利	四二、 五五二	一、〇三三、 九六三	一、七四三、 三五七	一、九三四、 四九二	三、三五、 九四	二〇、三八〇、 二八三七、 〇九五
第三欸 章票料	一九三、 五五二	一、〇三三、 九六三	一、七四三、 三五七	一、九三四、 四九二	三、三五、 九四	二〇、三八〇、 二八三七、 〇九五
一 莫薩販賣章票	一〇〇、 一〇八	五六一、 五五三	四三七、 三五五	三八四、 六二五	四三八、 四六〇	四六〇、 六二六
二 花菱製織章票						
三 花菱販賣章票	二三八、 五五〇	五二一、 四〇〇	七六八、 八五二	三七一、 一五一	五八、 八三六	九五、〇六二、 四四二、 八六〇

四花莖輸出章票					四六八、	三九、〇三八	一、〇二六、	八五、五九	八六一、
第四款 雜收入	一八七、				四五六	三九、〇三八	三、四八	八五、五九	五八四、
	一〇〇				三九、	二八三、	二四〇	三三、	三六、
一 証札料	一六八、				二六九、	一三〇、	一一、	一一、	八〇〇
	六〇〇				四九〇	六五〇	四〇、		
二 証札書替料					三六〇	九〇	五四〇		六六〇
三 違約金	一八、五〇〇				五四、	二六八、	九六、	一六八、	一〇三、二〇、
					三八七〇、七五〇	八五〇	八七〇	四〇〇	一三四
四 物品賣却代							一、四三〇	五〇〇	
第五款 郡市補助金					三五、〇〇〇		三七八、	五〇〇	五〇、〇〇〇
一 三 瀕 郡					三五、〇〇〇		二九三、	五〇〇	五〇、〇〇〇
二 山 門 郡							五〇、〇〇〇		
三 八 女 郡							三五、〇〇〇		
第六款 豫知ス可カラサル收入					三四、二五九				
第七款 一時借入金					三〇〇、		四二、		
					〇〇〇		〇〇〇		
合 計	六〇八、				一、一三三、	二、七五四、	二、九四一、	四、九四七、	三、四八四、
	六五二				四八三	八五三	九八〇	五九一	七三三

支出之部

科 目	二十六年 度 九ヶ月分	二十七年 度	二十八 年度	二十九 年度 十一ヶ月分	三十年 度	三十一年 度
第一款 事務所費	七四、三四四	七五、〇六四	一、六四、一三七	二、一八六、九一四	三、三八〇、一二三	三、一五一、二四四
第一項 給料	二四五、七〇九	三六五、〇七五	五四一、三五五	六三四、八五一	九六七、五九九	一、三五六、二一〇
一 検査員給料	一七五、四〇〇	二八三、五〇〇	四九、九三五	五二〇、九二八	七九六、七八六	一、一七三、六九〇
二 書記給料	五四、六五三	六〇、八〇〇	七、〇〇〇	八四、三三三	一〇四、四八三	一一七、〇〇〇
三 使丁給料	一五、六五六	二〇、七七五	二〇、四〇〇	二九、二〇〇	三九、〇〇〇	五五、五〇〇
四 諸雇給料			一一、〇一〇	一〇、三九〇	二七、三三〇	一〇、〇一〇
第二項 雑給	二六七、四五〇	二六二、〇五八	七四八、二〇五	一、一八三、〇二九	一、八三三、七九二	一、一二七、〇三二
一 報 酬	一七六、二五〇	二四、〇〇〇	二二一、八三三	三四九、八三三	三九四、六六六	三九二、〇〇〇
二 旅費日當	九一、二〇〇	四八、四九〇	二三五、四四〇	六六、六〇〇	六五七、二三〇	四五一、〇四〇
三 巡回手當				四、九二〇	二五、〇四〇	六八、八八〇
四 宿直辨當料		一、二〇〇	一四、六四〇	一三、四〇〇	二〇、六六〇	三九、二五〇
五 章票賣捌手 數料		八八、三六八	一五八、二九二	一三三、二七六	二二一、四一一	一七五、八六一
六 賞 與 費			二八、〇〇〇	六五、〇〇〇	五五、三八五	

第三項 需用費	一四五、五八五	一〇四、九三一	二五八、七二二	二五八、六三四	四五六、六六四	四三八、七〇〇
一 備 品 費	一五、七一六	二九、一五六	二九、九六〇	一三、〇二三	二三、九六一	五二、八二九
二 消耗 品費	一五、三五六	二三、八五四	四三、九五九	六一、一四八	一〇三、九二八	八三、〇三一
三 通信運搬費						一一、四五〇
四 印 刷 費	五三、五九六	五〇、九七七	一三四、〇七七	一三五、六二三	三二八、七九六	二七七、二五五
五 章票製造費			一九、六九二	三八、三六〇		
六 証札製造費	六〇、九一七	九四四	二六、六三四	六、三九一	六、八三九	八、六一五
七 新聞雜誌購 讀費			四、三九〇	四、一〇〇	五、一四〇	五、五二〇
第四項 雜 費	四五、六〇〇	一八、〇〇〇	五四、八六五	一一〇、四〇〇	一二〇、〇五七	二三九、二七三
一 借 家 料	一一、二五〇	一八、〇〇〇	一九、八〇〇	一九、九〇〇	二五、二〇〇	三七、一〇〇
二、出張所費			一〇、〇六五	七〇、五〇〇	九四、八五七	一一七、〇〇〇
三 修繕 費						四、五九七
四 雜 支 出	三四、三五〇		二五、〇〇〇	一〇、〇〇〇		七〇、五七六
第二款 五二會費			一〇、四八〇	二、三六〇	三四、七一九	

科	目	二十六年 度	二十七年 度	二十八 年度	二十九 年度	三十 年度	三十一 年度
第三款	日本花蒔 取扱所費				二五九、三〇〇	一四九、二六〇	
第四款	花蒔業 視察費			二三七、一四		七七八、六二	一四〇、〇〇〇
第五款	共進會及 品評會費						
第六款	負債償却		九五、六九二			四三三、〇〇〇	
第七款	一時借入 金償却			三〇〇、〇〇〇			
合	計	七〇四、三四四	八四五、七五六	二、一五一、七三二	二、四四八、五七四	四、七〇四、七〇三	三、二九一、二二四

備考

一 明治二十六年度ハ全年八月ヨリ二十七年四月迄ノ九ヶ月ナリシ其九ヶ月間ニ章標ノ發賣高ハ甲號(一枚ニ付貳厘小)拾萬五千八百枚料金貳百拾圓貳拾壹錢六厘乙號(一枚ニ付壹錢)二萬二千八百五十五枚料金貳百貳拾八圓五拾五錢ニシテ計金四百參拾八圓七拾六錢六厘ナリ然ルニ實收額ハ金四百貳拾壹圓五拾五錢貳厘ナレハ差引金拾七圓貳拾壹錢四厘不足ヲ生セリ是レ即チ二十六年以前ニ係ル舊組合發行ノ章標返戻ニ付料金ヨリ差引シタル結果ナリ

全年度ノ歳入總額ハ六百八圓六拾五錢貳厘歳出額ハ七百四圓參拾四錢四厘ナルヲ以テ歳入出差引金九拾五圓六拾九錢貳厘歳入不足ヲ生セリ其金額ハ一時借入ヲナシ二十七年年度ニ於テ償却セリ

明治二十七年度ハ全年五月ヨリ二十八年四月迄ニテ章標ノ發賣高ハ甲號（一枚ニ付）十二万六千三百六十七枚料金五百五圓四拾六錢八厘乙號（一枚ニ付）五万二千二百四十枚料金五百貳拾貳圓四拾錢ニシテ計金千貳拾七圓八拾六錢八厘ナリ而シテ其實收額ハ金千參拾參圓九拾六錢參厘ナレハ差引金六圓九錢五厘過剩ヲ生セリ右ハ舊章標交換ニ付過金徵收ノ結果ナリ

一 明治二十八年度ハ全年五月ヨリ廿九年四月迄ニテ廿八年八月筑後花蕨同業組合ヲ組織セリ故ニ本年度ノ經費ハ筑後蕨商同業組合ト筑後花蕨同業組合トノ決算額ヲ合シタルモノナリ蕨商組合章標ノ發賣高ハ

甲號(一枚ニ付) 十四万五千七百八十五枚料金四百參拾七圓參拾五錢五厘乙號(一枚ニ付) 壹錢貳厘(參厘) 六万四千七十一

枚料金七百六拾八圓八拾五錢貳厘小計金千貳百六圓貳拾錢七厘花蕨組合ヨリ標籤ノ發賣高ハ水青標籤

(一枚ニ付壹錢五厘即チ綾) 一万三千五百六十八枚(廿八年八月ヨリ廿九年四月迄九ヶ月分) 料金貳百參圓五拾貳錢桃色標籤

(一枚ニ付壹錢當時並花蕨ノミ) 三万三千三百六十三枚料金參百參拾參圓六拾參錢小計金五百參拾七圓拾

(ニ添付セシモノ) 全上九ヶ月分

五錢通計金千七百四拾參圓參拾五錢七厘トナレリ而シテ各組合ノ支出額ハ蕨商組合ハ金千七百拾參圓貳拾

參錢四厘ニシテ花蕨業組合ハ金四百參拾八圓四拾九錢七厘ナリ

明治二十九年度ハ全年五月ヨリ三十年三月迄ノ十一ヶ月ナリシ而メ本年度モ亦商組合ノ決算額ヲ合シタルモノニシテ各組合共ニ八月ヨリ章標ノ改正アリ産商組合章票ノ發賣高ハ甲號(一枚ニ付)十二万八千二百五枚料金參百八拾四圓六拾壹錢五厘乙號(一枚ニ付)壹錢貳厘一万四千二百二十三枚料金百七拾圓六拾七錢六厘乙號(一枚ニ付)五厘花莖販賣(者章票八月改正ノ分)四万九十五枚料金貳百圓四拾七錢五厘販賣(一枚ニ付)壹錢貳厘花莖輸出(章票八月ヨリ始メ實施セ)

一 明治三十年度ハ今年四月ヨリ三十一年三月迄ニテ本年兩組合ヲ合シテ筑後薩同業組合ヲ組織セリ發賣章標中製造章票販賣章標ニ付テハ別段説明ノ要ヲ見サルモ甲乙兩章票ハ年度中價額ノ變更アリ甲號八万四千八十四枚(一枚ニ付)料金貳百五拾貳圓貳拾五錢貳厘四万六千五百五十二枚(一枚ニ付)料金百八拾六圓貳拾錢八厘乙號四万五千五百三十六枚(一枚ニ付)貳百七圓六拾八錢五万三千五百二十六枚(一枚ニ付)百貳拾壹圓拾五錢六厘ナリ

一 明治三十一年度ハ説明スルノ必要ナシ

自明治三十二年度
至明治四十二年度
十ヶ年間組合經費調表

收入之部

科	目	明治卅二年 算決	明治卅三年 算決	明治卅四年 算決	明治卅五年 算決	明治卅六年 算決	明治卅七年 算決	明治卅八年 算決	明治卅九年 算決	明治四十年 算決	明治四十一年 算決	明治四十二年 算決
---	---	-------------	-------------	-------------	-------------	-------------	-------------	-------------	-------------	-------------	--------------	--------------

第一欸	前年度	一九三、五〇九	九五、二九一	九三、二六二	四七、四二三	一、八三三	三三六、八九〇	七〇、八三八	七六二、	六四一、	二〇〇、
第二欸	繰越金	四、〇七〇	六、四四四	九、一九四	九四八七、四	七七五、五	三三〇、六	二一、六	四三六、七	二六、四	三〇一、六
	証票料	四六二	〇八九	二二一	五四四	六四三	二八一	四八三	三二五	三六五	一六五
一	小摩製織証票	二四一、三八五	四四二、六四〇	三五九、九二〇	三四〇、二〇四	八、三〇〇	三〇五、	六二四	一九〇、	九六〇	
二	小摩販賣証票	五三九、七九三	五八一、一七四	三三九、七六八	四四四、五二四	三三、二五三	三〇五、一四〇	八五〇	一九〇、		
三	花莖製織証票	一、五九三	二、二九	三、三二	三、五五〇	一、五三六	一、九二四	七九九	七〇〇	七〇〇	
	花莖販賣証票	〇二〇	三三五	八二五	六〇二	四八〇	七八〇	七〇〇	二八一	三五八	
四	花莖輸出証票	六二四、九四八	八七、八二〇	一、三〇八	一、二四	五二〇	五二三、九〇八	六五四、五〇〇	二八二	三五八	
五	小莫蔴染色証票	一、〇九〇	一、六五九	二、三七四	二、五九四	一、一五三	一、三〇八	五三五	七五五		
六	花莖染色証票	六二四、三〇	一、四七八	一、二六	五四五	五二九、八〇	四九六、五二〇	二二六	一〇〇	二二六、	五〇〇、
七	花莖經糸証票					二二〇、五四〇	二七八、六〇〇	二二五、七七一	二八、〇〇〇		
八	花莖証票										
九	輸送証票										
十	莫蔴証票										
十一	莫蔴証票										
十二	箴証票										

[illegible]

二	郡市補助金	四九六、〇〇〇	四九六、〇〇〇	九〇〇、〇〇〇	三六八、〇〇〇	五七、〇〇〇	一五〇、〇〇〇	五三五、〇〇〇	三二〇、〇〇〇	六〇〇、〇〇〇
三	博覽會費及 評會補助金		三三、七九〇	一、〇一六、 九七九						
第六款	教習所ヨリ 生スル收入		五二五、〇五六	三八二、三七〇	五〇二、九六五	五六二、三五五	三六四、 八一〇	五八六、 六一五	五一六、 七二六	一、五〇五、 四一一
一	製品賣却代		五二五、〇五六	三八二、三七〇	五〇二、九六五	五六二、三五五	三六四、 八一〇	五八六、 六一五	五一六、 七二六	一、五〇五、 四一一
第七款	標本賣却 代					三二、七九九	六、四八二	四〇、三二〇		
第八款	海外販路擴張 準備積立金					三〇〇、〇〇〇	一五〇、 〇〇〇			
第九款	豫知ス可カ ラサル收入	一三、三〇七				二三、九七〇				
第十款	寄附金		一、〇六〇、 〇〇〇							
第十二款	組合創立費 組合員割	六七〇、九四〇								
第十二款	一時借入 金	五〇〇、〇〇〇						一、二五〇、 〇〇〇	三〇〇、 〇〇〇	〇〇〇、 〇〇〇
歳入	合計金	五、八三三、 三六〇	七、五六一、 〇九三	一三、二七六、 五六七	一三、〇五八、 三八七	一〇、六二七、 〇六三	七、九三二、 二二七	八、七三四、 一九〇	一〇、三四九二、 五二〇	一〇、三八四二、 二六五

歳 出

經常部

科目

第一款 事務所費

第一項 給料

一 理事給料

二 書記給料

三 監查員給料

四 給仕給料

五 使丁給料

第二項 雜給

一 報酬

二 旅費日當

三 巡察手當

四 賄費

五 証票賣捌手數料

明治卅二年度決算	明治卅三年度決算	明治卅四年度決算	明治卅五年度決算	明治卅六年度決算	明治卅七年度決算	明治卅八年度決算	明治卅九年度決算	明治卅十年度決算	明治卅十一年度決算	明治卅十二年度決算
一、三八〇、七三〇	一、六五八、四三七	一、六六二、九六六	一、六九七、三五〇	一、四三一、一〇七	七二六、〇〇〇	九七六、一六四	一、三八九、五五七	二、一六四、七〇〇	二、一五三、四〇〇	二、四六〇、〇〇〇
四、五七、五〇二	五、四二、六〇五	六、〇五九、六三七	六、三七七、二一七	四、七二六、〇三三	三、九八一、九八二	四、三三三、四四二	五、六六六、三三六	七、一五二、三三二	六、四六六、七八七	六、八三四、三〇〇
二、四〇、〇〇〇	二、八七、〇〇〇	三、五〇、〇〇〇	三、五〇、〇〇〇	一、四三三、六〇〇	三、三六、〇〇〇	三、五四、〇〇〇	三、七二、二八一	三、一一、三二四	六、〇〇〇	〇〇〇
一、〇八六、三三一	一、三〇七、四三七	一、二九一、四六六	一、三〇〇、五五七	一、〇三三、二〇七	三二八、〇〇〇	六二二、二六四	九五〇、七六	一、五九四、五〇〇	一、五八一、〇〇〇	〇〇〇
五九、九九九	六四、〇〇〇	六六、〇〇〇	七一、六五〇	七一、〇〇〇	七二、〇〇〇	六六、八三二	四九、二〇〇	八三、八〇〇	九六、〇〇〇	〇〇〇
二、一五八、八八九	二、四二六、七〇九	二、五〇〇、一九八	二、六六一、一六四	二、九八八、六四三	一、九一一、〇〇四	一、九三〇、〇六八	二、四〇二、三六〇	二、七九六、五八五	二、六五七、九九五	二、六九八、八〇〇
二九一、六六七	三三〇、〇〇〇	三三〇、〇〇〇	三三〇、〇〇〇	三三〇、〇〇〇	三三〇、〇〇〇	二二〇、〇〇〇	二二〇、〇〇〇	二二〇、〇〇〇	二二〇、〇〇〇	二二〇、〇〇〇
九七六、九六〇	一、一八二、五六〇	一、二一九、一九〇	一、一四四、一〇〇	九五、八五〇	六六七、四九〇	六三七、四七〇	七七三、四八〇	六一一、〇一〇	七九七、九一〇	八〇〇、〇〇〇
三、三〇、一〇一	三、六〇、九一五	八、四〇二、二四〇	一、四六、五二〇	二、二五、三六〇	三、四九、二二〇	四八九、二二〇	八八九、〇八〇	二二〇、〇〇〇	二二〇、〇〇〇	二二〇、〇〇〇
四三、七五〇	四三、八〇〇	四八、九〇〇	五一、三〇〇	四七、四二〇	四七、七五〇	三六、五五〇	三七、〇五〇	四二、八二四	五〇、九〇〇	四八、八〇〇
二七〇、九三〇	四三、〇九四	六三、五〇三	六四、二二二	九〇、三二九	〇〇、四一四	四一四、五九八	四五六、九四五	五〇五、四二五	二九五、五一五	〇〇〇

六 雇人足賃	一八、七七〇	三九、八九〇	五一、六四五	六〇、九〇〇	三一、四五〇	二八、四〇〇	一一、三〇〇	四四、九八五	九、八二〇	二九、四〇〇	四五、〇〇〇
七 賞與費	五四、五〇〇	三〇、〇〇〇	三〇、〇〇〇	三〇、〇〇〇	三〇、〇〇〇	三〇、〇〇〇	三〇、〇〇〇	三〇、〇〇〇	三〇、〇〇〇	三〇、〇〇〇	三〇、〇〇〇
八 慰勞并二祭 案料											
九月手當						11,000					
十 賦課金徵收費										九二、四三〇	
第三項 需用費	七八三、九七三	九六六、一〇一	一、〇三九、一三九	〇九九	五九二	六五七、一三九	六八八、三五〇	一、〇三七、一三六	一、五七二、九九六	九九九、	
一 備品費	七八、三〇四	四八、六三一	四九、〇九四	二二、七八三	四三、二八三	五二、一八八	九五六	二八八	五〇八	八四〇	〇〇〇
二 消耗品費	九八、六六九	一六三、七六五	一六四、九六三	二六二、二五二	三三、五五二	一三〇、七三四	一三、	九七七	二二	二六七	一九五
三 印刷費	一五八、六六〇	六七、七五二	五、六〇一	四六、六六〇	二九、〇五九	六、一五〇	一三、	一〇六	三三	二九、一七〇	二二〇
四 証票製造費	三九九、三四六	五九八、九四八	五三二、九八三	七六一、一七七	三九一、七〇〇	二八五、四九二	三五九、	二四二	九五二	七〇〇	四四〇
五 証札製造費		四、四九〇	一九、七五四	三三、〇五二	七、一九八	三、七五二	六、三〇一	三三、三八九	一一、八九〇	二二、六二八	〇〇〇
六 通信運搬費	三七、〇一九	二八、五〇〇	二九、八七五	四八、〇〇五	三四、一九八	二八、九九二	四四、七五〇	四四、一一〇	五〇、一一〇	三七、四八〇	〇〇〇
七 新聞雜誌購 讀費	一一、九七五	一四、〇五〇	一六、八三〇	一六、七〇〇	一八、一五〇	一六、五三〇	二二、六二〇	一一、四〇〇	一八、四八〇	二二、四三〇	二〇〇
八 諸雜費						一六四、五二九	二二五、	三三二、	六三七、	三五二、	二二〇、
						五一九	〇六〇	一〇五	五三〇	〇〇〇	

科 目

明治卅二年 明治卅三年 明治卅四年 明治卅五年 明治卅六年 明治卅七年 明治卅八年 明治卅九年 明治卅十年 明治卅十一年 明治卅十二年
 決算 決算 決算 決算 決算 決算 決算 決算 決算 決算 決算

第四項 雜費

二六四、〇〇〇 四〇、〇七四 三八七、三四二 六八、一一一 六四九、〇三四 六五、六二七 三八九、八三七 五三、三九七 六二八、六五四 六七六、〇〇〇

一 借家料

四一、〇〇〇 四一、〇〇〇 一〇四、〇〇〇 一五〇、〇〇〇 一六六、五〇〇 一七四、〇〇〇 二九、〇〇〇 一八、一〇〇 一一〇、〇〇〇 五〇六、〇〇〇 四一、〇〇〇

二 出張所費

一〇一、四五〇 一四三、八五〇 一九七、五五〇 一五七、〇五〇 一七五、五〇〇 四五一、六六〇 三六、三五四 三五〇、四九〇 三二〇、三〇〇 四九二、四九四、〇〇〇

三 檢査場諸費

三九、三四四 一一、一九〇 一七、〇二五 一〇、一四五 二、二二〇 四四〇、三二〇 三二〇、三二〇 三二〇、三二〇 三二〇、三二〇 三二〇、三二〇 三二〇、三二〇

四 修繕費

九、二五〇 一二、二八九 三〇、一九〇 三五、三五六 七、七五五 七、四〇〇 二、四二一 三四、六〇四 八、二五〇 五、七五五 〇、〇〇〇

五 雜費

九、六三五 一二、〇六六 二〇、〇〇〇 一九、六〇〇 一二、四三二 九、七五六 九、九五五 九、九五二 九、九五二 九、九五二 九、九五二

六 雜支出

一一、三〇〇 一〇二、三〇〇 三九九、四三〇 二五四、四二二 二六、六五四 四四一、四三三 二五、五六〇 四四、四二六 五一六、〇〇〇

七 井新設費

五四、七六二 三九、一三五 三四四七、五五五 四九七、一八五 四四七、一三五 四四一、四三三 二五、二七〇 五六〇、〇四五 一八六、一八六、〇〇〇

第二款 會議費

一九二、〇〇〇 一八六、〇〇〇 二二〇、〇〇〇 二二〇、〇〇〇 二二〇、〇〇〇 二二〇、〇〇〇 二二〇、〇〇〇 二二〇、〇〇〇 二二〇、〇〇〇 二二〇、〇〇〇 二二〇、〇〇〇

一 代表員報酬

九一、八五〇 二九〇、九五〇 一五四、一〇〇 一四七、〇五〇 一九八、一五〇 一九八、一五〇 一九八、一五〇 一九八、一五〇 一九八、一五〇 一九八、一五〇 一九八、一五〇

二 代表員旅費

五、〇〇〇 四、〇〇〇 一、五〇〇 一、五〇〇 一、五〇〇 一、五〇〇 一、五〇〇 一、五〇〇 一、五〇〇 一、五〇〇 一、五〇〇

三 書記給料

一、七五〇 二、六五〇 三、二五〇 二、六五〇 三、二五〇 三、二五〇 三、二五〇 三、二五〇 三、二五〇 三、二五〇 三、二五〇

四 雇人給料

一、七五〇 二、六五〇 三、二五〇 二、六五〇 三、二五〇 三、二五〇 三、二五〇 三、二五〇 三、二五〇 三、二五〇 三、二五〇

五 印刷費	六、〇七五	一六、七五	一五、〇一〇	一二、六〇〇	一五、一八〇	二五、六五〇	七、六八〇	二、九七五	二〇、〇〇〇
六 消耗品費	一、五一〇	二、四三〇	一、三九五	三、二五	一、四三五	二、七四〇	八三〇	二、一七〇	一〇、〇〇〇
七 雜費	九三、一六	四四、八〇〇	一一、九二〇	七一、六〇〇	八五、六〇〇	二二、〇五	四八、九〇〇	五九、〇〇〇	〇〇〇
第三款 福岡縣實業團體聯合會費	二〇、〇〇〇	六四、五〇〇	六四、五〇〇	二五、〇〇〇	二五、〇〇〇	三三、〇〇〇	三八、〇〇〇	一五、七六〇	二〇〇
第四款 豫備費								五五五	四〇〇
歲出合計金	四、五七、五九二	五、四四一、六四五〇	六、八八九、二七二	五、二八七、七〇八	四、四五四、一六	四、八〇〇、六五七	一三七、七五四	七、〇四二、八〇五	七〇〇

臨時部

科 目	明治卅二年度決算	明治卅三年度決算	明治卅四年度決算	明治卅五年度決算	明治卅六年度決算	明治卅七年度決算	明治卅八年度決算	明治卅九年度決算	明治四十年度決算	明治四十一年度決算	明治四十二年度決算
第一款 組合創立費	八六五、二九〇										
第二款 花菱攻習所費	三、一五二、九五四	二、二五四、八八八	一、三三八、三四四	一、四六七、九九九	一、八九九、四七八	一、六五四、七四六	二、一九一、六一七	二、二四、三七七	三、七〇七、三〇〇		
一 教師給料	一九九、五二六	二五、一〇〇	四八、四六九	九六〇	五二七、八八七	五〇八、二五八	三六三、一九三	三三四、八六七	六六〇、〇〇〇		
二 意匠考按費	六二、九二〇	九、八〇〇	七、四六〇	一二、八一三	七、二四〇	一〇、二〇〇	五三〇	二八、七八〇	一〇〇		
三 使丁給料	五五、七三	九六、〇〇〇	九六、〇〇〇	九六、〇〇〇	九六、〇〇〇	九六、〇〇〇	九六、〇〇〇	一〇八、〇〇〇	一〇八、〇〇〇		

科 目	明治卅											
	决	算	决	算	决	算	决	算	决	算	决	算
四 諸雇給料												
五 旅費日當												
六 宿直、辨當料												
七 傳習生食費												
八 全工賃												
九 賞與費												
十 備品費												
十一 消耗品費												
十二 染料費												
十三 蘭草購入費												
十四 經系購入費												
十五 借地料												
十六 修繕費												
	三三、五八四	六八、九九〇	五八、八八三	七一、九七六	六五、七七五	四八、七五三	四一九、三八八	四〇一、八九四	七〇、〇〇〇			
	三四、四五二	三三、六六九	三二、〇三三	三三、六六九	三五、二五三	三七、一九三	三四、八三四	四八、二九八	七〇、〇〇〇			
	一八、三九〇	一五、七四〇	九二、六七〇	七四、七五〇	八〇、〇五四	一〇〇、五三八			三三、〇〇〇			
	五四二、五〇五	四六八、五〇一	八九、四六〇	一六、〇二四	二六七、九五四	三二六、四五四	三七、一八七	五〇〇、五〇〇				
	二六、七九〇	四九、四七六	五、二五	四、九八〇	四九、六六〇	八、九四〇	二、二五一	五九〇、〇〇〇				
	四四、六四〇	四五、八六〇	三四、三三〇	三三、七二〇	四九、七〇〇	一五、三四〇	二七、二二〇	一五、九五〇	一〇〇、〇〇〇			
	二〇、一六〇	二五、六二〇	一九、七五〇	四一、七〇〇	四二、八九〇	四三、八九〇	四三、八九〇	四三、八九〇	八〇、〇〇〇			
	五四七、七五七	四〇、七五九	四七、七八三	三八、八六〇	三六二、二九二	二二五、一五〇	一〇一、九〇三	九〇、〇〇〇				
	二一、六三〇	四、五〇〇	二、〇〇〇	三八、五五〇	三五、四〇〇	六、〇〇〇	一〇、五〇〇	二五、〇〇〇				
	一五、〇〇〇	一八、〇〇〇	一三、五〇〇	二、五〇〇	五八、〇〇〇	六〇、〇〇〇	七一、〇〇〇	八一、〇〇〇	一〇〇、〇〇〇			
	二四、六六七	九二、二七六	五〇、七八九	四七、〇二五	五八、七三六	二五、〇八六	六五、七四三	五〇、〇〇〇				
	一二、五〇一	二九、〇八二	九八、九一四	九一、八八四	一九、〇三一	二二、一六三	二五、〇八六	〇〇、〇〇〇				
	六二、四三〇	九七、五八五	二二、七五〇	三一、一〇〇	二、七五〇	三、四〇〇	九七、一五〇	六八、二七〇	一五〇、〇〇〇			
	五四二、五〇五	四六八、五〇一	八九、四六〇	一六、〇二四	二六七、九五四	三二六、四五四	三七、一八七	五〇〇、五〇〇				
	一八、三九〇	一五、七四〇	九二、六七〇	七四、七五〇	八〇、〇五四	一〇〇、五三八			三三、〇〇〇			
	三四、四五二	三三、六六九	三二、〇三三	三三、六六九	三五、二五三	三七、一九三	三四、八三四	四八、二九八	七〇、〇〇〇			
	三三、五八四	六八、九九〇	五八、八八三	七一、九七六	六五、七七五	四八、七五三	四一九、三八八	四〇一、八九四	七〇、〇〇〇			

七	機械新調費	五七、六九八							
六	花樣所 新製費	三〇六、一三五							
五	全付屬塲新 築費	五二、〇二五							
四	職工賃	三四、八三三							
三	雜費	一三、〇〇〇 一、二六〇							
二	捺染試驗費	六八〇							
一	捺染塲新築 費	一九八、七五〇							
二	薪炭代							七七、三二二 二四、一〇〇 二四、〇〇〇	
三	職工給料							二四、〇〇〇	
第四款	染色改良 費	三六三、四八〇 一、〇七四、一、五九四、一、五二四、一、二二〇、六九一、 五〇二、七四二、六九〇、五八二、八四〇、〇〇一、八七四、四五〇、 七六、七二六、七四二、六八〇、							
一	監査員給料	二〇一、四五二、五〇〇、三七七、八四、七六三、八九一、〇〇〇、八七六、一〇〇、 七〇〇、四二一、四一六、四二一、四三二、四三二、四三二、四三二、							
二	染色試驗費	二三、二九九							
三	雇人給料	二〇、一六九							
四	旅費日當	一〇〇、五六〇、四六七、三〇六、五四、九四〇、四三六、六〇〇、二四四、五八〇、 一五九、八四〇							

[illegible]

明治三十二年度ハ筑後薩同業組合(三十二年四月ヨリ五月迄分)筑後莫薩同業組合(五月ヨリ三年三月迄分)ノ決算額ヲ合シタ

ルモノニシテ元組合ヨリ章標發賣高ハ甲号(一枚ニ付)一万四千三百九十九枚料金八拾六圓參拾九錢四厘販賣(一枚ニ付)一万五千八百二十五枚料金
(六)厘 一万四千三百九十九枚料金八拾六圓參拾九錢四厘販賣(一枚ニ付)壹錢貳厘 一万五千八百二十五枚料金
百八拾九圓九拾錢製造(一枚ニ付)壹錢五厘 一万五千三百三枚料金貳百貳拾六圓五拾四錢五厘小計金六百貳拾五圓六
拾八錢七厘新組合發賣高ハ小薙製造章票四萬八千四百七十七枚(一枚ニ付)料金貳百四拾貳圓參拾八錢五
厘小薙販賣章票八萬三千三百八十九枚(一枚ニ付)四百六圓九拾四錢五厘花薙製造章票五萬四千六百五十九
枚(一枚ニ付)料金千參百六拾六圓四拾七錢五厘花薙販賣章票五萬二千八百五十五枚(一枚ニ付)料金五百
貳錢五厘 料金千參百六拾六圓四拾七錢五厘花薙輸送章票四萬五千二十一枚(一枚ニ付)料金九百圓四拾貳錢小計金參千四百四拾四
圓七拾七錢五厘通計金四千七拾圓四拾六錢貳厘ニシテ元組合ノ支出額ハ金八百九拾壹圓拾九錢四厘本組
合ノ支出額ハ金四千八百四拾六圓八拾七錢五厘ナリ

一 章証發行

本組合ハ花薊及莫薩ノ精良ヲ確保シ信用ヲ増進スル爲メ章票ヲ發行シ以テ組合員ノ責任ヲ明ニセリ

二 製品検査

製品ノ精良ヲ維持シ對外貿易ノ振張ヲ期スル爲メ輸出花薊ニ對シ検査ヲ實行スルヲニ付テハ本組合ノ常ニ全力ヲ濫キタル所ナリ此ノ点ニ關シ組合ノ威信最モ組合員間ニ重視セラレタルノ証左ハ別表違約處分表ニ掲クル多件數ノ違約處分ガ些ノ澁滯頓挫ナク實行セラレタルノ一事ヲ以テ見ル可シ即チ

自明治三十二年
至全 四十一年 違約者處分件數調表

花 薊 ノ 部

摘 要	年 別											計
	三二	三三	三四	三五	三六	三七	三八	三九	四〇	四一		
無 証 票	一五	二五	三四	一二	一	二		三	五	二八		一四四
証 票 無 記 名								一	一			二
保 管 品 賣 却			五	一	二	一	一	一	九	四		二四
經 糸 不 合 格					三	七	一	一七	三			三二
染 色 不 合 格			二五	四	三	一	一	一	二			三七

摘 要	年 別										計
	三二	三三	三四	三五	三六	三七	三八	三九	四〇	四一	
原料粗悪				二				二			一三
量目不足	三	一四	二	四	三			五			九六
耳組粗漏	一	二	三			一					一六
無検査輸出		一	六			二	五	一			二四
不合格品藏匿検査拒絶			一								一
計	元	四	一四	六〇	二四	一六	四	五	二〇	三	三八八

莫 産 ノ 部

摘 要	年 別										計
	三二	三三	三四	三五	三六	三七	三八	三九	四〇	四一	
無 証 票	八	二	九	一〇	四〇	一八	七	二	六	九	二二九
証票再使用				一	一		一				三
定尺不足	五	七	五			二	一	五		一	二六
燈心ノ拔殻ヲ交ヘタルモノ								一			一

經糸ニ七島草使用									
計									
通	計	四	六	二八	七	六七	三五	一九	七
		二	一八	二四	二	四三	一九	一五	七
								一七	六
								一〇	一六六
								四二	五五四

花薙輸出検査ノ際受檢ニ先チ組合員自ラ花薙ヲ切斷數調

年 別									
三二	三三	三四	三五	三六	三七	三八	三九	四〇	四一
一二九七	一九四九	三三〇五	四〇〇五	一九八三	八〇九	二二五			
計									一三、四七三

監査員巡察ニ際シ受檢ニ先チ組合員自ラ花薙ヲ切斷數調

年 別									
三二	三三	三四	三五	三六	三七	三八	三九	四〇	四一
一〇一	三〇五	三四二	三一八	一二三	二〇三	三五二	六八四	九五	六七
計									二、五九〇

監査員巡察ニ際シ製織中ノ花薙ニ對シ假封印ヲ施シタル數調

年 別									
三二	三三	三四	三五	三六	三七	三八	三九	四〇	四一
三七〇	五六八	九九三	一五九	三〇八	二六二	五六三	七〇三	六七〇	三三五
計									五、九二一

備考 假封印ノ品ハ製織濟ノ上更ニ監査ヲ行ヒ或ハ切斷又ハ解除セシモノナリ

切斷品并ニ假封印ノ品ハ量目不足耳組粗惡原料不一定等ノモノ多シ

明治三十八年三月花蒔検査所官制發布セラレ全年五月全検査規則發布アリ全官設検査實行後ハ本組合ニ於テハ花蒔検査ヲ廢止セリ

三 製品取締

本組合ハ常ニ監査員ヲシテ生産地方ヲ巡察セシメ組合員ノ生産現場ニ臨ミ一般ノ取締ヲナサシムルト同時ニ左ノ事項ヲ指導獎勵セシム

原料ヲ精撰スルコト

染色及耳組ヲ完全ニスルコト

織立ノ粗雜ニ流レサルコト

不合格品ヲ製出賣買セサルコト

注文品ニ對シテハ約定期限ヲ延滞セサルコト

前記ノ如ク注意指導ヲナスト同時ニ組合員製織中ノ現品ニシテ不合格ノ点アリト見認ムルトキハ假リニ封印ヲ施シ保管ヲナサシメ製織濟ノ上更ニ監査ヲ行ハシム又一方ニハ組合員ノ製品ヲ点檢シ且ツ樞要ノ地ニ出張所ヲ常設シ輸送品ノ点檢ヲ行ハシム組合定款違反者ハ製品検査ノ場合ノ外此点檢ニヨリ檢舉セラル、

モノ多シ常設出張所ノ位置ハ左ノ如シ

三瀨郡大川町大字向島

八女郡羽犬塚停車場前

山門郡瀬高町大字上庄

久留米市苧扱川町

四 獎勵事業

(一) 花薙攻習所ノ設置

本組合ハ花薙業ノ發展ヲ計リ其技術ノ進歩ヲ期スル爲メ花薙攻習所ヲ設置シ敎師ヲ聘シ傳習生ヲ募リ經營數年多數ノ修業者ヲ出シ技術ノ進歩ヲナスト同時ニ組合員ニ攻習所ヲ縦覧セシメ精巧技術ノ發現ヲ目撃シ以テ其向上進歩ノ念ヲ喚起セシメタリ

(二) 染色改良

染色改良ニ關シテハ百難ヲ排シテ染業特許ノ制ヲ設ケ染料ヲ一定シ染場ノ數ヲ減シ染料使用ノ分量ヲ示シ以テ染色技術ノ鍛練ヲ促カシ務メテ染業者ヲシテ其規模ヲ大ニシ責任ヲ重ンシ染色ヲシテ一定不變ナラシメタリ之カ勵行ノ手段トシテハ特ニ技能アル監査員ヲ任命シ常ニ現場ニ臨ミ取締ヲ行ハシム

(三) 標本配布

花薙輸出ノ進歩ハ主トシテ外人ノ嗜好ニ投シ嶄新ノ意匠ヲ凝シ以テ力メテ外國競爭品ヲ排除シ販路ヲ擴張

スルニ在ルヲ以テ本組合ハ常ニ右ノ旨趣ヲ應用セル標本ヲ製シ之ヲ組合員ニ配布シタリ

(四) 捺染工場

花莖貿易ノ推移ハ漸次捺染品ノ需用ヲ喚起シ捺染攻習ノ必要ヲ感シタルヨリ本組合ハ捺染工場ヲ設置シ漬機漬罐ヲ据付教師ヲ聘用シ傳習生ヲ募リ今尙ホ經營中ナリ

五 經費補助

右列記セル各般ノ事業ハ多額ノ經費ヲ要シ本組合獨力ノ堪フル所ニ非サルヨリ情ヲ具シテ縣郡ノ補助ヲ請願シ補助金ヲ得タルヲ左表ノ如シ

補助金表

	卅三年	卅四年	卅五年	卅六年	卅七年	卅八年	卅九年	四十年	四十一年	四十二年
福岡縣	度 1,000	度 1,500	度 1,500	度 1,000	度 1,000	度 1,000	度 1,000	度 1,000	年度 1,000	年度 1,000
三潞郡	三四五	三四五	三四五	三四五			一五〇	三五〇	二五〇	二五〇
山門郡	八九	八九	八九	八九				一〇〇		一〇〇
八女郡	五七	五七	五七	五七	五七			八五	六〇	六〇
三池郡	五	五	五	五						
久留米市			四	四						

六 聖路易世界大博覽會及北米合衆國花薊商況視察

明治三十七年聖路易世界大博覽會ノ開設アルヤ本縣代表者トシテ前組長稻益一義出張セルヲ以テ本組合ハ特ニ同氏ニ囑托シ花薊ノ博覽會ニ於ケル狀況並ニ北米合衆國各地ニ於ケル花薊ノ集散及實地使用ノ狀況ヲ調査シ大ニ裨益スル所アリタリ

七 日本花薊同業組合聯合會

一 三十二年五月廿六日付ヲ以テ岡山縣花薊同業組合組長香川眞一廣島縣花薊同業組合組長吉田豐文神戸花薊商同業組合組長小倉庄太郎ノ三氏ヨリ六月五日岡山市後樂園ニ於テ日本花薊同業組合聯合會設置ノ協議會開設ニ付出席方照會アリシヲ以テ本組合ヨリ委員稻益一義近藤善太郎ノ二名出席シタリ然ルニ該協議會ニ於テハ岡山、廣島、兵庫ノ三縣花薊同業組合ハ聯合シテ創立總會ヲ開クニ決シタルモ其實行セントスル業務ハ我同業組合ニ取リ利益ト認ム可カラサルノミナラス聯合會ノ性質ノ相容レサル者アルヲ認メタルヲ以テ賛同ヲ表セサリシ而シテ其創立總會ノ成行ニ關シテハ大ニ注意ス可キモノアルノミナラス其決議ニ對シテハ我組合ノ利害ニ關シ其筋ニ向ツテ相當ノ意見ヲ開陳シ其設置ノ許否ニ關シ又ハ定款ノ要項ニ就キ主務大臣ノ審案ヲ請フノ必要アルヲ以テ右創立總會ニハ傍聽トシテ委員稻益一義水落精一二名出張シタリ全年七月十五日付ヲ以テ日本花薊同業組合聯合會設置ニ關スル左記ノ陳情書ヲ農商務大臣ニ提出シ尙ホ意見開陳ノ爲メ委員稻益一義安東多記上京シ左記陳情書ヲ呈出シ親シク意見ヲ陳述セリ即チ

日本花薊同業組合聯合會設置ニ關スル陳情書

筑後莫産同業組合長稻益一義誠恐誠懼謹テ情ヲ

農商務大臣閣下ニ陳ス本組合ハ岡山廣島兵庫三縣花蕚同業組合ノ發起ニ係ル日本花蕚同業組合聯合會設置ノ提案ヲ賛シ其協議會ニ列シ其創立總會ニ臨ミタルニ不幸ニシテ左記陳情害ノ諸点ニ付テ議三縣ト協ハズ未タ該會ニ加盟スルニ至ラズ是レ本組合ノ遺憾止ム能ハザル所伏テ希クハ

閣下海洋ノ雅量ヲ以テ暫ラク左ノ陳情ヲ許サレントヲ

第一 陳情ノ要旨

夫レ花蕚ハ輸出ノ重要品タリ其製織ノ統一ヲ要メンガ爲メニ又其取引ノ整備ヲ計ランガ爲メニハ素ヨリ之ヲ一地方ノ事業トシ甘シス可カラズ必スヤ全國ノ同業者ト利害ノ商量ヲ共ニシ得失ノ攻窮ヲ同シフシ内、該品ノ實質ヲ高ムルト同時ニ外、需用地ノ信用ヲ固メ上、國富ヲ補フト共ニ下、私福ヲ増サンコハ夙ニ本組合ノ期スル所ナリ同業組合聯合會ハ此希望ヲ達スルノ最好機關タルヲ信スルガ故ニ本組合ハ深ク該會設置ノ提案ヲ賛シ該會設置ノ議ニ參シタリ其意ニ曰ク法律ニ遵ツテ同業組合相互ノ氣脈ヲ通シ大体ノ一致協合ヲ固フシテ漸次斯業發達ノ目的ヲ達スルノ方針ヲ採ラント蓋シ實業ノ進歩ハ咄嗟ノ能クスル所ニ非ス一朝ノ奮意敢テ急激ノ改變ヲ行ヒ該業全般ノ利害ヲ顧ミサルハ縱シ其目的ノ善美ナルニモセヨ百障千碍相踵テ起リ遂ニ之ヲ實行スル能ハザルニ至ルヲ常トス當ニ其改變ヲ實行スル能ハサルノミナラズ爲メニ該業ノ根底ヲ傷ヒ退步衰廢云フ可カラザルノ巨害ヲ招致スルコハ歷々タル事實之ヲ証シテ餘師アリ故ニ本組合ガ聯合會ニ對スル希望ハ該會ノ設置ニ付テハ深ク慎重ヲ加ヘ先ツ大体ノ結合ヲ固フシ切瑳琢磨各地方ノ事

情相通スルヲ待チテ漸次該業ノ弊根ヲ芟除シ月前年進以テ該會十全ノ希望ヲ完成セント然ルニ三縣ノ方針ハ全ク之ト背馳シ急遽過激ノ變動ヲ該業ノ上ニ加エ漫リニ架空ノ妄想ヲ逞シフシテ毫モ實業改善ノ難事ヲ解セサルモノ、如シ是レ本組合ノ深ク該會ノ將來ニ向ツテ憂慮スル所其邊カニ三縣ト行動ヲ與ニスル能ハサルノ理由眞ニ茲ニ存スルナリ

第二 三縣ガ聯合會ヲ設置シテ直チニ實行セントスル企業ノ要点

別紙聯合會定款第一章第四條第二号(花薊ノ中央檢査ヲ行フ)ハ三縣提案者カ聯合會設置ノ主眼トシ該會ノ死活ヲ決セルノ要点ナリ其意ニ曰ク外人ニ對スル花薊業者ノ勢力ハ實ニ微中ノ微ニ陷リ彼レノ鼻息ヲ窺フテ戰々僅カニ取扱品ノ通過ヲ希フニ過キス取引ノ位置彼ハ王侯ノ如ク我ハ奴隸ノ如シ彼ト對等ノ位置ヲ保チテ以テ取扱品ノ價位ヲ爭フガ如キハ未タ邦人ノ夢想セサル處是レ眞ニ痛嘆ノ至リナリ故ニ花薊ノ中央檢査ヲナシテ其品等ヲ正確ニシ聯合ノ力ヲ假リテ以テ商權ノ回復ヲ計ラント其意甚タ佳シ唯タ其方法ノ事情ニ適セス目的ノ架空ニ属スルヲ如何セン試ミニ三縣ノ論旨ニ基キ其中中央檢査ニ付テ有スル希望ノ要点ヲ分ツテ左ノ二段トナシ精細ノ利害ヲ陳述セン

第一段 製品統一ノ手段ハ中央檢査ヲ行フニ在ル事

第二段 中央檢査ハ商權回復ノ好手段ナリ

第三 製品統一ノ手段ハ中央檢査ヲ行フニ在リトノ意見ハ誤謬ナリ

聯合會發起者カ中央檢査ニ對シ唱導スル意見ノ第一段タル本項ハ實ニ花薊業ノ休戚ニ關スル者ナルカ故ニ

須ラク慎重ノ注意ヲ以テ其利害ヲ觀察セサル可カラズ今本組合ハ本項ヲ實地ニ應用シテ生スルノ弊害五ヲ舉ケテ之ヲ詳陳ス蓋シ實際ノ經驗ト事情トニ據ルナリ

其一 經費ノ過増

聯合検査所ヲ神戸ニ設置シテ製品ノ統一ヲ計ラントノ提議ハ外觀甚タ佳ナルカ如シ然レモ神戸ノ市場ハ有數ノ要地ニシテ物價高直天下ニ比ナシ花莖ハ元來粗大ノ商品ナルガ故ニ之カ検査ヲ行フニハ多數ノ人員ト宏大ノ土地家屋倉庫ヲ要ス隨ツテ三縣ノ唱フル如キ十分ノ花莖検査ヲ神戸ニ行ハンニハ少クトモ一卷ニ對シ拾錢ノ検査料ヲ徴収セサル可カラス（該創立總會ニ於テ岡山ハ一卷參錢說ヲ出シ廣島ハ五錢兵庫ハ八錢トシ交渉纏ラス殆ント破綻ニ歸セントシ臨席主務官ノ仲裁ニ依リ（別紙仲裁案參照）一卷五錢ト協定セルモ是レ表面上一時ノ彌縫ニ止マリ到底右検査料ヲ以テ十分ノ功ヲ舉ゲンコハ三縣自身已ニ之ヲ信スル能ハサル者ノ如シ）此検査料ハ結局地方組合ノ負擔ニ歸スル者ニシテ譬ヘハ本組合ニ於テ一年八万卷ノ產出アル者トスレハ正ニ八千圓ノ負擔ヲナサル可カラズ此高額ノ検査料ヲ拂ツテモ尙ホ中央検査ヲ購フノ價値アル乎乞フ漸次中央検査ノ眞價ヲ弁セン

其二 中央検査ニ依リテ製品ノ統一ヲ計ルノ方法ハ實行シ難シ

蘭製花莖ハ全一ノ蘭草ヲ原料トシ之ヲ製織スル者ナレバ何地ノ製品モ全一ナル可キガ如シト雖モ至ル所ノ土質ニ從ヒ蘭草ハ自然色澤硬軟ノ差アリ譬エハ三備ノ原料ト筑後ノ原料トニハ其ノ間實ニ霄壤ノ別アルカ故ニ今二地ノ原料ヲ以テ同一ノ職工ヲシテ全一ノ模様ヲ織出サシムルモ二者ハ畫然別種ノ製品ヲ生

シ到底之ヲ全一束トナス可カラズ尙ホ之ヲ細別スレハ全シ筑後ノ原料中ニモ甲郡乙村大ニ其質ヲ異ニスルモノアリ是等ハ到底全一物トシテ取扱難キヲ以テ中央検査ニ於テモ之ヲ別種品トシテ検査セサル可カラズ殊ニ注文品ニ至リテハ引受品ノ全額ハ同時ニ輸送ス可キ者ニ非ス譬エハ千卷ノ注文ヲ受ケタル當業者ハ五拾卷百卷或ハ貳百卷ト製出漸次之ヲ輸送スル者ナルガ故ニ是等ハ中央検査ニ於テハ殊ニ前後齊一ノ検査ヲ行フニ困難ス可シ

反之地方検査特ニ本組合ニ於テハ深ク此点ノ統一ニ注意シ定款ノ規定（本組合定款第二章第二款第十四條第十五條第十六條參照）ニ從ヒ注文外ノ製品ニ對シテハ第一種品標本臺帳ヲ調製シ之ニ據リテ検査ヲ遂ケ注文品ハ注文ヲ受ケタル當業者ヨリ見本ヲ添エテ組合事務所ニ届出テ其見本ニ據リテ検査ヲ行フガ故ニ（此検査法ハ組合設置後日尙ホ淺ク準備整頓セサルヲ以テ未タ實施セスト雖準備ハ日々取急ギツマアリ）之ヲ中央検査ノ粗雜ニシテ汎博ナルニ比スレバ精密ノ度已ニ數層ヲ加エタル者ト云フ可ク製品統一ノ法蓋シ之ヲ捨テ、他ニ求ム可カラサルナリ

其三 地方検査ヲ必要トスル特殊ノ事情

聯合會發起者中殊ニ地方ノ狀況ニ通セサル神戸花蔭商及工場組織ニ依リテ製織スル組合員ヲ以テ成立セル岡山縣花蔭全業組合ノ如キハ中央検査ヲ勵行スレバ直チニ製品ノ改善ヲナシ得ルト云フト雖是地方ノ狀況ニ通セサルノ謬見ナリトス前記岡山縣ノ如ク工場組織ノ製作法ニ成レル地方ハ大ニ事情ヲ異ニス可シト雖筑後地方ノ花蔭ハ悉ク農家ノ副業トシテ戸内製造ニ成ル者ナルガ故ニ製品ノ一定ハ愚カ先ツ第一

ニ粗製濫造ヲ防止スル爲メニ朝夕各戸ニ附添フテ其製造ヲ監督獎勵スルノ必要アリ是レ地方ノ農民ハ其智度尙ホ酷タ低ク唯目前ノ些利ニ安ンスルヲ知テ未タ永遠宏大ノ利益ヲ計ル所以ヲ知ラズ動モスレバ監督者ノ目ヲ喻ミテ粗品ヲ製シ濫造ヲ試ミントス若シ夫レ此等ノ儕輩ヲ放置シテ一日其爲ス所ニ委セン乎輸出貿易品タル花薙ハ忽チニシテ製造ノ退歩ヲ招キ需用者ノ信用ヲ墮シ取引杜絶ノ慘境ニ陥ルハ當地方ニ於テ己ニ數十回ノ經驗ヲ重スル所ナリ故ニ本組合ニ於テハ常ニ検査員ノ半數以上ヲシテ地區内ヲ巡視セシメ製造業者ノ監督獎勵ヲ怠ラス將來ニ大花薙ノ改良ヲ行ントスルニハ此方法ノ益々切要ナルヲ信スナリ

製造業者ノ監督獎勵ト輸出検査ノ勵行(販賣業者ノ監督獎勵)トハ地方組合ノ最大要務ニシテ一日モ之ヲ緩フス可カラサルノ實狀アルハ前顯陳述スル所ノ如シ然ルニ一旦中央検査ヲ以テ地方検査ニ代エン乎勢ヒ此ノ要務ヲ廢セサル可カラス此要務ヲ廢セン乎辛フシテ改善ニ赴キツ。アル花薙ハ再ヒ廢頗ノ極ニ陷リ有望國產ノ命脈モ遂ニ枯死ニ歸セント更ニ疑フ可クモアラス

其四 地方検査ヲ廢シテ中央検査ニ代フルハ實業上ノ慣習ヲ激變スル者ナリ

以上陳述スル所ノ如ク花薙業ノ實狀ニ照シ地方同業組合ハ其地方ノ習慣感情利害其他ノ事情ニ鑑ミ地方恰當ノ検査法ヲ制定シテ之ヲ其組合ニ適用シツ。アリ是組合ノ發達上最モ緊要ノ事務トス然ルニ三縣提案ノ如ク果シテ中央検査ヲ行フトスレバ其結果必ス地方検査ト抵觸シテ兩立ス可カラサル者トナルガ故ニ地方検査ハ勢ヒ之ヲ廢止スルカ又ハ有名無實ニ歸セサル可カラス果シテ斯クノ如クナルハ取り直

ナス地方組合ノ事情ニ適應シテ成立セシ地方組合ノ定款ヲ塗抹スル者ニシテ其影響ノ及フ處實ニ恐ル可キ者アリ故ヲ以テ中央検査ノ効力ハ假リニ較著ナル者アル可シトスルモ之カ實行ヲナスコハ慎重ニ慎重ヲ加ヘザル可カラス然ルニ彼レ提案者ハ未タ利害ノ攻究ヲナサズ未タ事情ノ調査ヲ遂ゲス聯合會創立ト同時ニ此ノ重大事件ヲ實行シ敢テ實際ノ影響ヲ顧ミルナカラントス是レ即チ漫ニ急激ノ改變ヲ好ンテ以テ貴重ノ實業ヲ玩弄スル者其舉動ノ輕躁ナル本組合ノ深く採ラサル所ナリ

其五 一中擇一其重キヲ取ラサル可カラス

或ハ曰ク地方検査誠ニ好シ中央検査モ亦利ナラサルニ非ス何故ニ地方中央兩ツナカラ検査ヲ行フノ策ニ出テサルト是レ又タ地方ノ狀況ニ通セサル迂論ナリ今中央検査ニ依リテ得ント欲スルノ利益ハ地方検査ニ依リテ之ヲ收ムルニ容易ナリ否中央検査ノ粗雜汎博ナルハ地方検査ノ精緻周循ナルニ如カス已ニ精緻周循ノ地方検査ヲ勵行スル以上ハ更ニ粗雜汎博ノ中央検査ヲ行フノ必要ヲ見サルナリ又タ或ハ曰ハン中央検査ハ地方検査ノ覆審ニ過キス謂ハ、同事ヲ繰リ返ス者ナリ然レモ事物ノ精選ハ其度ヲ重ヌルニ從ツテ其粹ヲ極ム一回ノ検査ハ之ヲ二回ノ検査ニ比シテ劣ルコアル可キハ事物自然ノ理ニ非サヤト夫レ然リ中央検査ノ方法ニシテ地方組合ト抵觸セサルノ手段アラシメハ二回ノ検査ハ或ハ一回ノ検査ニ優ラン然レモ若シ此ノ二回検査ヲ行フトスレハ經費ノ負擔ニ堪ヘサルヲ如何セン方今本組合ノ維持ニ要スル經常費已ニ五千圓ヲ下ラス此ノ地方組合費已ニ組合員ノ負擔ニ餘リアリ之ニ加フルニ八千圓（其一參照）ノ經費ヲ以テセハ組合能ク之カ負擔ニ堪ユ可キヤ夫レ然リ假リニ二回検査ヲ必要トスル

モ經費已ニ之ヲ許サス況ンヤ其所謂二回検査ナルモノハ無用ノ長物タルニ於テオヤ

復タ又々或ハ曰ハン聯合會定款ニ據レハ中央検査料ハ受檢者ノ仕拂フ可キ者ニシテ地方組合ノ負擔ニ非
ス組合費ハ之ニ關セサルナリト試ミニ言者ニ問ハン汝ノ喫スル煙草ノ課税ハ果ノ何人ノ負擔ナル乎地方
製造業者ハ直接中央検査料ヲ拂ハスト雖其製織スル花蒔ハ販賣業者ノ利益ヲ減スル限度ニ應シテ其價額
ヲ引下ケサル可カラス是レ間接ニ検査料ヲ負擔スルニ非スシテ何ソヤ地方組合員ハ己ニ地方組合費ノ負
擔ヲ輕シトセス之ニ加フルニ尙中央検査費ヲ以テス安ンソ能ク其負擔ニ堪フル所ナランヤ
以上ノ如クスルヲ以テ中央検査ヲ行フトスレハ地方検査ハ之ヲ廢セサル可カラス於是乎二中擇一其重キ
ニ從フノ必要ヲ生ス中央検査ヲ採ラン乎地方検査ヲ採ラン乎其ノ利害較著ニシテ更ニ贅弁ヲ費スノ要ナ
シ今日ノ勢地方検査ハ一日モ之ヲ廢ス可カラス

第四 中央検査ハ商權回復ノ好手段ナリトノ希望ハ空想ナリ

聯合會發起者ハ中央検査ノ利益ヲ唱導シテ曰中央検査ハ以テ花蒔ノ品位ヲ高ム可シ是レ商權回復ノ好手段
也ト是レ蓋シ架空ノ妄想ニシテ謬見ノ酷シキ者也中央検査ノ迂遠ニシテ地方検査ノ適切ナルニ如カサルハ
前段ニ於テ弁陳セル所ノ如シ此ヲ以テ花蒔ノ品位ヲ高メントノ希望ハ一ノ夢想タルニ過キサル可シ縱シ一
歩ヲ讓リ中央検査ハ以テ幾分花蒔ノ品位ヲ高ムルノ効力アリトスルモ是ヲ以テ直ニ商權回復ノ保障トナサ
ントノ希望ヲ抱クハ迂愚ノ甚タシキ者ナリ其故如何曰検査ノ効力ハ單ニ品質ノ善良ヲ保証スルニ過キス而
テ所謂商權ナル者ハ賣買對手ノ資力ト手腕トニ因リテ生スル者ナリ如何ニ善良ノ商品ヲ有スルモ賣者ノ資

力ト手腕ニシテ買者ニ劣ラン乎取引ノ結果ハ常ニ賣者ノ敗トナリ價額上進スル能ハス權力伸張スル能ハス
是レ蓋シ自然ノ理ナリ去邇本組合ト雖製品ノ検査ヲ以テ取引ニ毫末ノ關係ナシトスル者ニ非ス検査ヲ行フ
テ商品ノ正確ヲ保證スルハ取引ノ準備トシテ第一着ノ手段タル可キハ信シテ疑ハサル處然レモ此保證ノ一
アレハ取引ノ輸贏ヲ決スルニ他ニ待ツ處ナシトスルハ大ニ謬レリトセサルヲ得ス商權回復ノ方法ハ検査勵
行ノ一点ニ安ンス可カラス製品改善ノ一事ヲ恃ム可カラス要花莖取引者ノ資力ト手腕トヲ養フニ在リ今神
戶港ニ於テ花莖ヲ取引スル邦人ト外人トノ權衡ヲ見ヨ彼ハ巨資ト信用トヲ有シ手腕ト經驗トヲ有ス邦人ノ
彼レニ對スル者此ノ要点ニ付テ總テ彼ニ及ハサルニ非スヤ商權ノ彼ニ歸シ取引我ノ輸トナル畢竟ノ力爲メ
ノミ果シテ然レハ取引市場ニ於テ彼ト輸贏ヲ決センニハ速ニ根本的ノ強素ヲ形成シ堂々タル商陣ヲ張リテ
彼ト對抗スルノ外ナキニ非スヤ然ルニ此ヲ之レ勉メス漫ニ検査ヲ嚴ニスト云ヒ聯合ノ力ニ倚ルト云フモ元
ト是レ空拳ヲ揮ツテ利刃ニ敵スル者豈成功ノ望アラシヤ以上ノ事情アルニヨリ本組合ハ聯合會發起者ノ提
案ニ係ル中央検査ヲ必要トセス隨ツテ該會定款ノ大部ヲ賛スルモ其検査ノ一項ニ付テハ遂ニ賛同ノ意ヲ表
スル能ハス

第五 法律ノ精神ニ適スル聯合會ノ設置

法律ノ愛養慈育スル所ハ主トシテ同業組合ニ在リ故ニ聯合會定款ニシテ同業組合ノ定款ニ抵觸シ延ヒテ同
業組合ノ基礎ヲ破壞スルカ如キノ結果ヲ生スルノ憂アランニハ斷シテ其規定ヲ實行セシム可カラス
特ニ検査規定ノ如キハ花莖ノ存亡興廢ニ直接ノ影響ヲ及ホスモノ故ニ其地方當業者ノ程度ニ應シ其慣習ヲ

重シ其事情ヲ鑑ミ慎重ノ注意ヲ以テ之カ規定ヲナサ、ル可カラス然ルニ聯合會ニ於テ地方ノ狀況ニ頓着ナク咄嗟検査規定ヲ議定シ之ヲ各地ノ同業組合ニ適用セント欲スルカ如キハ實ニ危險ノ甚シキ者ト謂ハサルヲ得ス

然ラハ聯合會ノ成立ニ關シ法律ノ眞意ハ如何ニ之ヲ解ス可キ乎曰ク聯合會ハ該法第六條ニ據リ大体ノ意見ヲ同フスル同業組合ハ相集リテ之ヲ設置スルヲ得ヘシ而シテ其業務モ亦全國同業者大体ノ氣脈ヲ通シ總般ノ進歩ヲ計ルニ適當ナル方法ヲ行フ可キナリ検査規定ノ如キニ至リテハ該會ヲ組織スル全國同業組合カ悉ク之ヲ承認スル場合ハ格別若シ一組合ニテモ之ヲ承認セサル者アルハ之ヲ該會全体ニ適用スル者トシテ規定ス可カラス（聯合中一部ノ同業組合カ其一部ニ適用スルノ特約ヲ以テ之ヲ規定スルハ差支ナシ）何トナレハ法律ハ同業組合大体ノ結合トシテ聯合會ヲ待ツ者ナレハナリ

然ルニ三縣發起ノ聯合會ハ其大体ノ結合ヲ固フスルヲ勉メス相互ノ氣脈ヲ通スルヲ事トセス漫ニ細節ニ入リテ地方組合定款ト抵觸スルノ検査規程ヲ設ケ直接之ヲ地方組合ニ適用セントス是蓋シ地方ノ事情ト慣習トヲ尊重セスシテ妄リニ自治ノ特權ヲ蹂躪スル者自治ノ特權ヲ蹂躪スルハ假リニ之ヲ恕ス可シトスルモ爲メニ法律ノ精神ニ悖ルニ至リテハ遂ニ之ヲ恕ス可カラス

若シ夫レ三縣提案ノ如ク聯合會定款ノ検査規程ハ地方組合ノ検査規程ト抵觸スルモ尙ホ直接之ヲ地方組合ニ適用スル者トセハ是聯合會ノ成立ト同時ニ地方組合ハ消滅スルナリ之ヲ聯合會ト云ハスシテ一ノ大ナル同業組合ノ創立ト云フノ優レルニ如カス而シテ法律第六條ノ規定ハ遂ニ空文ニ屬スルヲ免レサルナリ以上

ノ如クナルカ故ニ之ヲ地方ノ事情ニ徴スルモ法律ノ精神ニ據ルモ三縣提案ノ聯合會定款ナルモノハ到底不穩當ノ規定タルヲ免レス依テ該會カ其規定ノ定款ヲ捧ケテ

閣下ノ認可ヲ申請スル場合ニハ先ツ左ノ要件ニ付キ訂正アランヲ希望ス

一 該定款中花蒔検査ニ關スル條項ハ暫ラク之ヲ刪除セラレタキヲ
而シテ左ノ二ヶ條ヲ定款ニ挿入セラレタキヲ

一 同業組合聯合會ハ同業組合ノ検査ヲ勵行セシメ又ハ其製品ヲ統一スル爲メ大体ニ關シ共通ノ検査規程ヲ設クルヲ得

共通検査規程ノ實施ハ巡視員ヲ置キ之ヲ監督セシム

一 聯合會加盟ノ同業組合中特ニ事情ヲ同フスルカ爲メ必要ト認ムル者アル場合ニハ聯合検査規定ヲ設クルヲ得

聯合検査規程ハ共通検査規定又ハ同業組合定款ノ検査規程ニ抵觸スルヲ得ス

聯合検査ニ關スル一切ノ經費ハ其規定ヲ適用スル同業組合ニ於テ之ヲ負擔ス

以上ノ如クナルキハ聯合會設置ノ爲メ一部ノ不幸者ヲ生スルノ弊ナキノミナラス同業組合悉ク結合ノ利益ヲ享クルヲ得而シテ法律カ聯合會ノ設置ヲ認メタルノ意茲ニ初メテ貫徹スルニ至ラン矣

終リニ臨ンテ尙ホ一言ス可キハ本組合縱令ヒ聯合ニ加盟セスト雖該會定款ニシテ全然認可セラル、ニ於テ、花蒔ノ神戸賣込商(即チ聯合組合員)ノ手ニ歸スルモノハ該定款ニ據リ検査ヲ受クルトナルカ故ニ(別

紙第八條參照）本組合モ亦タ受檢ノ結果ヲ免カル、ヲ得ス（筑後花薊モ亦悉ク神戸港ヲ經テ輸出セラレ且其過半ハ神戸賣込商ノ手ニ依リテ外人ニ賣渡サル）果シテ然レハ本組合ハ聯合ニ加盟セサルモ其實之ニ加盟シタルニ同シク（聯合會ノ利益ハ之ヲ享クルヲ得サルモ）該會ノ缺點タル檢査ノ不利ハ遂ニ之ヲ辭スルヲ得ス是レ其利害關係ノ絶大ナル本書陳情ノ止ム可カラサル所以ナリ

縷々ノ言漫ニ

閣下ノ煩ヲ爲ス一義ノ罪多シ然リト雖事實業ノ盛衰ニ係リ萬止ムヲ得サル者アリ伏シテ希クハ閣下ノ聰明顯智ヲ以テ深ク採擇ヲ賜ハンコヲ尊嚴ヲ冒瀆シテ恐懼出ル所ヲ知ラス 頓首稽首

筑後莫蔭同業組合

明治三十二年七月

日

組長

稻

益

一

義

農商務大臣 曾 禰 荒 助 殿

一 神戸、岡山、廣島三縣ノ日本花薊同業組合聯合會ハ全年十一月二日主務大臣ノ認可アリ

一 明治三十四年八月一日兵庫縣廳内ニ於テ日本花薊同業組合聯合會ノ協議會開設ニ付組長稻益一義評議員近藤善太郎水落精一下川七平上神左ノ意見ヲ發表シ協議續ラス

一 聯合會ハ其成立ノ要素タル同業組合ニ對シテハ可及的其十分ノ活動ヲナサシムルノ方針ヲ採ルヘシ

二 花蕨實質ノ改良ハ同業組合ノ施設ニ待ツヘキモノナルヲ以テ之ニ關シ聯合會ハ大体ニ關スル方針ヲ指示シ同業組合ヲ督勵スルノ外細節ニ入りテ同業組合ノ施設ニ干涉スヘカラス

三 聯合會ハ斯業界ノ智識ヲ集中シ斯業ノ現在及將來ニ付内外ノ形勢ヲ詳察シ矯弊進歩ノ方案ヲ立テ之ヲ同業組合ニ實施セシムヘシ

四 製品檢査ハ當然同業組合ノ責任ニ屬スルヲ以テ之ヲ同業組合ノ施設ニ一任シ聯合會ハ同業組合カ其責任ヲ全フシツ、アルヤ否ヤヲ精査スルノ機關ヲ設ケ又タ其責任ヲ全フセサル場合ノ處分法ヲ設クヘシ

五 聯合會定款ニハ斯業ノ改良及利益増進ニ關スル該會ノ議決ヲ同業組合ニ實行セシムルニ當リ同業組合定款ノ變更ヲ要スル場合ニハ其變更ヲ強制シ得ルノ規定ヲ設クヘシ但地方ノ狀況ニ依リ同業組合カ定款ヲ變更スルモ其事項ヲ實施スル能ハサル事情アル片ハ其事情ヲ辨疏シテ變更ノ猶豫又ハ免除ヲ請求シ得ルノ箇條ヲ設クヘシ

六 聯合會經費ハ加入組合ニ於テ分擔スヘシ但各組合產額ニ對シ一卷ニ付金參錢ヨリ多カラサル範圍ニ於テ之ヲ徵收スル事尤モ花蕨產地ニ非サル同業組合ニハ一定ノ金額ヲ定メ之ヲ賦課スル事

一 明治三十七年十一月岡山縣ニ於テ全國花蕨同業組合聯合會設立ニ關シ照會來リシ故組長溝田精一及代表委員吉田清一佐田恒助ノ兩名出席シ左記ノ事項ヲ決議セリ茲ニ於テ始メテ聯合會成立ノ端緒ハ開カレタリ

全國花莖同業組合代表者協議會決議

一 兵庫、岡山、廣島、福岡、大分、石川六縣花莖同業組合ハ官設花莖檢査所成立ノ時ヲ期シ左記ノ目的

方法ニ依リ聯合會ヲ組織スルモノトス

一 花莖營業上ノ諸取締

二 花莖販路ノ擴張ノ爲メ海外出張所設置其他ノ事務ニ從事スルコ

三 花莖及原料製造器ノ改良方法講究

四 花莖商況其他ノ調査報告

二 役員議員等ノ人員選定方法左ノ如シ

一 組長、副組長各一名會議ニ於テ選舉ス

二 顧問ノ必要アルキハ設置スルノ制トシ選舉者ハ會議トス

三 評議員ハ一組合一名宛トシ各組合組長ヲ以テ之ニ充ツ

四 議員ハ左ノ割合ニ依リ選出ス

岡山ハ四名、其他一組合二名宛

五 事務員ハ必要ニ應シ適宜組長ノ採用ニ任ス

三 聯合會經費ハ檢査品ニ本數割ヲ賦課シテ之ニ充ツ

一 一ヶ年經費ノ概算ハ壹萬參千圓トシ製産高ヲ六十五万本ト見積リ一本ニ付金貳錢宛ヲ課ス

經費ノ決算報告ハ會議ヨリ評議員會ニ委任スルコトシ支出ノ節約ヲ計ルモノトス
四 事務所ハ神戸市ニ設置スルモノトス

創立委員ハ一組合二名宛トシ神戸市ニ會合スルモノトス

創立ノ諸費ニ充ツル爲メ一組合ヨリ金百圓宛創立總會ノ際持寄ルモノトス

創立事務所及諸準備事務ハ現在ノ聯合會ニ委託ス

附 帶 決 議

官設検査所ノ成立ヲ見サルルハ前記各條項ノ外ニ左ノ業務ヲ加ヘテ聯合スルモノトス

一 花筵検査標準ヲ聯合決議シテ定メ各組合ヲシテ遵奉セシムルコト

二 検査事務ハ各組合ノ自治ニ任スト雖ル聯合會ニ監督員ヲ置キ検査ノ當否ヲ監督セシムルコト

三 荷改所ヲ聯合事業トシテ設置スルコト

一 明治三十八年二月神戸市ニ於テ岡山、廣島、兵庫、福岡、石川、大分ノ六縣組合ヲ聯合シ日本花筵同業組合聯合會創立總會開設ニ付近藤善太郎、吉田清一ノ兩名創立委員トナリ組長熊本壽人一同出席シ聯合會成立シタリ

付帶決議トシテ次ノ改撰期ヨリ岡山縣議員數ヲ各縣同様貳名ト決定シタリ故ニ岡山縣ニ於テ異議起リテ認可申請書ニ調印セサリシ爲メ設立認可延引シ三十九年七月ニ至リ主務大臣ノ認可ヲ得タリ

然ルニ舊三縣（舊聯合會岡山廣島）ト新三縣（福岡、石川、大分）ノ意見合ハス每會議論二派ニ分ル、

ヲ以テ各地ノ狀況ヲ視察スルト同時ニ一方ニハ其融和策ニモナルベシトテ四十年ヨリ議會開催地ヲ各縣ニ廻スコトナリ其第一回ヲ全年十月船小屋ニ開催シタリ次テ四十一年ニハ石川縣金澤市ニ於テ開催セリ

一 明治四十二年三月正副組長滿期改撰ノ結果該會解散ノ動機トナリ全年八月遂ニ解散ノ決議ヲナシ十二月十一日主務大臣ノ認可ヲ經タリ

日本花莖同業組合聯合會ノ定款及正副組長ハ左ノ如シ

聯合會創立ノ際ヨリ 四十二年三月迄	組長	犬飼源太郎
聯合會創立ノ際ヨリ 四十年三月迄	副組長	杉原孝三
四十年四月ヨリ 四十二年十二月迄	副組長	磯部熊太郎
四十二年五月就任 全 年十二月迄	組長	熊本壽人

一 本縣撰出聯合會議員ノ人名及任期左表ノ如シ

在任期間	住所	氏名
自明治三十九年九月 至全 四十年一月	三瀨郡蒲池村	近藤善太郎
全 上	八女郡水田村	吉田清一
自明治四十年一月 至全 四十二年一月	三瀨郡木室村	熊本壽人

自明治四十年二月	全	郡木佐木村	北	島	利
至聯合會解散當時					
自明治四十二年二月	全	郡木室村	水	落	精
至聯合會解散當時					一

左ニ參考トシテ日本花蒔同業組合聯合會定款ヲ掲ク即チ

日本花蒔同業組合聯合會定款

第一章 總 則

第一條 本會ハ左ノ同業組合及ビ聯合會ヲ以テ組織ス

神戸花蒔商同業組合

岡山縣花蒔同業組合

廣島縣花蒔同業組合

福岡縣花蒔同業組合

石川縣輸出花蒔同業組合

大分縣蒔業同業組合聯合會

第二條 本會ハ日本花蒔同業組合聯合會ト稱シ事務所ヲ兵庫縣神戸市ニ設置ス

第三條 本會ハ聯合各組合ノ氣脈ヲ通ジ花蒔業上ノ弊害ヲ除キ改良ヲ獎メ其安固發達ヲ計ルヲ以テ目的ト

ス

第四條 前條ノ目的ヲ達スル爲メ本會ハ左記ノ業務ニ従事ス

一 聯合組合員營業上ノ諸取締

二 製品改良販路伸張ニ關スル施設

三 聯合各組合ガ花薊ニ賦課スル經費ノ徴收

第五條 本會ニ於テ使用スル印章ノ雛形ハ左ノ如シ

方一寸二分

日本花薊
同業組合
聯合會

方一寸二分

日本花薊
同業組合
聯合會
出張所

方六分

日本花薊
同業組合
聯合會組長

方六分

日本花薊同
業組合聯
合會副組長

第二章 營業取締

第六條 聯合組合員其花薊ヲ神戸港ニ送付シタルトキハ全港着荷ノ際直ニ農商務省花薊検査所ニ差出スベシ

第七條 聯合組合員製造ノ花薊ニハ必ず其首尾兩端ニ各二寸五分以上ノ區劃ヲ立テ白蘭ヲ織込ミ尙其末端ノ縱糸ハ締括リヲナスベシ

聯合組合員ハ前項ノ仕上ゲヲ施シタル花薊ニアラサレバ之ヲ賣買シ又ハ取扱フコトヲ得ズ

第八條 聯合組合員ハ左記ノ行爲ヲナスコトヲ得ズ但第一號第二號ノ場合ニ於テ正當ノ事由アルモノハ此

限リニアラス

一 注文ノ中止取消

二 代金支拂又ハ物品調達ノ延滞

三 注文品ヲ其注文者以外ニ賣渡シ又ハ他ノ注文品ヲ買入レ若クハ其賣買ノ媒介ヲナスコト

四 爲替付荷物ニ對スル不正ノ行爲

五 右ノ外契約ノ不履行及ヒ營業ノ安固信用ヲ害スル不當ノ行爲

第九條 聯合組合員ニシテ花薙賣込ノ業ニ從事シ又ハ自ラ輸出業ヲ兼營スルモノハ開業前左ノ區別ニ依リ其所屬組合組長ノ証明ヲ得テ本會ニ届出ツヘシ

一 營業所及ヒ住所氏名

二 支店若クハ代理店ヲ有スルモノハ其所在并名稱

三 會社若クハ組合ニ於テハ業務擔當者ノ住所氏名

四 使用人ヲ有スルモノハ其使用人ノ住所氏名

賣込業トハ輸出營業人ト直接ニ花薙ノ賣買取引ヲナシ又ハ輸出營業人ト他ノ花薙營業人トノ中間ニ立チ花薙ノ仲買仲立若クハ其代理取次ヲナスモノヲ云フ但聯合組合員ニシテ聯合組合外ノモノト取引ヲナシタルトキハ其相手方カ外國人ナルハ其需用供給ノ目的如何ニ拘ハラズ聯合組合員ノ行爲ハ賣込業ト見做ス

輸出業トハ外國ノ需用者ニ對シ直接ニ花薙ヲ賣渡シ又ハ内外國人間受ケ渡シノ依托ヲ受ケ本邦花薙ノ輸出ヲナスモノヲ云フ

第十條 前條第一項ノ各號ニ異動ヲ生シタルトキ又ハ廢業シタルトキハ其都度所属組合組長ノ証明ヲ得テ本會ニ届出ツヘシ

第十一條 聯合組合員ハ其花薙ヲ農商務省花薙檢査所ニ提出スルト同時ニ本會賦課徵收金及ヒ其所属團體ヨリ本會ニ依托シタル賦課徵收金ヲ本會事務所ニ納付スヘシ

第十二條 聯合組合員其花薙ヲ農商務省花薙檢査所提出前他人ノ手ニ交付スルトキハ左ノ區別ニ基キ該檢査所提出者ニ於テ第六條第十一條ノ規定ニ服從セシムルノ條件付契約ヲ締結スルヲ要ス

一 運送取扱業者又ハ代人ニ委シテ提出シタルトキハ其取扱代人ニ於テ條件ヲ履行スルコト

二 爲替付貨物トナシタルトキハ爲替貸出人及ヒ荷受人ニ對シ條件履行ノ承諾ヲ受ケ置クコト

三 賣却又ハ委託販賣ニ付シタルトキハ買受人又ハ受托人ニ於テ條件ヲ履行スルコト

第十三條 聯合組合員花薙ヲ取扱ヒタルトキハ其花薙力聯合組合外ノ製產品ニシテ自己ノ關係ハ單ニ好意上ノ代辦ニ出テ商行爲ヲ形成セサルトキト雖モ第六條第十一條第十二條ノ義務ヲ免ル、コトヲ得ス

第十四條 聯合組合員第十二條ノ義務ヲ果サル爲メ聯合組合外ノ受檢者ニ於テ第六條第十一條ノ執行ヲ拒絶シタルトキハ違約處分ニ付スルノ外尙左ノ處分ヲ行フ

一 第六條第十一條違反ノ物品ハ受檢人ノ承諾ヲ得テ違約處分ノ結了スル迄本會ノ適當ト認ムル箇所ニ

押収ス但之レカ爲メ受檢人ニ蒙ラシメタル損害及ヒ押収ニ要シタル費用ハ違反者タル聯合組合員ノ負擔トス

第十五條 聯合組合員相互間若クハ聯合組合員ト聯合組合外ノモノト營業上ノ紛議ヲ生シ組長ニ對シ判定

ヲ求メタルトキハ組長ハ評議員會ノ意見ヲ聞キ和解又ハ判定ヲナスヘシ

前項判定請求ノ相手方聯合組合員ナルトキハ答辨ヲナスノ義務アルモノトス

第十六條 組長ノ判定ニ對シ不服ナルモノハ會議ノ審判ヲ求ムルコトヲ得

前項ノ場合ニ於テ請求人ノ申立否認セラレタルトキハコレカ爲ニ要シタル費用ハ請求人ノ負擔トス

第十七條 和解及ヒ判定審判ニ關スル手續細則ハ會議ノ決議ヲ以テ定ム

第十八條 輸出商人若クハ國外需用者ニシテ左ノ各項ニ該當スルトキハ組長ハ會議ノ決議ヲ經一ケ年以内

ノ期間ヲ以テ聯合組合員トノ取引拒絕ヲ行フ

一 第十二條ノ契約ヲ無視シ第六條第十一條ノ實行ヲ拒絕スルモノ

二 第十四條第一號ノ處分ヲ承諾セサルモノ

三 第八條ニ違反シタル商行爲ヲナスモノ

四 紛議ノ判定又ハ審判ノ確定條件ヲ履行セサルモノ

五 聯合組合未加入ノ聯合組合地區内營業者ト花蒔ノ取引ヲナシタルモノ但重要物産同業組合法ニ依リ

加入ヲ免除セラレタルモノハ此限ニアラス

六 右ノ外本會ノ業務ヲ阻害スルモノ

第十九條 取引拒絶施行前ノ契約ニシテ取引中途ニ屬スルモノハ其取引ニ限り取引拒絶後ト雖組長ノ承諾ヲ得テ繼續履行スルコトヲ得但當該取引者ニシテ取引拒絶實施前其取引高期限品目代價等ヲ具シ豫メ組長ノ承諾ヲ得タルモノニアラサレハ繼續履行ヲ許サ、ルモノトス

前項ノ物品ハ引渡ノ都度組長ノ檢閲ヲ受クヘシ

第二十條 花薙ノ運送取扱業者ニシテ左ノ各項ニ該當スルトキハ第十八條ニ準シ聯合組合員ノ荷物取扱ヲ拒絶ス

一 第十二條ノ契約ヲ無視シ第六條第十一條ノ實行ヲ拒絶スルモノ

二 第十四條第一號ノ處分ヲ承諾セサルモノ

三 花薙荷主ノ不當行為ヲ幫助又ハ曲庇シ其他本會ノ業務ヲ阻害スルモノ

第廿一條 取引又ハ取扱ヲ拒絶セラレタルモノ改悛ノ情狀ヲ表シタルトキハ組長ハ會議ノ決議ヲ經テ其取引又ハ取扱拒絶ヲ廢止ス但聯合組合員ハ組長ヨリ一定ノ期日ニ依リ其廢止通知ヲ受ケタル後ニアラサレハ取引又ハ取扱委托ヲ開始スルコトヲ得ス

第廿二條 聯合組合員ハ本會役員又ハ組長ノ附與シタル臨檢證ヲ所持スルモノニ於テ營業取締上又ハ違約處分上臨檢ヲナストキハ之ヲ拒ムコトヲ得ス

第三章 製品改良及ヒ販路擴張ニ關スル施設

第廿三條 本會ハ毎年度豫算定額内ニ於テ左ノ諸件ヲ實施ス

一 花薊及ヒ其原料並ニ製造器ニ關スル改良方法ノ講究

二 花薊及其原料製産ノ狀況及ヒ花薊業ト他ノ事業トノ關係調査

三 花薊商況ノ調査及ヒ取引上改良法ノ講究

四 海外樞要ノ箇所ニ出張所ヲ置キ又ハ視察員實業練習生ヲ派シ内外事情ノ疏通ヲ計リ聯合組合員ニ對スル取引上ノ媒介又ハ其通信報告ニ從事スルコト

五 花薊又ハ類似品競争品見本ノ蒐集並ニ海外ニ對スル花薊見本ノ送付

六 定期及ヒ臨時ニ花薊ニ關スル有益事項ヲ蒐集シ報告書ヲ發行スルコト

第廿四條 本會ハ花薊業ニ關スル調査又ハ聯合組合員ニ對シ花薊ノ注文若クハ取引ノ紹介ヲ依托セラレタルトキハ其依托者ノ何人タルヲ問ハス無手数料ニテ調査紹介ヲナスヘシ但特ニ多大ノ實費ヲ要スルモノハ其實費ヲ請求スルコトアルヘシ

第廿五條 本會ハ花薊及ヒ其原料製造器ノ共進會品評會ヲ開キ又ハ他ノ博覽會共進會出品ノ獎勵取纏メヲナスコトアルヘシ

第廿六條 本會ハ花薊業ニ對スル有功者ヲ表彰シ及ヒ有益ナル發明其他ニ就キ證明ノ請求アリタルトキハ審査ノ上證明書ヲ交付ス

第廿七條 本會ハ花薊業改良除弊販路擴張ヲ計ル爲メ必要ト認ムルトキハ官廳ニ諸願又ハ建議シ官廳ヨリ

諮問アリタルトキハ調査答申スヘシ

第四章 聯合組合ノ加入脱退及ヒ其權利義務

第廿八條 聯合外ノ花蒔同業組合ニシテ加入ノ申込ヲナシタルトキハ正副組長及ヒ評議員其交渉委員トナリ當該組合ノ代表者ト左ノ事項ヲ協定スヘシ

一 役員議員ノ定數及ヒ選出方法

二 本會ノ財産又ハ負債ニ對スル加入組合ノ權利義務關係

三 經費分擔方法

四 加入組合ニ於ケル特殊ノ事情ニ依リ添付若クハ取除條件ヲ申込タルトキハ其採否及ヒ方法

五 右ノ外加入ニ依リ本會ニ影響ヲ及ホスヘキ事項

第廿九條 前條ノ協定纏マリタルトキハ組長ハ會議ヲ招集シ其諾否ヲ決スヘシ

會議ニ於テ前項組長ノ協定條件ヲ不當トスルトキハ會議ハ本會ノ承諾シ得ヘキ極限ヲ定メテ決議シ組長ハ更ニ決議ノ範圍内ニ於テ交渉ヲ遂ケ諾否ヲ決スルモノトス

第三十條 聯合各組合ハ本定款及ヒ本會ノ決定ニ依リ組長ヨリ通知シタル事項ハコレヲ遵守スル義務アル

モノトス

第三十一條 聯合組合ハ其組合カ花蒔ニ賦課スル經費ノ徵收ヲ本會ニ委托スルコトヲ得

第三十二條 本會ノ財産又ハ負債ニ對スル聯合各組合間ノ權利義務ハ平等トス但第三者ニ對スル本會ノ義

務ニ付テハ聯合組合連帶無限ニコレヲ負フモノトス

第三十三條 聯合各組合ハ左記ノ場合ヲ除クノ外本會ヲ脫退スルコトヲ得ス

一 其組合又ハ聯合會ノ解散

二 本會ニ於テ除名ヲ決議シタルトキ

前項第一號ノ場合ニ於テ其解散カ任意ニ出ツルモノナルトキハ解散前當該組合ヨリ其旨ヲ本會ニ報告スヘシ

第三十四條 本會ヲ脫退シタル組合アルトキハ組長ハ本會ノ財産及ヒ負債ニ付キ精算ヲ遂ケ脫退組合ノ負擔又ハ本會財産分配額ヲ定メ會議ノ決議ヲ求ムヘシ

第三十五條 加入及ヒ脫退ニ關スル決議ハ會議ニ於テ議員定數ノ三分ノ二以上ノ同意ヲ要ス

第五章 役員及ヒ事務員

第三十六條 本會ニ左ノ役員及ヒ事務員ヲ置ク

役員

組長 一名

副組長 一名

評議員 六名

事務員

理事 事務所及ヒ出張所ニ一名宛

技士 若干名

書記 若干名

巡視員 若干名

第三十七條 本會ニ顧問若干名ヲ置ク

顧問ハ會議ニ於テ選舉ス

第三十八條 組長副組長ハ會議ニ於テ選舉シ其任期ハ二ケ年トス

評議員ハ聯合各團體當任ノ組長ヲ以テ之レニ充ツ組長故障アルトキハ副組長代理スルコトヲ得
理事及ヒ技士ハ評議員會ノ協賛ヲ經テ組長之レヲ選任ス

書記及ヒ巡視員ハ組長之レヲ選任ス

第三十九條 左ニ掲タル事項ノ一ニ當ルモノハ組長副組長ノ被選權ヲ有セス

一 聯合組合地區内ニ於テ花蒔業ニ從事シ一ケ年ヲ經ザルモノ

二 重禁錮一ケ年以上ノ刑ニ處セラレ又ハ商業及ヒ農工業ヲ妨害スル罪ヲ犯シ刑ニ處セラレ滿期又ハ赦

免後二ケ年ヲ經ザルモノ

三 公權ヲ剝奪セラレタル者又ハ其停止中ノ者

四 復權セサル破産者及ヒ家資分散者

五 本會若クハ聯合各組合ニ於テ違約過怠處分ヲ受ケ滿一ケ年ヲ經サル者

第四十條 組長ハ本會ノ事務ヲ總理シ本會ヲ代表ス

副組長ハ組長ヲ補佐シ組長故障アルトキハ其職務ヲ代理ス

評議員ハ組長ノ諮問ニ應シ本定款所定ノ事件ニ參與シ兼テ本會ノ庶務會計ノ監督ス

組長副組長共ニ故障アルトキニ於ケル評議員ノ代理順位ハ評議員ノ互選ヲ以テ定ム

組長副組長ニシテ任期滿了其他ノ事由ニ依リ退職シ其職務ヲ行フモノナキトキハ後任者就職スル迄其職務ヲ行フモノトス

理事ハ役員ノ指揮ヲ受ケ庶務會計ヲ掌理ス但出張所理事ハ其出張所ニ於ケル事務ヲ分掌スルモノトス
技士ハ役員及ヒ理事ノ指揮ヲ受ケ技術ニ關スル事務ニ従事ス

書記ハ役員及ヒ理事ノ指揮ヲ受ケ庶務會計事務ニ従事ス

巡視員ハ役員及ヒ理事ノ指揮ヲ受ケ定款違反者ノ巡察事務ニ従事ス

第四十一條 役員ハ名譽職トス但組長副組長ニハ會議ノ決議ヲ經テ報酬ヲ支給ス

役員出張スルトキハ旅費ヲ支給ス其額ハ會議ノ決議ヲ以テ定ム

理事技士ノ俸給額ハ評議員會ノ協賛ヲ經テ組長コレヲ定メ書記巡視員ノ給料額ハ組長之レヲ定ム
事務員ノ旅費額ハ評議員會ノ決議ヲ以テ定ム

第四十二條 評議員會ハ組長之レヲ招集ス

第四十三條 評議員ハ組長ノ措置失當ナリト認メタルトキ又ハ緊急必要ト認メタルトキハ定數ノ五分ノ二

以上ノ同意ヲ得テ評議員會ノ招集ヲ組長ニ求ムルコトヲ得組長此請求ニ應セサルトキハ自ラ招集ヲナス
コトヲ得

第四十四條 評議員會ハ組長ノ措置失當ナリト認ムルトキハ其決議ヲ以テ會議ヲ招集スルコトヲ得

第四十五條 評議員會ニ於テ議定スヘキ事件左ノ如シ

一 出張所ノ設置廢止

二 違約處分

三 事務員ノ任免黜陟并ニ賞罰

四 海外視察員又ハ實業練習生ノ選定

五 庶務會計ノ監査

六 經費ノ決算及ヒ業務成績ノ認定

七 事務執行上ノ諸規程

八 豫備費ノ支出

九 組長ノ諮問ニ答ヘ又ハ意見ヲ開陳スルコト

第四十六條 評議員會ノ議長ハ組長ヲ以テ之レニ充ツ但第四十三條第四十四條ノ場合ハ出席員ノ互選ヲ以

テ議長ヲ定ム

組長故障アルトキハ第四十條ノ代理順位ニ相當スル役員之レヲ代理ス

第四十七條 評議員會ノ議事ハ評議員半數以上出席シ其過半數ニ依リ決議ス可否同數ナルトキハ議長之レヲ決ス

第四十八條 評議員會ノ議事方法ハ會議ノ例ニ依ル

第七章 會議

第四十九條 會議ヲ分チテ通常會臨時會ノ二種トス

通常會ハ毎年十月ニ之レヲ開キ臨時會ハ必要ト認ムルトキニ之レヲ開クモノトス
通常會ノ開期ハ五日以内臨時會ノ開期ハ三日以内トス

議員ハ役員ノ措置失當ナリト認メタルトキ又ハ會議ノ必要アリト認メタルトキハ議員三分ノ一以上ノ同意ヲ得テ會議ノ招集ヲ組長ニ催告スルコトヲ得組長此催告ニ應セサルトキハ自ラ會議ヲ招集スルヲ得
第五十條 會議ニ於テ議定スヘキ事項左ノ如シ

一 定款ノ變更

二 經費ノ豫算及ヒ賦課徵收法

三 公借及ヒ其償却方法

四 役員ノ撰舉

五 取引又ハ荷物取扱拒絶ノ實行及ヒ廢止

六 紛議和解及ヒ判定審判手續

七 紛議判定又ハ違約處分ニ對スル不服ノ審判

八 聯合組合ノ加入脱退ニ關スル件

九 役員ニ係ル違約處分

十 官廳ノ諮問ニ答ヘ又ハ建議請願ヲナスコト

十一 本會ノ解散

十二 右ノ外必要事項

第五十一條 會議ノ目的事項及ヒ日時場所ハ招集者ヨリ招集期日十四日前ニ各議員ニ通知スヘシ但至急ヲ要スルトキハ此日數ヲ短縮スルコトヲ得

第五十二條 會議ノ議長ハ組長ヲ以テ之レニ充ツ組長及ヒ其代理者故障アルトキハ出席議員ノ互選ヲ以テ定ム

第四十九條第四項後段ノ場合ニ於ケル會議ノ議長ハ出席議員ノ互選ヲ以テ定ム

役員及ヒ議員中自己ノ身上ニ關スル事件ヲ議スルトキハ其議事中ハ自ラ退席スヘシ

第五十三條 會議ハ議員過半数出席シ其過半数ニ依リ決議ヲナス可否同數ナルトキハ議長之レヲ決ス再招集ノ會議ニ於テハ議員定數ノ三分ノ一以上ノ出席者ニ於テ決議スルコトヲ得

前二項ノ規定ハ定款變更聯合組合ノ加入脱退及ヒ本會解散ノ議事ニ適用セス

第五十四條 議員ノ定數ハ十四名トシ岡山縣花莖同業組合ヨリ四名廣島縣花莖同業組合神戸花莖商同業組

合福岡縣花莖同業組合石川縣輸出花莖同業組合及ヒ大分縣花莖同業組合聯合會ヨリ各二名宛ヲ撰出ス

第五十五條 議員ノ任期ハ二ケ年トス但シ補缺議員ノ任期ハ前任者ノ殘任期間トス

第五十六條 議員ノ當撰及ヒ任期中ノ退任ハ當該組合ノ組長ヨリ本會ニ報告スヘシ

本會ニ於テ現在議員ノ資格消滅ヲ認メタル場合ニ於テハ組長ヨリコレヲ當該組合ニ通知ス此通知ヲ受ケタル組合ハ一ケ月以内ニ補缺員ヲ定メコレヲ本會ニ報告スヘシ

議員ノ改選ハ現在者ノ任期中ニ聯合各組合ヨリ本會ニ報告スヘシ

第五十七條 初任ノ議員ハ其當選狀ヲ組長ニ示シタル後ニアラサレハ議席ニ列スルコトヲ得ス

第五十八條 議員會議ニ出席シタルトキハ旅費ヲ支給ス其額ハ會議ノ決議ヲ以テ定ム

第五十九條 議事ニ關スル細則ハ會議ニ於テコレヲ定ム

第八章 會計

第六十條 本會ノ會計年度ハ曆年ニ依ル

第六十一條 本會ノ經費ハ花莖賦課金並ニ雜收入金ヲ以テ支辨ス

前項ノ實收入額ヲ要費ノ支出ニ對シ不足シタルトキハ公借トシ翌年度ノ收入金ヲ以テ償却シ若シ剩餘金アルトキハ翌年度ヘ繰越スモノトス

第六十二條 豫算費目中一欸内ノ項目ハ組長ニ於テ便宜流用スルコトヲ得

豫備費ノ支出ハ評議員會ノ決議ヲ經ルヲ要ス

第六十三條 經費ノ決算ハ每會計年度三ヶ月以内ニ評議員會ニ報告シ其承認ヲ經テ同期月内ニ聯合各組合及ヒ農商務大臣ニ報告スルモノトス

第六十四條 本會ニ於テ取扱フ金錢ハ評議員會ニ於テ指定シタル銀行ニ預ケ入レ置キ必要アル毎ニ引出スモノトス

第六十五條 金錢ノ収支ニ關スル細則ハ會議ノ決議ヲ以テコレヲ定ム

第九章 違約處分

第六十六條 違約處分ハ事ノ輕重ニ從ヒ組長專決シ又ハ評議員會ノ決議會ヲ經テ組長コレヲ行フ但役員ノ違約處分ハ此限ニアラス

第六十七條 組長ノ處分ニ服セサルモノハ處分ノ通知ヲ受ケタル日ヨリ十日以内ニ會議ノ審判ヲ請求スルコトヲ得但コレガ爲メ處分ノ執行ヲ妨ゲズ

前項ノ場合ニ於テ請求人ノ申立相立タザルトキハコレガ爲ニ要シタル費用ハ請求人ノ負擔トス

第六十八條 役員ニ於テ違約ノ所爲アルコトヲ認知シタルトキハ其處分ヲ結了スル迄證據物件ヲ事務所若クハ役員ノ相當ト認メタル場所ニ押收スルコトヲ得但保管中避ク可ラザル事故ニ依リ毀損滅失スルコトアルモ役員ハ其責ニ任ゼズ

第六十九條 左ノ各號ノ一ニ該當スルモノハ五圓以上五百圓以下ノ過怠金ヲ課ス

一 第六條ニ違背シタルモノ

二 取引又ハ荷物取扱拒絶ニ違背シタルモノ

第七十條 左ノ各號ノ一ニ該當スルモノハ參圓以上參百圓以下ノ過怠金ヲ課ス

一 紛議ノ判定又ハ審判ノ確定條件ヲ履行セザルモノ

二 第七條第八條ニ違背シタルモノ

三 第九條第一項ノ届出ヲナサズシテ花莖ノ賣込又ハ輸出ニ從事シタルモノ及ビ全項第二號并ニ第四號以外ノモノヲシテ業務ヲ取扱ハシメタルモノ

四 第十條ノ届出ヲ怠リタルモノ

第七十一條 左ノ各號ノ一ニ該當スルモノハ貳圓以上貳百圓以下ノ過怠金ヲ課シ其第一號ニ該當スルモノハ同時ニ賦課金ヲ追徴ス

一 本會又ハ聯合各組合ノ花莖賦課金ヲ逋脱シ第十二條ノ契約ヲ怠リ賦課金ノ滯納ヲ致シタルモノ

二 第二十二條ノ臨檢ヲ拒ミタルモノ

三 右ノ外本會ノ信用ヲ害シ若クハ本定款ノ施行ヲ阻害スベキ不當行爲ヲナシタルモノ

第七十二條 違約處分ヲ受ケタルモノハ其通知ヲ受ケタル日ヨリ十日以内ニ過怠金ヲ事務所ニ差出スベシ

第十章 雜 則

第七十三號 此定款ヲ變更セントスルトキハ會議ニ於テ議員定數三分ノ二以上ノ同意ヲ得コレヲ決議シ農

商務大臣ノ認可ヲ受クルモノトス

第七十四條 本會ヲ解散セントスルトキハ會議ニ於テ議員定數五分ノ四以上ノ同意ヲ得テコレヲ決議シ農

商務大臣ノ認可ヲ受クルモノトス

第七十五條 本會ノ解散決議ヲ認可セラレタルトキハ組長ハ認可書到達ノ日ヨリ十日以内ニ財産目錄及ビ

貸借對照表ヲ調製シ清算人ニ事務ノ引繼ヲナスベシ

清算人ハ二名トシ評議員ノ互撰ヲ以テ定ム

第七十六條 本會ハ毎會計年度後三ヶ月以内ニ業務成績ヲ評議員會ニ報告シ其承認ヲ得同期月以内ニ聯合

各組合及ビ農商務大臣ニ報告スベシ

第七十七條 聯合組合員ヨリ農商務省花菰検査所ニ差出シタル花菰ハ本會ニ於テ相當價格ヲ見積リ在庫中

火災保險ニ付シ置キ罹災ノ場合ニハ當該保險會社ヨリ受領シタル金額ヲ受檢人ニ交付スルモノトス

第七十八條 本會ノ決議其他組長ニ於テ聯合組合員ニ通知ヲ要スト認ムル事件ハ組長ヨリ聯合各組合ノ組

長ニ通知シ尙時宜ニ依リ便宜ノ方法ヲ以テ公告スルコトアルベシ

附 則

第七十九條 本會初度ノ役員ハ創立總會ニ於テ選舉ス

本會初度ノ組長副組長及ビ議員ハ其上任期ノ如何ニ拘ハラズ明治四十年三月三十一日迄就任スルモノト

法律第三十五號

(明治三十三年三月六日)

重要物産同業組合法

第一條 重要物産ノ生産、製造又ハ販賣ニ關スル營業ヲ爲ス者ハ同業者又ハ密接ノ關係ヲ有スル營業者相集リテ本法ニ依リ同業組合ヲ設置スルコトヲ得

重要物産及ビ密接ノ關係ヲ有スル營業ノ種類ハ農商務大臣ノ認定ニ依ル

第二條 同業組合ハ組合員協同一致シテ營業上ノ弊害ヲ矯正シ其利益ヲ増進スルヲ以テ目的ト爲ス

第三條 同業組合ヲ設置セムトスルトキハ豫メ地區ヲ定メ其地區内ノ同業者三分ノ二以上ノ同意ヲ得テ創立總會ヲ開キ定款ヲ議定シ農商務大臣ノ認可ヲ受クベシ但二種以上ノ營業者相集リ組合ヲ設置セントスルトキハ各種營業毎ニ三分ノ二以上ノ同意ヲ要ス

第四條 同業組合設置ノ地區内ニ於テ組合員ト同一ノ業ヲ營ム者ハ其組合ニ加入スベシ但營業上特別ノ情況ニ依リ農商務大臣ニ於テ加入ノ必要ナシト認ムル者ハ此限ニ在ラズ

第五條 同業組合ハ組合相互ノ氣脈ヲ通ジ其目的ヲ達スル爲メ同業組合聯合會ヲ設置スルコトヲ得

同業組合聯合會ヲ設置セムトスルトキハ其創立總會ヲ開キ定款ヲ議定シ農商務大臣ノ認可ヲ受クベシ

第六條 同業組合及ビ同業組合聯合會ハ法人トス

同業組合及ビ同業組合聯合會ハ營利事業ヲ爲スコトヲ得ズ

第七條 同業組合及ビ同業組合聯合會ノ定款ノ變更ハ各其定款ノ規定ニ從ヒ之ヲ議定シ農商務大臣ノ認可ヲ受クベシ

第八條 同業組合及ビ同業組合聯合會ハ左ノ役員ヲ置クベシ

一 組 長 一 名

一 副 組 長 若 干 名

一 評 議 員 若 干 名

前項ノ役員ノ外定款ノ規定ニ依リ他ノ役員ヲ置クコトヲ得

役員ハ同業組合ニ於テハ組合員中ヨリ同業組合聯合會ニ於テハ聯合會ヲ組織スル同業組合ノ組合員中ヨリ之ヲ選舉シ農商務大臣ノ認可ヲ受クルコトヲ要ス

第九條 組長ハ其同業組合又ハ同業組合聯合會ヲ統轄シ其事務ヲ擔任ス

副組長ハ組長ノ事務ヲ補佐シ組長故障アルトキハ之ヲ代理ス

評議員ハ組長ノ諮問ニ應ジ及ビ業務施行ノ狀況ヲ監查スルモノトス

副組長及ビ評議員ハ定款ノ規定ニ依リ組長ノ擔任スル事務ノ一部ヲ分掌スルコトヲ得

組長副組長共ニ故障アルトキハ評議員之ヲ代理ス

第十條 同業組合及ビ同業組合聯合會ハ各其定款ニ於テ違約規定ヲ設ケ組合員ノ營業品ヲ檢査スルコトヲ得

同業組合及ビ同業組合聯合會ハ各其定款ニ於テ違約者ニ關スル規定ヲ設ケ違約者ニ對シ過怠金ヲ徴シ違約物品ヲ沒收スルコトヲ得

第十一條 同業組合及ビ同業組合聯合會ノ經費ノ豫算並徵收法ハ各其定款ノ規定ニ從ヒ之ヲ議定シ農商務大臣ノ認可ヲ受クベシ

經費ノ決算及ビ業務成績ハ每年少クトモ一回組合員ニ公示シ農商務大臣ニ報告スベシ

第十二條 同業組合及ビ同業組合聯合會ハ其事務ニ關シ行政廳ニ建議スルコトヲ得又其諮問アルトキハ答申スベシ

第十三條 同業組合及ビ同業組合聯合會ハ農商務大臣又ハ地方長官ノ命ジタル官吏ノ臨檢ヲ拒ムコトヲ得ズ又其質問ニ對シ確實ニ答辯スベキモノトス

第十四條 農商務大臣ハ必要ト認ムルトキハ同業組合及ビ同業組合聯合會ヲ設ケシムルコトヲ得

農商務大臣ハ必要ト認ムルトキハ同業組合ノ地區ノ範圍營業ノ種類又ハ定款ノ變更ヲ命ズルコトヲ得

第十五條 同業組合若クハ同業組合聯合會ノ決議又ハ其役員ノ行爲ニシテ法律命令ニ違背シ又ハ公益ヲ害シ又ハ其目的ニ違背シ又ハ監督官廳ノ命ジタル事項ヲ執行セザルトキハ農商務大臣ハ左ノ處分ヲ爲スコトヲ得

一 同業組合若クハ同業組合聯合會ノ解散又ハ其業務ノ停止

二 役員ノ解職

三 決議ノ取消

第十六條 同業組合若クハ同業組合聯合會解散ヲ爲サントスルトキハ組合員三分ノ二以上ノ同意ニ依リ其事由ヲ具シ農商務大臣ノ認可ヲ受クベシ

第十七條 地方長官ハ其管内ニ於ケル同業組合及ビ同業組合聯合會ヲ監督シ必要アルトキハ意見ヲ具シ農商務大臣ノ處分ヲ請フベシ

第十八條 農商務大臣ハ同業組合及ビ同業組合聯合會ニ關シ其職權ノ一部ヲ地方長官ニ委任スルコトヲ得

第十九條 第四條第十三條ノ規定ニ違背シタル者ハ貳圓以上百圓以下ノ過料ニ處ス

前項ノ過料ニ付テハ非訟事件手續法第二百六條乃至第二百八條ノ規定ヲ準用ス

第二十條 同業組合又ハ同業組合聯合會ノ證票若クハ檢査證ヲ營業品ニ偽リテ附シタル者又ハ偽造、變造ノ證票若クハ檢査證ヲ營業品ニ附シタル者ハ十五日以上六月以下ノ重禁錮又ハ拾圓以上百圓以下ノ罰金ニ處ス

附 則

第二十一條 本法ハ明治三十三年四月一日ヨリ之ヲ施行ス

重要輸出品同業組合法ハ之ヲ廢止ス

第二十二條 重要輸出品同業組合法ニ依リテ設立シタル組合及ビ聯合會ハ本法施行ノ日ヨリ之ヲ本法ニ依リ設立シタルモノト看做ス

第二十三條 他ノ法律中重要輸出品同業組合法ヲ準用スベキモノト定タル場合ニ付テハ本法施行ノ日ヨリ
本法ノ規定ヲ準用シ重要輸出品同業組合法中ノ規定ニ依ルベキモノト定メタル場合ニ付テハ之ニ相當ス
ル本法ノ規定ヲ準用ス

農商務省令第七號

(明治三十三年三月三十一日)

重要物產同業組合法施行規則

第一條 重要物產同業組合法ニ依リ設置スル組合又ハ聯合會ノ名稱ニハ同業組合又ハ同業組合聯合會ナル
文字ヲ附スベシ

第二條 組合ノ地區ハ都市以上ノ區域ニ依ルベシ但特別ノ事情アルトキハ此限ニ在ラズ

第三條 組合ヲ設置セントスルトキハ五名以上ノ營業者ニ於テ其組合ノ地區及ビ營業ノ種類ヲ定メ發起ノ
認可ヲ地方長官ニ申請スベシ

第四條 發起ノ認可アリタルトキハ發起人ハ組合員タルベキ者ニ左ノ事項ヲ通知シ組合設置ノ同意ヲ求ム
ベシ

- 一 組合ノ地區及ビ營業ノ種類
- 二 組合員タルベキ者ノ數但各種營業毎ニ之ヲ區別スベシ
- 三 組合ノ目的及ビ業務ノ概目

四 創立費及ビ經費ノ概算

五 同意表示ノ形式及ビ期間

第五條 法定ノ同意者アリタルトキハ發起人ハ定款ヲ作り遲滞ナク創立總會ヲ招集スベシ

創立總會ヲ招集スルニハ少クトモ二週間前ニ會議ノ目的、日時及ビ場所ヲ組合員タルベキ者ニ通知シ且之ヲ公告スベシ

前項ノ通知ニハ定款ヲ添附スベシ

第六條 定款ハ組合員タルベキ者ノ三分ノ二以上ノ同意アルニ非ザレバ之ヲ議定スルコトヲ得ズ但二種以上ノ營業者組合員タルベキ場合ニ於テハ各種營業毎ニ三分ノ二以上ノ同意アルコトヲ要ス

第七條 總立總會ニ於テハ組合員タルベキ者ハ書面ヲ以テ表決ヲ爲シ又ハ他ノ組合員タルベキ者ニ委任シテ其表決權ヲ行フコトヲ得

第八條 創立總會ヲ終リタルトキハ發起人ハ法定ノ同意者アリタルコトヲ證スル書類定款及ビ創立總會ノ決議録ノ謄本ヲ添附シ組合設置ノ認可申請書ヲ農商務大臣ニ差出スベシ

第九條 創立總會ニ於テハ其議定シタル定款ノ規定ニ從ヒ役員ヲ撰舉シ又ハ經費ノ豫算并ニ徵收法ヲ議定スルコトヲ得

第十條 發起人發起ノ認可アリタル後六ヶ月内ニ組合設置ノ認可ヲ申請セザルトキ又ハ公益ヲ害スル行爲ヲ爲シタルトキハ地方長官ハ發起ノ認可ヲ取消スコトヲ得

第十一條 聯合會ノ創立總會ハ其聯合會ヲ組織セントスル組合ニ於テ撰定シタル委員ヲ以テ之ヲ組織ス
第十二條 聯合會ノ創立總會ヲ終リタルトキハ聯合會ヲ組織スル組合ヨリ聯合會設置ノ認可申請書ヲ農商務大臣ニ差出スベシ

前項ノ認可申請書ニハ定款ヲ添附スベシ

第十三條 組合又ハ聯合會ノ創立費及ビ其償却ノ方法ハ創立總會ノ承認ヲ經ベシ

第十四條 農商務大臣組合又ハ聯合會ノ設置ヲ命ジタルトキハ地方長官ハ創立委員ヲ選定シ且其氏名ヲ公告スベシ

創立委員ハ定款ヲ作り農商務大臣ノ認可ヲ受クベシ

第十五條 組合又ハ聯合會ノ定款ニハ左ノ事項ヲ記載スベシ

一 目的及ビ業務

二 名稱及ビ事務所ノ位置

三 組合ノ地區及ビ營業ノ種類但聯合會ニ在リテハ之ヲ組織スル組合ノ名稱

四 加入及ビ脫退ニ關スル規定

五 組合員又ハ聯合會ヲ組織スル組合ノ權利義務

六 役員ノ資格、權限及ヒ其選任并ニ解任ニ關スル規定

七 會議ニ關スル規定

八 會計ニ關スル規定

九 違約者ノ處分ニ關スル規定

十 定款ノ變更ニ關スル規定

十一 解散ニ關スル規定

十二 營業品ノ檢査又ハ仲裁判斷若クハ調停ヲ爲サントスルルハ之ニ關スル規定

第十六條 定款變更ノ認可申請書ニハ其變更ノ理由ヲ記載シタル書面ヲ添附スベシ

第十七條 組合又ハ聯合會ニ於テ定款又ハ業務ノ執行ニ關スル規定ヲ設クルトキハ其都度農商務大臣ニ届出ヅベシ

第十八條 組合又ハ組合會ノ役員ノ認可申請書ニハ其履歷書ヲ添附スベシ

第十九條 組合又ハ組合會ノ經費ノ豫算并ニ徴收法ノ認可申請書ハ創立ノ場合ヲ除ク外毎會計年度二ヶ月
前ニ差出スベシ

經費ノ決算及ビ業務成績ハ毎會計年度後三ヶ月ニ報告スベシ

第二十條 役員ノ缺ケタル場合ニ於テ補缺選舉ノ手續ヲ行フベキ者アラザルトキハ地方長官ハ組合員ヲ指定シテ其手續ヲ行ハシム

第二十一條 組合又ハ聯合會解散シタルトキハ組合長及ビ副組長ヲ以テ其清算人トス但定款ニ別段ノ定アルトキハ此限ニ在ラス

清算人ハ其氏名住所ヲ地方長官ニ届出ヅベシ

第二十二條 前條ノ規定ニ依リテ清算人タル者アラザルトキハ地方長官之ヲ選定ス

第二十三條 清算人其任ニ適セス又ハ不正ノ行爲アリト認ムルトキハ地方長官ハ清算人ヲ解任スルコトヲ得

第二十四條 清算ガ結了シタルトキハ清算人其結果ヲ地方長官ニ届出ヅベシ

第二十五條 農商務大臣ニ差出スベキ書類ハ地方長官ヲ經由スベシ

附 則

第二十六條 本則施行前ニ重要輸出品同業組合法施行細則ニ依リテ爲シタル組合設置ノ手續ハ本則ニ依リ之ヲ爲シタルモノト看做ス

農商務省令第十三號

第一條 重要物産同業組合ニ關シ左ニ掲ゲタル事項ハ之ヲ其主タル事務所所在地ノ地方長官ニ委任ス

一 役員ノ認可ニ關スル件

二 經費ノ豫算并ニ徴收法ノ認可ニ關スル件

三 經費ノ決算報告ニ關スル件

前記ノ規定ハ同一地方長官ノ管轄ニ屬スル重要物産同業組合ヲ以テ組織シタル聯合會ニ之ヲ準用ス

第二條 地方長官前條ニ依リ處理シタルトキハ農商務大臣ニ其報告ヲ爲スベシ

第三條 本令ハ明治三十五年一月一日ヨリ之ヲ施行ス

第四條 本令ハ本令施行前ニ爲シタル申請及ビ報告ニハ之ヲ適用セズ

明治三十四年十二月二十五日

農商務大臣 平 田 東 助

兵庫縣令第九號

重要物產同業組合（聯合會）經費豫算其他處理規程左ノ通相定ム

明治三十五年一月十五日

兵庫縣知事 服 部 一 三

第一條 重要物產同業組合（聯合會）ニ關シ左ニ掲グル事項ハ各所定ノ書式ニ依リ調製スベシ

一 經費豫算同決算ハ第一號書式

二 組合成績報告書ニ記載スベキ事項ハ第二號書式

第二條 役員就任認可申請書、經費豫算并徴收法認可申請書、經費決算報告書組合成績報告書ハ各三通郡

市役所へ提出シ郡市役所ハ其三通ヲ縣廳へ經由進達スベシ

同業組合（聯合會）ニ於テ調製シタル諸統計ノ類ハ組合成績報告書へ添附シ各三通郡市役所へ提出スベシ

科 目	豫本		對		減		附 記
	算	年	增	度	比		
第一欸何々	四	額	四	度	四		
一							
二							
第二欸何々							
一							
二							
三							
第三欸何々							
歲出合計							
歲入總計							
二							

備考

一 創立費ヲ組合員又ハ組合ヨリ徴收スル場合ニハ必ズ之ヲ豫算ニ編入スベシ

二 歳入及ビ歳出ヲ經常臨時ノ二部ニ區別スルハ適宜トス

三 科目中其節目數多ニ涉リ細分ヲ要スルモノハ欸以下適宜項目ヲ設クルモ妨ゲナシ

四 豫算ノ參考トシテ別ニ説明書ヲ付シ欸毎ニ本年度豫算額前年度豫算額對比増減ノ理由ノ要領説明スベシ

五 附記欄ニハ上欄ノ科目ニ對スル本年度豫算額ノ計算ノ基ク所ヲ掲記スルモノトス

六 豫算ノ變更ヲ要スルトキハ「本年度豫算額」ノ欄ヲ「追加」「更正」「豫算額」トシ「前年度豫算額」ノ欄ヲ「既定豫算額」トシ「附記」欄ニハ追加（更正）豫算額ノ計算ノ基ク所ヲ掲記シ別ニ説明書ヲ以テ對比増減ノ理由ノ要領ヲ説明スベシ

但追加ノ場合ニハ對比増減ノ欄ヲ要セズ

決算式ハ概テ豫算式ニ倣ヒ「本年度豫算額」ノ欄ヲ「決算額」トシ「前年度豫算額」ノ欄ヲ「豫算額」トシ「附記」欄ニハ上欄ノ科目ニ對スル決算額ノ計算ノ基ク所ヲ掲記シ別ニ説明書ヲ以テ對比増減ノ理由ノ要領ヲ説明スベシ

決算上剩餘金ノ處分ハ決算ノ表末ニ之ヲ附記ス
（第二號書式）

業務成績報告書記載事項

一 組合ニ於テ執行スル製品検査其他ノ業務ニ付キ執行ノ情況及ビ其成績検査ニ付テハ検査總點數、

合格點數、不合格點數等可成詳細ヲ要ス

業務數項アルトキハ各項毎ニ區分ヲ要ス

二 前年末ニ於ケル組合員ノ數及ビ其前年末ニ比シ増減ノ數并其事由二種以上ノ營業者相集リテ設置シタル組合ニ在テハ各種營業毎ニ區分ヲ要ス

三 組合經費徵收ノ情況

四 違約處分ヲ爲シタル員數、種類及ビ其事由

五 仲裁判斷若クハ調停ヲ爲シタル事件及ビ顛末

六 最近一ケ年間ニ於ケル物産ノ生産、製造又ハ販賣ノ數量并其價額及ビ其前一ケ年ニ比シ増減ノ數并其事由

七 組合ヲ組織セル營業ニ關スル商況

八 以上ノ外業務ノ情況及ビ其成績ヲ認ムルニ付必要ナル事項

第二編 事業ノ來歴

第一節 莫産ノ濫觴

本縣莫産產出ノ濫觴ニ付キテハ舊記ノ憑ル可キモノナク其ノ何レノ年代ニアルヤヲ知ルニ由ナシ筑後地鑑
(天和癸亥孟夏西以三ノ篇述スル處)ニ據ルニ莫産ニ關スル記事ハ其物産ノ部下妻郡ノ下ニ「馬間田出疊表」
(馬間田ハ八女郡水田村ノ一大字ナリ)三潞郡ノ下ニ「下田浮島之七島蕙之類」又山門郡ノ下ニ「垂見疊」
等ノ記事アルモ漠トシテ其由來ヲ詳ニスル能ハスト雖此等舊記ノ示ス所ニヨリ本縣莫産ノ濫觴ハ遠ク數百
年ノ古ニアルヲ察ス可キナリ口碑ノ傳フル所ニ據レハ上記馬間田ハ疊表(蜆ト云フ即チ本間表)三潞郡大莞
村大字高橋、大藪、奥牟田等ハ中繼表全郡蒲池村大字蒲生木佐木村大字上牟田口ハ花莫産城島町大字下田、
青木村大字浮島等ハ七島蕙ノ創業地ニシテ漸次各地ニ傳播シタルモノ、如シ

第二節 花蕙貿易ノ起原

三潞郡蒲池村故近藤茂三郎全木佐木村故北島德左衛門故牟田口太平全大莞村故松永重助全木室村故添島甚
吉八女郡水田村故下川庄七後藤兵助其他數名莫産取引ノ爲メ長崎ニ往來シ同地商人船大工町幸田屋熊吉
(姓不詳)唐人町常盤屋新兵衛(姓不詳)等ノ紹介ニヨリ安政六年初メテ長莫産(十八間物則チ花蕙)ヲ和蘭陀
人及葡萄牙人ニ賣込ミタリ之ヲ本縣花蕙輸出ノ嚆矢トス而シテ其品種ハ遍羅糸八十經巾貳尺五寸(但鯨尺
巾三尺ノ)長崎目ノ大柄縞(二三寸越ニ色人)ヲ主トシ染色ハ赤(蘇防ト)黑(唐グシ染又ハ菱殻ニテ染)ノ二
モノアリ

此時代ニ於ケル花筵ノ製織ハ現今ノ如ク巧妙ナル織機ナク古來使用シ來リタル二人織機ニ據ルヲトテ卷棒モナク長ノ儘配エ置クト云フ有様ナルヨリ狹キ家屋内ニテハ製織モ出來ヌ次第ナリシカ其後一年餘ニシテ卷付器丈ハ案出シタリ

製織ノ法斯クモ迂遠ヲ極メ且ツ當時ノ製織業者ハ其智度至ツテ低ク全ク貿易ノ何物タルヲ解セサル者ノミナルヨリ約束期限ヲ重ニスル杯ノ思想ハ更ニ之レ無ク注文品ノ調達頗ル困難ヲ極メタリ加之當時徳川幕府ノ威光尙ホ赦々タル時代ナレハ私人ノ對外貿易ハ素ヨリ法ノ禁スル處況シテ他藩人トノ取引サエ困難ナル時代ニシアレハ其取引ノ至難ナリシヤ推シテ知ル可キナリ

機械ハ鈍ク人智ハ低ク無理ニ多額ノ產品ヲ得ントスルヨリ忽チ粗製ニ流レ長物調達出來サル爲メ二間物ヲ繼合セ當座ノ間ニ合セヲ爲ス等數年混雜不都合ヲ重キタルヨリ信用忽チ失墜シ安政末ニハ長莫塵一卷ノ價額長崎賣價五拾五匁(金三步余)ヲ保チ取引行ハ來レリシモノ漸次下落シ文久元年ニ至リテハ三十匁(金二步乃至一步二朱)内外ニ暴落シタルノミナラス末ハ現金取引サエ行ハレス洋反物其他ノ物品ト交換シ辛シテ手放ヲナスノ止ムナキニ及ヒ爲メニ商人ノ倒産ニ頻シタル者多シ

是ノ悲境ニ陥リタル爲メ對外貿易ノ困難ヲ自覺シ商人手ヲ引クノ姿ニテ花筵輸出ハ一時中止トナリシモ是等ノ失敗ハ内部不整頓ノ招ク處花筵貿易其者ハ將來有望ノ事業タルヲハ何人モ之ヲ信スル處ナルヨリ甲退ケハ乙進ミ精良品ヲ撰ミ毎年多少ノ輸出ハ之ヲ繼續シテ十數年ニ亘レリ

第三節 花蔴輸出ノ増減及花蔴輸出業者ノ變遷

遠ク安政萬延ノ交ニアリテハ花蔴輸出ハ全ク草昧ノ時代ニ在リ延ヒテ明治十七八年ノ頃ニ及フモ其產額一千卷ニ上ラス微々トシテ尙ホ國產ノ名ヲ冠スルノ價値ナカリキ明治二十年ニ至リ花蔴ノ輸出漸ク増加ノ傾アリ三瀧郡木佐木村故牟田口太平及益田喜次郎等長莫蔴（即チ花蔴當時尙ホ長莫蔴ノ名ヲ用ユ）輸出ノ中興者トシテ其業ヲ開始シ明治二十三年ニ至リテハ輸出數量五千卷ヲ數エ斯業漸ヤク盛大ニ向ヒタルヲ以テ全二十六年三瀧郡大莞村故中島清藏全郡大川町岩永又次全郡三又村緒方甚三郎八女郡水田村下川友八全郡全村中村源太郎等續々花蔴輸出業ヲ開始シタリ

明治二十七年特許第二一七七號織機ノ初メテ本縣ニ弘布セラル、ヤ花蔴ノ生産力頓ニ激增シ形勢一變暗黒ノ幽界ニ出デ、輝々タル曙光ヲ望ムノ觀アリ續々タル注文ノ旗幟ハ翩翾トシテ生産者ノ眼前ニ翻エサル生産者ハ二人織ノ舊機ヲ捨テ競フテ精巧ノ機械ヲ利用シ先進產地タル岡山縣ヨリ教師ヲ聘用シ傳習鍛鍊修技唯後レンコヲ是レ恐ル、ノ狀アリ全年三瀧郡大莞村赤司浩資全廿八年全郡蒲池村吉開久吉本園平助全郡大莞村荒卷梅太郎全郡田口村下川幸助八女郡水田村淵上和市等花蔴輸出業ヲ開始ス

本縣花蔴界ハ斯クノ如ク一年ニ產額ヲ増大シ活氣凜々明治二十九年三十年ノ交左ノ諸會社ヲ產出セリ即チ

營業目 花蔴賣買 筑後物産株式會社

社長 大莞村朽網浪江後本室村熊本壽人 八女郡水田村吉田清一ニ移レリ

山門郡柳河町大字細工町

營業目 花蔴製造 柳河綾蔴株式會社

社長 柳河町 石橋又一

全郡全町大字瀬高町

營業目 花蔴製造 柳河興産株式會社

社長 城内村 三池親義

三瀦郡蒲池村大字蒲生

營業目 花蔴賣買 南筑花蔴株式會社

社長 八女郡福島町 松延忠次

三瀦郡大川町若津

營業目 花蔴賣買 共同地帯合資會社

社長 熊本縣人 上羽勝衛

明治三十二年ニ至リ前記諸會社ハ大率解散ノ決議ヲナシタルヨリ豫テ父祖ノ遺業ヲ繼ギ花蔴業ニ從事セル
三瀦郡蒲池村近藤善太郎(花蔴輸出開始者茂三郎嗣子)全郡木佐木村北島利(全上徳左衛門孫)八女郡水田村

下川七平(全上庄七嗣子)及三瀧郡木室村水落精一等之ニ代リテ花蕙輸出業ヲ開始シタリ

明治三十三年神戸ノ外商テラー、ターバー商會ハ八女郡水田村吉田清一等ト謀リ花蕙買入店ヲ三瀧郡大
 莞村ニ設置シ後八女郡水田村山門郡柳河町等ニ移轉シ明治三十六年閉店ス

明治三十四年ニ於テハ山門郡柳河町田島鹿次郎三瀧郡木佐木村北島彌藏全郡大川町平田久太郎全三十五年
 全郡大莞村深町平藏全三十六年全郡田口村坂井大吉全三十七年全郡大莞村廣松忠七等各花蕙輸出業ヲ開始
 ス

明治四十年三瀧郡木佐木村北島利北米合衆國オー克蘭ド市ニ向ケ花蕙直輸出ヲ開始シ現ニ全國桑港ニ
 花蕙合資會社ヲ設置シ花蕙ノ直輸ヲナシツ、アリ

以上記スル所ハ則チ本縣花蕙輸出ノ増減及之ニ關スル輸出業者變遷ノ大要ナリ乃チ本節ヲ終ルニ臨ミ左ニ
 本組合創立即チ明治十九年ヨリ全四十一年ニ至ル花蕙並ニ莫蔭ノ產額表ヲ掲ケテ以テ莫蔭ノ消長ヲ概觀ス
 ルノ資ニ供ス

自明治十九年
 至全四十一年 產 額 表

年 別	花		蕙		莫 蔭		計
	數	量	價	額	數	量	
十九年		四、〇〇〇 _本		一六、〇〇〇 _円		三五〇〇、〇〇〇 _本	一八五、五〇〇 _円
二十年		五、〇〇〇		二〇、〇〇〇		三五〇〇、〇〇〇	一八五、五〇〇
							二〇五、五〇〇
							二〇一、五〇〇 _円

二十一年	六、〇〇〇	二五、二〇〇	三五〇〇、〇〇〇	一九二、五〇〇	二一七、七〇〇
二十二年	八、〇〇〇	二四、〇〇〇	三七〇〇、〇〇〇	一八五、〇〇〇	二〇九、〇〇〇
二十三年	一〇、〇〇〇	三〇、〇〇〇	四二〇〇、〇〇〇	一六八、〇〇〇	一九八、〇〇〇
二十四年	一〇、〇〇〇	三三、〇〇〇	三八〇〇、〇〇〇	一九〇、〇〇〇	二二三、〇〇〇
二十五年	一一、〇〇〇	四四、〇〇〇	三六〇〇、〇〇〇	二一六、〇〇〇	二六〇、〇〇〇
二十六年	一一、一三三	四四、五三二	三五〇〇、〇〇〇	二一〇、〇〇〇	二五四、五三二
二十七年	三一、五六三	一一〇、四七一	二〇九五、九六〇	一八一、〇六四	二九一、五三五
二十八年	四〇、五〇二	二四三、〇一二	三六四四、六二五	六九二、四七九	九三五、四九一
二十九年	五四、五一九	三二七、一一四	三二〇五、一二五	六〇八、九七四	九三六、〇八八
三十年	九〇、八一六	四五四、〇八〇	三二六五、九〇〇	五八七、八六二	一〇四一、九四二
三十一年	六九、九一九	三四九、五九五	二八〇二、五二五	五〇四、四五五	八五四、〇五〇
三十二年	六三、八八〇	三五二、三四〇	二八七八、九七五	四八九、四二六	八四〇、七六六
三十三年	八七、二五七	四六〇、七六一	二六二七、三五〇	四六二、四一四	九二三、一七五
三十四年	一二九、〇四五	七〇九、五五二	一四一五、七〇〇	二六四、七三六	九七四、二八八

三十五年	一五一、八〇一	六九八、四二七	一七六八、八〇〇	三〇〇、六九六	九九九、一二三
三十六年	八三、〇五八	二九八、七五〇	二一一六、一二五	三一七、四一九	六一六、一六九
三十七年	七五、〇九八	二七七、八六三	一五七〇、九五〇	二三五、六四三	五一三、五〇六
三十八年	一〇七、三九九	五三八、七七五	九九四、四六〇	一七〇、〇〇三	七〇八、七七八
三十九年	一四三、三一四	八五九、八八四	一一六七、三七五	二四五、一四九	一一〇五、〇三三
四十年	一四二、〇二三	八八〇、五四三	一一九三、五〇〇	二六二、五七〇	一一四三、一一三
四十一年	九四、六六二	三七八、六四八	一四二二、〇九〇	二八四、四一八	六六三、〇六六
四十二年	九九、四六三	三四八、一三一	一四八九、八二五	二九七、九五リ	六四六、〇七一
四十三年	一〇五、六二七	四〇六、三九二	二、〇八三、六二リ	四一六、七二四	八二一、一一六

花菰ノ染色ハ從來蘇防、菱殻、唐節等ノ材料ヲ用ヒ赤黒二色ヲ出スニ過ギザリシガ明治十五六年ニ至リ初メテ染色ニ紅粉、紫粉ヲ用ヒ全十八九年ノ交木室村熊本壽人大莞村境信太郎等岡山縣其他產地及輸出港ヲ視察シ染料ヲ購求シテ試験ヲ施シ之ヲ各所ニ配布シテ使用ノ端緒ヲ開ケリ從來染料ノ不完全ナル爲メ叩キ蘭ノ外染色スル能ハザリシガ新染料ノ使用以來初メテ叩キノ手數ヲ要セス蘭草其儘之ヲ染色スルニ至レリ且ツ從來蘭染ニハ炊事用釜ヲ以テ染料ヲ煮込ミシカ明治二十年熊本壽人熊本市錦製社ノ染釜ヲ模倣シテ長方形ノ釜ヲ案出シ各人之ヲ用ヒ染色スルコトナリシヨリ蘭草屈折ノ患ヲ除キ染業界ニ一進歩ヲ與エタリ

如斯染法ニ於テ一進歩ヲナセリト雖染色ハ各自區々ニ属シ戸々之ヲ行フヨリ其規模至ツテ小ニ一卷ノ花莖尙ホ數段ノ變色アリ(之ヲ腰變ト云フ)製品爲メニ聲價ヲ墜シ檢査又ハ荷渡ノ際不合格トナルハ重ニ染色不揃ノ結果ナリシ明治三十二年ノ交當時組長稻益一義深ク之ヲ患ヒ百方議ヲ凝シテ染色特許ノ法ヲ立テ之ヲ實行セントセシニ外ハ農商務省ニ於ケル營業特占ヲ忌ムノ異論アリ内ハ組合員中各自染色ノ自由ヲ失フヲ不利トシ紛議錯出容易ニ纏マラサリシモ役員ノ決心ハ斷乎不動遂ニ三百餘戸ノ染色業者ヲ淘汰シテ七十餘戸ニ減シ染業ノ規模大ニ擴張シ其整頓ヲ見ルニ至レリ尋テ組合員ノ使用スル染料ノ區々一定セサルヨリ百難ヲ排シテ染料共同購入ノ法ヲ立テ茲ニ漸ク染色界ノ面目ヲ一新スルヲ得タリ

二 技 術

安政以來長莫産ノ製織ハ僅カニ舊機ヲ以テ織リ成セル八十經ノ縞等ニテ其組織至ツテ單純ナリシカ三瀧郡蒲池村大字矢ヶ部ニ木下下技(口中醫師)ナル者アリ莫産製織ノ熱心家ニシテ種々ノ研究ト經驗トヲ重テ廣巾モノ其他嶄新ナル見本ヲ案出シ改良進歩ノ資ヲ供セリ

明治二十七年特許第二一七七號莖織機ノ初メテ本縣ニ齎ラサレ岡山縣ヨリ花莖教師聘用セラレ其技ヲ傳授スルヤ花莖製織ノ技術頓ニ進歩ノ域ニ向ヒシカ當時三瀧郡大莞村境信太郎ハ花莖製造傳習所ヲ全村ニ設置シ教師ヲ置キ傳習生ヲ募リ大ニ花莖技術進歩ノ裨益ヲナセリ

爾後舊式ノ二人織機ハ内國品ノ外之ヲ用ヒス手撚ノ遍羅經ハ多數ノ經數ヲ要スル精巧品ニハ之ヲ用ユル能ハサルヨリ最初紡績綿糸十六手六口合ヲ以テ之ニ代エ後全上二十手六口合ニ改メタリ

明治二十八年花鳥蒔機ノ發明アリテヨリ花蒔製織ノ技術一段ノ進歩ヲナセリ

本縣花蒔産額漸ク増大シ日本花蒔産地トシテハ岡山縣ニ次キ廣島縣ト伯仲スルニ至リタルモ其技術ニ至リテハ尙ホ幼稚ヲ免レサルヨリ明治三十四年ヲ以テ花蒔攻習所ヲ起シ教師ヲ聘シ攻習生ヲ募リ製織、染色、意匠ノ傳習ヲナシ之ヲ一般組合員ニ縦覧セシメタルヲ以テ大ニ花蒔製織ノ技術ヲ發達セシメタリ

明治四十年ニ至リ更ニ捺染工場ヲ設置シ瀋機瀋罐ヲ据付ケ教師ヲ聘シ傳習生ヲ募リ目下尙ホ繼續傳習シツ、アリ

三 機 械

現今製蒔機ハ發明ニ次クニ發明ヲ以テシ花蒔製織用ハ勿論内國品製織用ニテ仲繼表ノ外幾ント舊機ヲ用ユルモノナシ左ニ本縣ニ使用スル製蒔機ノ種類、臺數効用ヲ略述セン

一特許第二二七七號 一萬〇二百臺

一全 第二八一五號 三百二十臺

一全 第二二七九號 三十臺

一全 第一二五六號 五百十五臺

一全 第五二一七號 四千二百二十三臺

一全 第四五三六號 七十臺

計

一萬五千三百五十八臺

各機ノ特質

特許第二一七七號ハ平地織綾地織百五十經ヲ製織ニ便ナリ

全 第五二一七號及第二八一五號ハ共ニ八十經製織用ニテ他ノ苧織機ノ如クベ機械ナクシテ單ニ箠

打チノミヲ以テベムルヲ得ル簡便機ナリ

全 第一二五六號及全第二二七九號ハ澤模様ノ品ヲ製織スルモノナリ

全 第四五三六號ハ三等繭ヲ以テ中繼機織織ヲ製織スルモノナリ

北島利ノ經營ニ係ル八女郡羽犬塚村ニアル水車(麥粉製造)場ノ一方ニ數臺ノ苧織機ヲ据付ケ水力ヲ使

用シ中繼表ヲ製織シツ、アリ

第五節 北米合衆國關稅改正

明治三十年北米合衆國關稅改革ヲ行ヒ本邦花苧ニ置クニ重稅ヲ以テシ神戸ニ於テ原價八圓(即チ七圓七十錢ノ原價ニ參)

拾錢ノ荷造費(即チ凡我)以下ノ花苧一平方碼ニ付米貨三仙(即チ凡我六錢)八圓以上ノモノニハ一平方碼ニ付全七仙

等ノ產額巨大ナル岡山縣ノ如キハ其打撃ヲ蒙ル最モ痛切ナリシ我福岡縣ハ製產ノ技術尙幼稚ニ產品ノ種

類重モニ八圓以下ナリシヲ以テ比較的打撃ヲ蒙ラサリシニ似タリト雖モ之カ爲ニ上等花苧ノ生産ヲ遮止シ

技術ノ進歩ヲ妨ケ單純低價ノ製品ヲ出スヲ常トシ爲メニ製織業者ニ向上進歩ノ念ヲ斷タシメタルハ我花苧

界ニ對シ無形ノ大打撃ヲ與エタルモノト云フ可シ

此ノ狀況ハ十數年間繼續シ花蕙界ヲシテ巧技ノ發達ヲ阻止セシメツ。アリシカ明治四十二年辛ニシテ更ニ米國關稅改革セラレ花蕙ニハ上品下品(三六物乃至九二物ヲ除ク)ヲ通シ米價三仙半ノ平均稅ヲ置カル、トナリ上品生産ノ禁壓ハ茲ニ之ヲ解除セラレタルヲ以テ是ヨリ以往我花蕙界ハ漸次向上進歩ノ念摧揮シ大ニ技術ノ進歩ヲナス可キナリ

第二編 生産狀態

第一節 花蕙及莫蔭ノ生産者

本組合員中花蕙並ニ莫蔭ノ製織ヲ業トスル者ハ大概蘭草、七島草ヲ自作シ花蕙ノ經糸ハ之ヲ販賣業者ニ仰キ莫蔭經糸ハ遍羅。苗ヲ手撫シ各戸少クモ一臺ノ製蕙機アラサルナク農業ノ餘暇家族タル婦女子又ハ下婢等ヲシテ製織ニ從事セシム間ニハ全ク原料ヲ自作セス之ヲ販賣業者ニ仰キテ賃織リヲナス者アレモ之等ハ實ニ僅々ノ數ニテ組合員ノ一割五分ニ過キス

製織業ニハ必ス得意ノ仲買業者アリ仲買業者ハ大概一定ノ賣込業者ニ附屬ス故ニ花蕙ハ賣込業者先ツ在神戶外商ヨリ一定ノ注文ヲ受ケ之ヲ配下ノ仲買業者ニ配付シ仲買業者ハ之ヲ得意ノ製織業者ニ配付シ之カ製織ニ從事セシムルヲ常トス是レ花蕙生産ニ關スル普通ノ狀態ナルモ目今ニ於テハ產出重モニ無地花蕙多ク右等ハ別ニ注文ヲ受クルノ必要ナキヲ以テ製織者ハ隨意ニ製織セリ

第二節 花蒔及莫蔭ノ產地

花蒔及莫蔭ノ產地ハ三瀨郡木佐木村大莞村蒲池村木室村田口村大川町大溝村濱武村久間田村川口村江上村三又村大野島村青木村八女郡水田村山門郡三橋村柳河町城内村沖端村西宮永村東宮永村兩開村大和村瀬高町三池郡江浦村等ニシテ内國需用ノ上敷花蒔機械織ハ重ニ三瀨郡田口村ニ産ス

中繼表ノ主產地ハ三瀨郡大莞村花莫蔭ノ主產地ハ全郡蒲池村木佐木村七島表ノ主產地ハ全郡城島町江上村大溝村木室村田口村青木村三又村大川町等ナリ

第三節 花蒔及莫蔭ノ品質種類

花蒔トハ經ニ紡績綿糸緯ニ蘭草ヲ以テ織リ成シ巾一碼長四十碼ノモノヲ云フ本組合員ノ製織スル花蒔ノ種類ハ綾地織、平地織、機械織、平地飛込、機械飛込、目迫飛込、目迫二百四十經、目迫百八十經、目迫五十經、目迫百二十經、目迫八十經等八分目、並五分目、糸經八分目、並五分目、諸目二百四十經等ニシテ目迫百五十經及ヒ目迫八十經生産額ノ大部分ヲ占ム

莫蔭トハ經ニ遍羅又ハ苧麻ノ手撚糸ヲ用ヒ緯ニ蘭草又ハ七島草ヲ用ヒテ織リ成セル敷物ノ總稱ニシテ其種類ハ古來ヨリ現行定款ニ列記(花蒔機械織ヲ除ク)セルモノト同一ナルモ掛川、八合、七合大目、御繁昌等ノ如キハ

産出次第ニ減少シテ今ハ消滅ノ姿トナレリ

本間表ニ平兵衛莫産ト稱スル者アリ右ハ品質優良ニシテ明和年間三瀨郡大莞村大字筏溝ニ平兵衛ナル者アリ右品ノ製出ヲ創メ其遺訓ニ依リ子孫累代優良品ノ製出ヲ繼承シ一種上等本間表ノ名稱トナリ今日尙ホ最上本間表ノ注文ヲナス場合ハ特ニ「本平兵衛」ノ印ヲ入ル、ナリ

尙ホ現今本縣花莖製織ノ標準カ如何ナル程度ニアルヤヲ知ラント欲セハ左記日本花莖検査所規則施行細則第十條ヲ看ルヲ要ス即チ

第十條 花莖ハ左記各號ノ一ニ該當スルモノヲ不合格トス

一原料蘭不良ナルモノ又ハ不齊ナルモノ

二染色不堅牢ナルモノ色度不齊ナルモノ著色不鮮明ナルモノ又ハ飛形ノモノニシテ著色區畫不判明ナルモノ

三模様ノ形狀、配置不整ナルモノ又ハ其ノ錯誤著シキモノ

四地合ノ粗笨ナルモノ若クハ其密度不齊ナルモノ經糸ノ弛張アルモノ原料蘭彎曲セルモノ又ハ織疵多キモノ

五耳組不完全ナルモノ組蘭ノ數不齊ナルモノ又ハ敷延ハシテ彎曲狀ヲナスモノ

六普通花莖ニシテ幅員二尺九寸五分ニ滿タス若クハ三尺五分ヲ超ユルモノ又ハ其廣狹不齊ナルモノ七腐敗汚損若クハ色違ノ甚タシキモノ品位品質著シク異リタルモノヲ總合ハセタルモノ其他瑕疵ノ甚タ

シキモノ

八左表ニ掲クル製造地ニ於テ其地ニ生産シタル原料ヲ以テ製造シタル左表各種ノ普通花蒔ニ在リテハ左表ノ量目、其他ノ普通花蒔ニアリテハ第十一條ニ依リ花蒔検査所ノ定ムル量目ニ不足アルモノ但シ十丈一尺(英尺ナルトキハ四十碼)ニ過不足アル花蒔ニ在リテハ現品ノ長ヲ以テ其量目ヲ除シテ得タル商二十丈一尺(英尺ナルトキハ四十碼)ヲ乘シタルモノヲ其量目ト看倣ス

種 類	製 産 地	岡 山 縣 廣 島 縣 石 川 縣 福 岡 縣				
		岡	山	縣	廣	島
綾 地	織	五貫九百匁	六	貫		
平 地	織	五貫二百匁	五貫三百匁	五貫五百匁	五貫百匁	
機 械	織	五	貫	五貫百匁	五貫三百匁	五
目迫	百八十經以上	四貫八百匁	四貫九百匁			四貫七百匁
同	百五十經以上	五	貫	五貫百匁	五貫百匁	四貫八百匁
同	百貳十經以上	五	貫	五貫百匁	五貫百匁	四貫八百匁
同	八十經以上	四貫七百匁	四貫八百匁			四貫五百匁
苧經	八分目並五分目		五貫二百匁			五
絲經	八分目並五分目		五	貫		四貫八百匁
平 地	飛 込	五貫五百匁	五貫六百匁	五貫七百匁	五貫三百匁	

機械織飛込	五貫三百匁	五貫四百匁	五貫五百匁	五貫百匁
目迫飛込	五貫	五貫百匁		四貫八百匁
諸目二百四十經	五貫百匁	五貫二百匁	五貫三百匁	五貫
百二十經引通			五貫五百匁	
袋織	五貫八百匁	六貫	六貫二百匁	
紋花薙及錦莞薙三百經以上	四貫四百匁			
紋花薙及錦莞薙三百經未滿	四貫七百匁			

尙ホ左ニ明治二十八年ヨリ全四十一年ニ至ル花薙製織費ヲ表示シ參考ニ供ス即チ

自明治二十八年
至全四十一年
花薙製織費調

年別	蘭草代	經糸代	染代	織賃	計	花薙一本代	差引益金
二十八年	壹圓四拾錢	壹圓五錢	四拾錢	貳圓五拾錢	五圓參拾五錢六	圓	六拾五錢
二十九年	壹圓四拾錢	壹圓五錢	四拾錢	貳圓五拾錢	五圓參拾五錢六	圓	六拾五錢
三十年	壹圓貳拾錢	壹圓	四拾錢	貳圓	四圓六拾錢五	圓	四拾錢
三十一年	壹圓八拾錢	九拾錢	參拾錢	壹圓六拾錢	四圓六拾錢五	圓	四拾錢

三十二年	壹圓六拾八錢	八拾七錢	貳拾五錢	貳圓參拾錢	五圓拾錢	五圓五拾錢	四拾錢
三十三年	壹圓八拾錢	七拾五錢	貳拾錢	貳圓拾錢	四圓八拾五錢	五圓參拾錢	四拾五錢
三十四年	貳圓拾錢	七拾七錢	貳拾錢	貳	圓五圓七錢	五圓五拾錢	四拾參錢
三十五年	貳圓五拾八錢	七拾錢	貳拾錢	九拾五錢	四圓四拾參錢	四圓六拾錢	拾七錢
三十六年	壹圓參拾貳錢	七拾八錢	貳拾錢	壹	圓參圓參拾錢	參圓六拾錢	參拾錢
三十七年	壹圓五拾錢	八拾錢	貳拾錢	壹	圓參圓五拾錢	參圓七拾錢	貳拾錢
三十八年	貳圓拾錢	八拾五錢	貳拾錢	壹圓五拾錢	四圓六拾五錢	五	圓參拾五錢
三十九年	貳圓七拾錢	九拾錢	參拾錢	壹圓七拾錢	五圓六拾錢	六	圓四拾錢
四十年	貳圓貳拾八錢	九拾五錢	參拾錢	貳	圓五圓五拾參錢	六圓貳拾錢	六拾七錢
四十一年	壹圓九拾錢	八拾錢	貳拾錢	九拾五錢	參圓八拾五錢	四	圓拾五錢

第四節 販路ノ消長

花菰ノ需用地ハ主トシテ北米合衆國熱帶地方ニシテ其大部分ハ同國紐育、桑港ニテ集散スルヲ常トス之ヲ外ニシテバ英領亞米利加濠洲、獨逸、布哇、海峽殖民地、英吉利、英領印度、蘭領印度、露領大亞細亞、清國、和蘭、關東州、香港、伊太利、秘露、白耳義、露西亞、佛蘭西、比律賓諸島、智利、丁株、韓國、

佛領印度、墨西哥、暹羅、埃及、澳匈國、西班牙其他南米諸邦等ニシテ需用ノ地域ハ將ニ全世界ニ擴張セラレントス其輸出ヲ介スルノ地ハ神戸、長崎ノ兩港ナリシモ長崎港ノ輸出ハ明治三十一年ニ止ミ今ハ神戸港ノミナリトス

莫薩ノ販路ハ九州、四國、山口、大阪等ノ各府縣ナリシカ近來大ニ滿韓地方ニ擴張セラレツ、アリ（因ニ曰ク舊藩時代藩主ニ納ムル莫薩類ハ三藩郡大莞村松永次助祖先ニ於テ累代之ヲ取扱來リシト云フ）

抑モ我花薙ノ販路ヲシテ益々擴張セシメント欲セバ其需用地ニ於ケル狀況ヲ詳カニシ以テ之ニ應スルノ策ヲ講セサルヘカラス因テ左ニ需用地ニ於ケル花薙使用並ニ各競爭品等ニ對スル狀況等ヲ掲ケ參考ニ供ス

需用地ニ於テ花薙ヲ使用スルハ、專ラ「カーベット」ノ代用品トナスヘキモノニシテ米國南部溫熱ノ地方ニ於テ夏季中等以下ノ人民ニ需用セラル抑モ花薙ノ質タル在米ノ「カーベット」ト異リ乾燥清冷ヲ以テ特長トナスニ依リ北方濕寒ノ地ニ需用少ナクシテ南方燥暖ノ地ニ適スルコト素ヨリ論ナク且ツ米國南方ノ諸州ハ北東部ニ比シ生活ノ度遙カニ低ク高價ナル「カーベット」ヲ購求スルヨリモ花薙ノ美ニシテ廉ナルカ爲メ多ク之ヲ用ユルノミナラス花薙ノ花客ハ獨リ此地方ノミニ止マラス紐育、費府、市俄國教士敦ノ如キ大都會ニテモ多ク之ヲ用ヒ又夏季避暑ノ爲メ設ケタル別墅ナトニテハ特ニ之ヲ用ヒルモノ多シ而シテ「カーベット」トハ方形ノ敷物ヲ指スノ語ナリシカ近來ハ巾一「ヤード」ノ如キ細長ナルモノヲ指スノ語トナリタルヲ以テ花薙ヲ東洋ノ「カーベット」ト稱ス

「カーベット」ハ今ヲ距ル大凡三百年前亞細亞ヨリ歐羅巴ニ傳ヘタルモノニシテ歐洲ニ於テハ五六十年來

巧妙ナル機械ノ發明相踵テ起リ「ノールス」ト稱スル機械ノ如キハ一臺一日ノ產出五十「ヤード」ニ達スルニ至リ價格ノ低廉ニ趣クト共ニ需用ノ區域ヲ擴メ極メテ貧困ナル家ヲ除クノ外ハ殆ント之ヲ用ヒサルハナシ支那花薙ノ初メテ輸入セシモ「カーペット」ノ愈々發達シタル時代ト同シク五十年來ノモノナリシニ支那ノ花薙ハ五十年一日ノ如ク改良ニ意ヲ注カサルカ爲メ其需用ヲ擴張スルコト能ハス之レニ反シ本邦ノ花薙ハ日尙ホ淺キモ一々東洋ノ妙想ヲ表シ外人ノ眼ニハ甚タ之レヲ珍賞セリ殊ニ氣候ハ春秋短カク嚴寒ト酷暑ト交代スルカ如キ米國ニ於テ夏季炎熱毀クカ如キノ時ニ當リ毛織ノ「カーペット」ハ花薙ノ輕快清潔ナルニ若カサルコト遠ク加之「カーペット」ハ高價ナルモノ故十年乃至十五年ニ涉リ其形狀ヲ保ツヲ以テ餘裕アル家ニ非サレハ之ヲ改ムルニ難ク五七年ノ後ニハ色褪メ毛禿ケ塵埃ハ積リ經緯ハ顯レ極メテ不潔ノ觀ヲ呈ス然ルニ花薙ハ一二年毎ニ之ヲ交換スルトキハ清潔ト低廉トニ依リ中等以下ノ人民ニ適スルヲ以テ獨リ北米合衆國ノミナラズ世界各國ニ向ヒ年々花薙需用ノ地方ヲ増加シ來レリ若シ夫レ勉メテ粗製濫造ノ弊ヲ防遏シ各製造家ヲシテ望ヲ遠大ニ期スルノ精神ヲ發揮セシメバ今日ノ輸出額ヲシテ二倍ナラシムルモ蓋シ販路壅塞ノ患ナカラン乎

然ルニ需用地ニ於ケル花薙ノ大部分ハ之ヲ本邦ニ向ツテ供給ヲ受ケツ、アリ左スレハ當業者ハ專ラ該品ノ發展ニ注意シ殊ニ注文品ニ至リテハ尙ホ一層重キヲ置キ製出スヘキハ勿論ナルニ一般花薙ノ相場暴騰スルニ當リテハ忽チ一時ノ利益ニ迷ヒ漫リニ注文外ノ品ヲ製出スルノミナラス粗製濫造ヲ事トシ爲メニ注文契約ヲ不履行ニ終ラシメ取引上ノ信用ヲ失墜シ大頓挫ヲ來セシコト一再ニ止マラス去ル明治三十一

年全三十六年ノ如キハ花蕙業界ノ凶慌ニ逢遇シテ共ニ悲境ニ陥リタルノ年ナリ而シテ其商況ハ漸ク恢復シ明治三十九四十ノ兩年ノ如キハ實ニ好望ニシテ本邦花蕙ノ產額ニ大缺乏ヲ告クルニ至レリ復一部商人ノ不德義ニ因リ注文品數量ニ對シ僅カニ三分ノ一ノ引渡ヲナシタル位ノモノアリテ本邦商取引ノ不確實ニテ信用ヲ失墜セシコト從來ノ比ニアラサルナリ是レ畢竟本邦花蕙ノ相場高マリシ故止ムヲ得サルニ出テタルモノナリト雖モ亦常ニ商業上ノ德義ヲ守ル誠心ナキニ因スルコトナルヘシ其結果ハ轉シテ支那花蕙ヲ求ムルコト、ナリ明治四十一年以來ノ長期間本邦花蕙ノ大悲境トハナレリ是ニ因テ之ヲ見レハ花蕙貿易ニ對シテハ五ケ年毎ニ必ス恐慌ノ悲境アルモノニシテ其原因ハ概テ粗製濫造契約不履行荷物ノ停滯等ニ在ルガ如シ今ヤ花蕙ハ第三回ノ悲境ヲ脱シ將ニ好望ニ向ハントス此秋ニ當リ我當業者ハ互ニ相誠メ誠實ヲ以テ斯業ノ改善發達ヲ圖リ殊ニ注文品ニ對シテハ尙ホ一層ノ注意ヲ拂ヒ契約履行信用ノ恢復ヲ謀リ次ノ五ケ年ノ凶慌ヲ迎ヘサル様之ヲ未發ニ防クノ覺悟ナクンハ販路ハ遂ニ杜絶スルニ至ルヘシ故ニ當業者互ニ相誠メ其前途ヲ發揮スルニ勉ムヘキナリ

第五節 北米合衆國商況

本年度ニ於ケル我花蕙ノ商況ハ遂ニ不況ヲ以テ將ニ其終リヲ告ケントス蓋シ花蕙ノ商取引年度ハ毎年九、十月ヨリ所謂注文時期ニ入り十二月ヨリ翌年三四月ヲ以テ本邦出荷時期トシ三四月頃ヨリ六月末頃迄ヲ以テ米國ニ於ケル卸小賣共最モ盛ンニ取引セラル。期節ニ相當スルカ如シ近時斯業ノ盛運ニ連レ其期節ノ順

序ニ變調ヲ來シ一年中殆ント取引市場ヲ賑ハシタルノ觀ナキニアラスト雖モ大勢ハ實ニ六月下旬ヲ以テ一段落ヲ告クルモノトス是レ一ニハ本品カ性質上夏向需用品タルト他ニ尙ホ全國借家契約更新時期ニ相當スルモノアルニ由ルカ如シ

全國ニ於ケル年極メ借家ハ大低五月限りノ契約ヲ爲ス習慣ニシテ從ツテ五月末ヨリ六月上旬ハ家移リ時期ニシテ家具敷物類ノ新調盛ンニ行ハル、モノトス

此時期ニ於ケル全國一般ノ商況ハ昨年來恐慌ノ餘波已ニ漸次恢復ノ緒ニ就キタリト雖モ大勢未タ全ク舊狀ニ復スルニ至ラサルカ如ク今我花蕙ニ就テ之ヲ觀ルニ當業卸賣貿易商人等ノ見越シ買ヒハ商品不捌ノ爲メ其結果荷岡ヲ來シ遂ニ彼等ノ商策ハ當ラス一般需用界ハ其活氣ヲ喪ヒ商機萎縮シ萬事手控ノ狀ヲ呈スルニ至レリ

由來我花蕙ハ日用必需品ニシテ殊ニ其價格ノ低廉ナル點ニ於テ唯一ノ特長トスルモノナルカ故ニ現時ノ如ク經濟界不振ノ場合ニ於テハ寧ロ贅澤華奢ノ敷物類ニ代リテ却テ歡迎セラレサルヘカラサルカ如シ蓋シ當業者カ客歲末ニ於ケル競争買占メノ胸算夫レ或ハ是ニ基因シタルモノナルカ然ルニ事實ハ豫想ト齟齬シ如斯キノ不況ヲ呈シ今ニ至ルモ挽回セラレサルモノ果シテ全國經濟界恐慌ノ程度カ斯ル必要品ニシテ而カモ低廉ナル我花蕙ニ迄波動シテ現下ノ如ク是レヲ不振ニ至ラシメタル唯一ノ原因タルヤ將又他ニ此不振ノ由テ來ル原因ノ存スルアリテ然ルカ之レ當業者ノ均シク知ラント欲スル所ニシテ亦花蕙ノ前途ニ取り重且ツ大ナル問題タラサルヘカラス

要スルニ這般ノ不振素ヨリ昨年來恐慌ノ餘響其一大原因タルヤ疑ナシト雖モ他ニ尙ホ顧ミテ誠メサルヘカラサルモノアリ何ソヤ曰ク(一)本邦花蒔ニ對スル各種競爭品ノ發達(二)本邦花蒔ノ粗製濫造是レナリ乞フ次節ノ概說スル所ヲ見ヨ

尙ホ本節ヲ了ルニ臨ミ他ノ競爭品ト對比參考ノ爲メ本邦花蒔ノ米國ニ於ケル一平方碼ニ對スル小賣相場ヲ掲グレハ左ノ如シ

八十經筑後無地二等

十二仙

同 同 飛形縞物二等

同

同 同 無地一等

十三仙

百五十經筑後二等無地、縞物飛形物

十四仙

同 同 一等同

十五仙

同 同 同足物竹綜

十五仙四分ノ一

同 同 同焼付總摸樣

同

百八十經飛込機械

十五仙八分ノ五

同 長 同

十六仙二十分ノ三

同 飛込同色二

十五仙八分ノ七

同 長 同 同

十六仙五分ノ二

百五十經備後無地、飛形

十六仙四分ノ一

同 竹綜、足物

同

同 花形、焼付、織込

十六仙半

百八十經備後無地、飛形

十七仙四分ノ一

二百八十經紋花總摸樣

十七仙半

同 同織込摸樣

同

三百六十經紋花

三十二仙

同 綿莞薙

三十三仙

同 袋織

同・

第六節 本邦花薙ニ對スル各種競争品

一 「イングレンカーペット」

「イングレンカーペット」ハ米國在來ノ敷物トシテ久シク中等以下ノ家庭ニ專用セラレ近時本邦花薙及清國製薙類ノ輸入セラレ其需用範圍ニ侵食刺戟ヲ與ヘタルヨリ頓ニ品質ノ改良ヲ加エ顧客ノ意向ニ應シテ頻リニ嶄新ノ意匠ヲ案出スルニ至リタルモノトス

本品ハ經糸ニ細キ綿糸ヲ用ヒ之レニ毛糸ヲ緯織シ經緯ノ染色ト箴ノ出入ニヨリテ織リ出シ模様ヲ現ハシ柔

軟ニシテ彈力アリ最モ中等以下ノ敷物トシテ好適ス表面未タ段通ノ如ク密ナラスト雖モ掃拂ニ適シ殊ニ細カニ點檢シテ其巧妙ヲ賞スルヨリモ概見シテ鮮明華麗ナルヲ以テ一般米人ノ趣向ニ適スルモノナルカ如シ然シテ此等ノ點ニ於テハ蓋シ間然スル所ナシト謂フヘシ

製品ハ長物ハ一卷即チ一碼幅ニシテ長四十碼ヲ普通トスルカ如ク角物ハ大小各種一定セス但本品ハ重モニ長物ヲ製造スルカ如シ

使用ノ場所ハ中等以下ノ家屋中一切ノ所ニ用ヒラル殊ニ室内廊下階段等ニ最モ好適スルカ如シ

本邦花薙ニ比較シテ其長短優劣ヲ見ルニ價格ノ稍ヤ高貴ナル外其短所トシテ指摘スヘキモノナシ

長 所

一、柔軟ニシテ彈力アリ頗ル足障リヨシ

二、模様縞柄鮮明ニシテ最モ嶄新ナルモノアリ

三、染色完全ニシテ遜色スルコトナシ

四、本邦花薙ニ比シテ耐久力ニ富ム

價格ニ付キ標準ヲ示セハ

長物（碼幅一碼ノ代）

角物（一平方碼ノ代）

並物

三十仙ヨリ三十五仙

同五十仙ヨリ

中物

四十仙ヨリ五十仙

同壹弗内外

上物 六十仙ヨリ壹弗 同壹弗五十仙内外

二 (フアイバーマチング)

「フアイバーマチング」ハ米國製敷物トシテ近來ノ發明ニ懸ルモノナリ原料ハ經糸ニ綿糸ヲ用ユ之レニ藁紙ノ撚リタルヲ織リ一名「ペーバーマチング」(紙製筵)ト謂フ蓋シ侮リ難キ本邦花筵ノ強敵ニシテ其最モ得意トスル所ハ外觀ノ秀麗ナルニアリ模様ハ凡テ本邦花筵ト同一ニシテ箴ノ出入ニヨリテ横織紙撚糸ノ浮沈ヲ生シ最モ巧妙ニ其美ヲ盡セリ加フルニ原料ノ性質柔軟ニシテ織面ヲ密ナラシメ特ニ本邦花筵ノ如ク一本抜き織リヲ要セサルカ故ニ耳組ノ整然トシ端切り及ヒ三角穴ヲ生スルコトナシ

長物ハ一碼巾ニシテ長四十碼ノモノ多ク角物ハ大小各種一定セス殊ニ四端ニ糸房ヲ綴付ケ織リ出シ模様又最モ秀麗ヲ盡セリ

使用ノ場所ハ前述「イングレーカーベツト」ト異ル所ナシ本品ヲ日本花筵ト其長短優劣ヲ比較スルニ

長 所 短 所

柔軟ニシテ彈力アリ足障リヨシ

耐久力ニ乏シ

模様縞柄最モ秀麗ナリ

水氣ニ腐敗シ易シ

耳組ノ整然タルコト

洗滌ニ適セス

價格ニ付キ其標準ヲ舉クレハ

長物(碼巾、一碼ニ付キ)

角(一平方碼モノニ付キ)

並品、二十五仙ヨリ三十五仙

並品、五十仙内外

中等品 四十仙ヨリ五十仙

中等品 七十仙内外

上等品 五十仙以上

上等品 壹弗ヨリ一弗半

三 「ココマチング」

「ココマチング」ハ熱帶地方ニ發生スル一種ノ棕梠類似ノ植物纖維ヨリ製造スル莖類ニシテ織方ハ凡テ本邦繩織花莖ノ如ク初メ之レヲ繩製シ縱横共同一種類ノモノヲ用ユ織面粗雜ニシテ偶々角物ニハ綱代織廻リ織ノモノナキニアラス尙近來本邦錦莖莖、袋織ヲ模擬シタルモノナキニアラサレトモ原料ノ性質上精製ニ適セス一般ノ製法未タ幼稚ニシテ不完全タルヲ免レス

染色ハ原料ノ性質上濃茶色ニシテ赤及濃青ノ外染色トシテ見ルヘキモノナシ

使用ノ場所ハ本品ノ性質上粗雜ナルヲ以テ室内用ニ適セス重モニ廊下階段ニ專用セラレ就中往復頻繁ナル場所ニ於ケル軟性敷物ノ蔽ヒトシテ用ヒラル、モノアリ角物ハ表戸口其他主トシテ外部ニ用ヒラル、ノ傾キアリ

本品ハ其耐久力ヲ以テ唯一ノ特長トスルモノニシテ價格ノ比較的高貴ナルニ係ハラス盛ンニ需用セラレツ、アリ今本邦製花莖ニ比シ其長短優劣ヲ檢スルニ

長 所

短 所

耐久力ニ富ム

粗雜ニシテ外觀ノ美ナシ

水氣ニ腐敗セス

價格稍ヤ高貴ナリ

染色織方ニ見ルヘキナシ

價格ハ比較的高貴ナルカ如ク

長物 碼巾長一碼ニ付キ五十仙ヨリ七十仙

角物 一碼平方ノモノ一弗半

同 幅一碼ニシテ長二碼新編モノ三弗ヨリ四弗

四 「クレツクス」

米國一帶就中「ミシツビー」河沿岸ニ沿フテ發生スル一種ノ所謂米國野生蘭草ノ草幹ニヨリ近來ノ發明ニ係ル機械力ニヨリテ敷物ヲ織出スルモノアリ之レヲ「クレツクス」トナス

「クレツクス」ハ數本ノ草幹ヲ撚リ纏メ之レニ細キ綿糸ヲ卷キ此ノ草幹ヲ他ノ綿糸ノ稍ヤ太キ經糸ニ織リ込ミ極メテ粗雜ナル外觀ヲ呈スルモノナリ性強靱ニシテ織物ト謂フヨリモ寧ロ組ミ物（本邦倭菰）ノ體裁ヲナス然レトモ凡テ機械力ニ由ルカ故ニ製出迅速ニシテ勞費ヲ省キ強締ニシテ容易ニ破綻スルコトナシ

縞柄染色共ニ見ルヘキモノナク凡テ天然ノ薄茶色ヲ現シ未タ染色配合ヲナシタルモノヲ觀ス織方亦同一徹ニ出テ漸ク經糸ノ染色ニヨリ赤黃青ノ粗大ナル縞柄ヲ現ハスニ過キサルナリ然レトモ其耳組ヲ整理セシムル爲メ片布ヲ以テ縁採リテ案配シ殊ニ角物ニ於テハ糸房ヲ附シ外觀ノ美ヲ添フモノアリ使用ノ場所ハ前述「ココマチング」ト異ナル所ナシ

本品ヲ我花莖ト其長短優劣ヲ比較スレハ

長 所

短 所

耐久力ニ富ムコト

外觀ノ粗野ニシテ秀麗ヲ欠ク

重力アリテ最モ角物ニ適ス

模様染色ニ適セス

價格ニ付キ其標準ヲ舉クレハ

長 物（碼巾一碼ノ代）

角 物（一平方碼ノ代）

並品四十仙ヨリ五十仙

並品五十仙内外

中等品五十仙ヨリ五十五仙

中等品七十仙内

上等品六十仙ヨリ以上

上等品一弗内外

五 「リノリヤム」

「リノリヤム」ハ硬性敷物ニシテ前述四種ノモノト頗ル其性質ヲ異ニス原料ハ粗雜ナル緒布ニ塗料ヲ配シ外觀獸皮ノ如ク硬性ニシテ本品ノ特長トスル所ハ彈水力ニ富ミ洗滌ニ適スルニアリ從ツテ濕氣ヲ帶フル場所及ヒ時ニ洗滌ヲ要スル厨房浴室便所等ニハ殆ト如何ナル家屋ニ於テモ本品ヲ用ヒサルハナク下宿食堂ノ如キニ使用セラル、フ少カラス近時角物トシテ盛ニ製造セラル。モノアリ價格ハ本邦花莖ト伯仲ノ間ニアリ尙ホ本品ト同一性質ニシテ「オイルクロス」ナルモノアリ從來花莖ノ競爭品トシテ指摘セラレタルモノナルカ如キモ現時ニアリテハ食机「テーブル」ノ蔽ノ外敷物トシテハ「オイルクロス」ヲ使用セラル、ヲ見ス

六 清米兩國製花薙

以上列記スル所ハ本邦花薙ノ競爭品ニシテ互ニ米國市場ニ於テ其需用ヲ爭ヒツ、アリト雖モ「イングレンカーベツト」「フアイバーマチンク」ノ秀麗ニシテ彈力ニ富ムト雖モ價格高貴ニシテ彈水力ニ乏シキカ如キ尙「ココ、マチング」「クレツクス」ノ耐久力ニ富ムト雖モ室内敷用ニ適セサルカ如キ各一長一短アリ顧客ノ用途趣向ノ如何ニヨリ其適否ノ存スルモノアリ然ルニ同一花薙ニシテ現時長足ノ進歩ヲ爲シタル清米兩國製花薙ニ至リテハ其趣向ト用途ニ於テ實ニ本邦花薙ニ最モ肉迫シテ同一地點ヲ競爭シツ、アルモノト謂ハサルヘカラス

清國製薙カ米國ニ輸入セラレ本邦花薙ト競爭シ往々本邦品ヲ凌駕セントスル傾キアルハ當業者ノ等シク熟知スル所ニシテ加フルニ近年米國企業家ハ原料蘭草ノ儘之レヲ輸入シテ國內ニ於テ機械力ニヨリ精製シ以テ本邦品ノ前途ヲ遮ラントスルモノアリ是等二者ニ對シテハ我當業者ノ大ニ注意センコトヲ要ス蓋シ前者(清國製)ハ勞金ノ低廉ナルト一般生産者ノ忠實ニシテ堅ク其契約ヲ遵守スルヨリ近來着々發展シ來リ後者(米國製)又頻リニ機械力ノ應用ヲ改良シ今ヤ特ニ完全ノ域ニ達セントスルノ感アリ唯其原料ノ性質遙カニ本邦品ニハ及ハスト雖モ製出スル所ノ織方模様染色意匠凡テ本邦ト異ナルコトナク價額ノ点ニ於テ寧ロ低廉ナルガ如シ要スルニ侮リ難キ本邦花薙ノ勁敵ナリト謂フヘシ

以上列舉シタル外尙縱橫綿糸ヲ以テ織リタル「クロツツスカーベツト」アリ綿質布片ヲ用ヒテ前述「クレツクス」織方ニ彷彿タル「ラグリレーグ」ノ存スルアリ前者ハ無地ニシテ長物ヲ重モトシ後者ハ各種染色模様

ヲ現出シテ角物ヲ主トスルカ如シ價格ノ點ニ於テ本邦花蕙ニ比シ幾分高貴ナルヲ免レスト雖モ新技ヲ愛スル米人ノ趣向ニ投シテ頗ル好評アルモノトス。

第七節 本邦花蕙ノ粗製濫造

由來本邦生産者カ商況稍ヤ好望ニシテ製品缺乏ヲ告クルノ時ニ於テ往々粗製濫造品ヲ濫發シテ其結果ハ遂ニ本品ノ發展ヲ害スルコト誠ニ一再ニシテ止マラサルカ如シ明治三十五年ハ花蕙未曾有ノ輸出額ヲ示シ其額實ニ六百餘萬圓ヲ算スルニ至リシカ同年ニ於ケル生産品ハ概テ粗製ニ流レ徒ニ其品數ヲ濫造シタルノ結果翌卅六年度ニ於テハ四百餘萬圓ニ減退シタリ一昨年末ヨリ昨年初期ニ於ケル景氣好望ニシテ注文續出スルニ至ルヤ產地ハ又々粗製ヲ繰リ返シ其聲價ト信用ヲ失墜セシメタルコト少々ニアサルカ如シ假リニ這回ノ不景氣ヲ以テ昨年來恐慌ノ結果ナリトスルモ同一花蕙ニシテ清國製ノモノカ已ニ其悲境ヲ恢復シテ可ナリノ盛運ヲ維持シツ、アルノ觀トハ本邦花蕙ニ特ニ不振ノ原因存セサルヲ得サルナリ即チ最近輸入セラレタル品質ニ付テ之ヲ檢スルニ粗製濫造ノ跡歷々又蔽フヘカラサルモノアリ豈慨歎ノ至リナラスヤ加フルニ注文契約違背ノ弊ハ頻リニ當業仲介者ヲ苦メ其少シク有利ナルヲ見レハ直チニ注文品製造ヲ止メ所謂有品ノ製造ニ着手シ注文契約期限ニ至リ其違背ヲ更ニ意ニ介セサルカ如キ假令注文品製作ニ應シタリトスルモ跡増金請求ノ弊ハ續々實行セラレ其結果ハ當業仲介者ヲシテ商機ノ迅速ヲ誤ラシメ引テ需要國ニ於ケル聲價ト信用トヲ失墜セシムルニ至ラシム之レ生産組織ノ狀態生産業者智識ノ低度ナル目前ノ小利ニ吸々ト

シテ未タ利益ヲ遠大ニ期スルノ思慮ニ乏シキニヨルナルヘシ

如斯ク本邦花莖ノ發達ヤ一進一退漸ク好況ノ域ニ進ンテ時ニ亦逆退アリ此間ニアリテ各種敷物類ノ發展タル時々刻々ニ品質ヲ改良シ整然トシテ我花莖ノ供給範圍ニ侵入シ將ニ其前途ヲ遮ラントスルモノアリ當業生産者タルモノ今ニ於テ覺醒一番大ニ覺ル所ナクンハ斯業ノ前途誠ニ慄然トシテ寒心ニ堪エサルモノアリ目下產地ハ不況ノ境ニ陷リ各組合遠ニ其機數ヲ制限シ以テ上述ノ弊害ヲ強制シツ、アリ此等ノ方法ニシテ其盛況ノ時代ニ注意セラレタランニハ這般不況ノ幾分或ハ之レヲ未前ニ減少シ得タリシモノアラン要ハ當業者共同一致ノ步調ニヨリ互ニ相誠メ以テ大成ヲ永遠ニ期セサルヘカラス

第八節 雜 件

一 時季(シーズン)

米國ニ於テ稍ヤ重要ナル商品ニ就テハ其ノ標準價格ヲ一定セシムル爲メ毎年一兩期ニ所謂「シーズン」ナルモノ開催セラル、モノアリ本邦花莖ト最モ密接ノ關係ヲ有スル各種「カーペット」類ニ就テハ毎年春秋二期ニアリテ秋「シーズン」即チ秋季用ノ敷物類ニ就テハ毎年五月上旬一週間ヲ以テ之レニ充テ春季「シーズン」即チ翌年春期ニ用ユル敷物類ニ付テハ毎年十一月上旬ヲ以テ之レヲ催シ此ノ期ニ於テハ各生産工場ヨリ其ノ半ケ年間ニ於ケル苦心發明ニ懸ル新案嶄新ノ意匠ヲ初メテ市場ニ公示シ一般商家ノ評價ニ依リ需要ニ供スルモノニシテ各卸賣大店舗ニ於テモ亦共同一律ニ其新案見本ニ就テ品定評價ヲ爲ス實ニ「カー

ペット」標準價格ハ此「シーズン」ニヨリテ確定セラルヘキモノト謂ハサルヘカラス各種「カーペット」ノ價格ニ比例シテ常ニ市場ニ昇降シツ、アル我花薙ノ價格モ大體ニ於テ實ニ此「シーズン」ヨリ起算セサルヘカラサルモノアリ當業者タルモノ其一下ニ注目シテ以テ斯業半歳ノ計畫ヲ樹ツヘキナリ本年十一月開催ニ懸ル春「シーズン」公定價格ハ各種敷物類ニ就キ平年ニ比シ約一割乃至一割五分ノ低廉ヲ以テ評セラレタリト我花薙ノ春期ニ於ケル價格ノ概算以テト知シ得ヘキナリ

二 角物ト耳採リ及糸房

角物「ラッグ」ハ長物「ロール」ニ比シ其價格ノ高貴ナルト共ニ意匠模様ニ最モ考案ヲ要スヘキモノニシテ本邦花薙ノ角物トシテノ缺點ハ其意匠織方ノ點ヨリモ寧ロ原料本來ノ性質カ重力ニ乏シキ爲メ從ツテ之レヲ敷用シテ往々四端ヨリ卷キ揚げ時ニ靴踵ニ懸ルガ如キ頗ル不適當ナル點ナリトス由來角物ハ長物ト異リ釘付ケニシテ永久的ニ留置クモノニアラスシテ時々之レヲ移轉交代セシムヘキモノナルカ故ニ重力乏シク紙片ノ如キ花薙ハ此點ニ改良ヲ加ヘサルヘカラス今之レヲ各種競爭品タル「フアイバーマチング」「クレツクス」ノ如キ重力稍ヤ乏シキモノニ就テ觀ルニ凡テ前述ノ弊害ヲ補フ爲メ四端ニ片布ヲ以テ耳採リヲ爲シ或ハ糸房ヲ添ヘテ其敷用ニ便ナラシムルカ如シ如斯クニシテ一ハ以テ上述ノ弊害ヲ補フト共ニ尙裝飾トシテ製品ノ品位ヲ高メテ其角物本來ノ目的ニ適應スルカ如シ本邦花薙ノ角物生産者ニ於テモ亦此點ニ留意スル所アレハ確カニ其要求ニ投スルモノアルカ如シ

二 土地ト縞柄

縞柄ノ大小正格飛形等ニ付米國中央集散地ニ於テ窺カニ窺フ所ニヨレハ南部熱帶ニ近キ地方ニ於テハ概シテ大柄ノモノヲ喜ヒ漸ク北部寒氣ノ加ハル地方ニ偏スルニ從ヒ小柄ノモノヲ好ムカ如シ從ツテ之レカ生産者タルモノ其大柄ノモノハ熱帶地方ニ適應スルカ如ク稍ヤ薄地ニシテ清涼ヲ旨トスル模様ヲ作り小柄ノモノハ之レニ反シ濃ヲ用ヒ地質少シク厚キモノヲ製作スルコトニ留意セサルヘカラサルナリ

四 染色ノ均一

本邦花薙カ各生産工場ノ異ナルニ從ヒ同一縞柄模様ニシテ其染色材料ノ均一ナラサルヨリ之レヲ同一室内ニ敷用シテ恰モ別箇ノ模様ヲ並用シタルカ如キ觀アルモノ未タ完ク其跡ヲ絶タサルカ如シ茲ニ重子テ當業者ノ注意ヲ促ス

第九節 結 論

將來ニ向テ本邦花薙ノ盛衰如何ノ豫想ハ實ニ當業者ノ最モ討究セサルヘカラサル重要問題ニシテ前述ノ如ク米國ニ於ケル敷物界ヲ見ルニ内ニ各種新案ニ成ルモノ續々發明セラル、ト共ニ外清國花薙ノ輸入亦侮リ難キモノアリ爾シテ我花薙ノ本年度ニ於ケル商況ハ遂ニ不況ノ止ムヲ得サルニ至リシヲ以テ我花薙ノ前途ニ對シテ悲觀說ヲ爲ス者アリト雖モ今ヤ我花薙ハ米人ノ好奇的愛翫品タルノ範圍ヲ脱シ一般必需品中ニ入り從ツテ一時的巨利ヲ博スルヲ得スト雖モ其基礎強固ナル貿易品タルカ故ニ當業者ニ於テ互ニ相誠メ整然トシテ同一歩調ニヨリ原料ノ性質上他ニ比類ナキ特長ヲ發揮シテ益々其範圍ヲ擴張シタランニハ敢テ悲觀

スヘキニ非ラサルヲ信ス

尙茲ニ注意スヘキハ本品販路擴張策トシテ歐洲諸國ニ侵入的態度ニ出テンコト之ナリ是レ蓋シ己ニ斯業者ノ試ミテ完全ノ結果ヲ得能ハサリシ所ナリト雖モ等シク室内敷物ヲ要スル歐洲人ニシテ廉價ニシテ清潔ヲ旨トスル我花薙ヲ使用セサル謂ハレナキカ如シ從來斯業者カ完全ノ結果ヲ舉ケ能ハサリシ所以ハ未タ其使用ノ途ト本品ノ特質トヲ遺憾ナク彼等ニ知ラシメ能ハサリシニヨルナキヤヲ疑ハサルヲ得ス現時米國ニ於テ發明セラレタル各種薙類ニ於テモ盛ンニ其輸出ノ途ヲ講シツ、アルカ如シ素ヨリ未知ノ地ニ斯業ニ從フモノ幾多ノ困難ハ之レヲ豫知セサルヘカラスト雖モ一國貿易ノ發展ト斯業前途ノ爲メ當業者ノ卒先一番之レヲ企圖センコト誠ニ切望ニ堪エサルナリ

第十節 花薙原料

一 經 糸

經糸ハ紡績糸二十手ヲ六行撚トナシ長サ二十間ニ之ヲ製ス重ニ山門郡ニ製造セラレ遍テク生産地ニ販賣ス

二 蘭草及七島草

蘭草ハ花薙並ニ内國品ノ原料ニシテ前年冬季之ヲ栽エ翌年盛夏之ヲ刈リ收メ上中下三段ニ抜キ別ケ各種製品ノ原料ニ供ス

七島草ハ本縣ニ於テハ一時輸出花薙原料トセシコトアリシモ今ハ之ヲ廢シ專ラ内國用疊表ノ原料トス今左

ニ蘭草七島草栽培法及其作付反別收穫調等ヲ列舉ス

蘭草栽培法

一苗及其培養

苗トシテ蘭株ニ發芽セシムルモノハ其株ノ水ニ浸腐スルヲ防グ爲メ蘭ヲ苧取ルトキ（晴天ニシテ風ナキ日ノ日沒頃ニ限ル）尤能ク切ル、様苧鎌ヲ研（貳寸許リ高ク苧リ其發芽シタルモノヲ約十日ヲ經テ之ヲ鋤ニテ堀取假ニ蘭田立ヲ苧取ル様注意ス可シ）中ニ移植シ置クヘシ

苗床ハ壹反歩ニ付凡ソ拾五坪ノ見當ニテ蘭田ノ一部ヲ區畫シ秋分（舊八月中）前ニ肥料（壹坪ニ付人尿三舁許リ）ヲ施シタ

ル後鋤ニテ三四回打チ返シ水ヲ灌キ克ク搔キ馴ラシテ後地表ヲ平面ニシ前項ノ株ヲ取リ（新芽ノ發シタル後）後鋤ニテ三四回打チ返シ水ヲ灌キ克ク搔キ馴ラシテ後地表ヲ平面ニシ前項ノ株ヲ取リ（新芽ノ發シタル後）

古株ハ之ヲ（莖元ヨリ凡ソ七寸許リ殘シ其尖端ヲ切り五乃至拾本宛ニ分チ株ト株トノ距離凡ソ三寸根入棄ツヘシ）壹寸位ニ植付深サ五分許リノ水ヲ間斷ナク潭ヘ置キ貳回水肥（壹坪ニ付人尿四舁位壹舁ニ水貳舁位混合シ雨天又ハ日沒頃ニ限リ施肥ス可シ）ヲ

施シ其繁茂ヲ計ル可シ

一植付及其培養

蘭田ノ地拵ハ植付前牛馬ヲ以テ耕シタル後之ヲ搔キ馴ス斯ノ如クナスコト四五回尤モ蘭田狹クシテ牛馬ヲ入ル、能ハサルモノハ鋤ヲ以テ四五回打返シ小雪（舊十月中）頃ニ至リ水ヲ灌キ克ク搔キ馴シ地表ヲ平面ニ

シ而シテ尙ホ高低アル部分ハ手ニテ之レヲ平面ニシテ凡ソ十二時間ヲ經タル後水ヲ落シ根肥即チ壹番肥

トシテ壹反歩ニ付油粕貳百五拾斤（練粕又ハ干鰯ナレハ百五拾斤）位ヲ散布シ偕テ彌々植付トナリテハ苗ヲ能ク洗滌シ

苗ハ永ク水ニ浸スコト永置キスルコト日又ハ風ニ晒スコト等堅ク禁ス

苗根連續ノ工合ヲ篤ク注意シ其續キタル者ニテ新芽五本位ニ分チ根ヨリ七寸位ニ尖端ヲ切り株ト株トノ間四寸位根入壹寸貳參分位トシ足跡ヲ能ク埋メタル後插秧シ常ニ

深サ壹寸位ノ水ヲ給シ（挿秧方深ケレハ蕃殖ニ害アリ水淺ケレハ植付ノ當分冰結ノ爲根付ヲ妨ゲラル故ニ水ノ深サハ矢張壹寸ヲ適度トス）春分（舊二）前ニ二

番肥トシテ壹反歩ニ付鯁粕（又ハ干鰯）貳百斤豆粕ナレハ四百斤位ヲ施シ（其成育スルニ從ヒ肥料ヲ増量スルモノナレトモ又生立ノ都合ニ

ヨリ多少ノ斟酌ヲ次ニ小滿（舊四）後壹週間位ニ二番肥即チ止肥トシテ干鰯（又ハ鯁粕）百五十斤硫曹ナレハ

二畝即チ百斤位ヲ與ヘ而シテ肥料ヲ施シタルトキハ必ス（二番肥以下）水ヲ枯渴セシメ干付クルヲ可シトス

止肥ヲ施シタルトキハ奮烈スル迄干付クルコト肝要ナリ

雜草ノ生シタルトキハ壹畝歩ニ付鰯鹽又ハ鹽ヲ七坪位藁灰ニ混合シテ（晴天ノ日中ニ限ル）散布スヘシ若シ之レニ

テ消滅セサルモノアルトキハ穀雨（舊二）頃迄ノ間ニ坂キ取ルヘシ併シ藺田ノ草取ハ普通稻田ト違ヒ田面

ヲ踏締ムレハ發芽ヲ妨クルノ虞レアルヲ以テ生草少ケレハ成丈ケ省略スルヲ可トス

藺草ハ他農作物ニ比シ季候上ノ被害少ナシ最モ藺草ノ生ヘ延ヒタルトキ強風ニテ吹倒サルトキハ多少

其線條ヲ損害セラル、ノ恐レアリ且ツ早天勝チナレハ丈ケ延ヒス藺質剛硬ナレハ寧ロ降雨勝チニシテ生

質柔軟ニ丈ケ長ク成育スルヲ可シトス即チ六月後ニ至リテハ日光及風通リ強キトキハ剛ク且ツ延ヒサル

ノ恐レアルヲ以テ斯ノ如キ所ハ藺田ノ周圍ヲ藁又ハ菰ニテ圍繞シテ遮ルヘシ

害虫及其驅除法

藺草ノ害虫ハ「ホウジョウ虫」及「イナゴ」ノ二種トス「ホウジョウ虫」ハ鱗翅部蛾屬ノ蚬ニシテ母蛾卵子ヲ

蘭莖ニ産下シ其卵孵化シテ莖中ニ蝕入シ生長スルニ及ヒ穴ヲ穿チ外部ニ出テ皮ヲ食スルモノナリ此虫方言「蘭虫」又ハ「青虫」ト稱シ四五月頃大ニ蕃殖シテ蘭ノ延ヒ先ヲ食ヒ折リ甚シキハ蘭草悉ク灰色トナルニ至ルコトアリ當地方ニ於ケル之カ驅除法ハ布袋ヲ以テ之ヲ掬ヒ取ルヲ通常トス此虫害ヲ未發ニ防クノ法ハ八十八夜前後二週間毎朝露ノ落チサル前藁灰ヲ散布スルモヨシ又蘭田隅カ或ハ人糞移壺ニカ土水ヲ搔キ立テ晴天ノ時散布スルモヨシ岡山縣ニ於テハ稍々精密ノ驅除法ヲ行ヘリ左ニ之ヲ附記シテ當業者ノ參考ニ供ス

一五月上旬即チ八十八夜ノ頃煙草莖ノ煎汁ヲ灌クヘシ但虫已ニ成長スレハ功ナシ其未タ成長セサルトキト雖モ煙草汁ヲ灌キシ後晴天ニ非サレハ功ナシ

二害蟲發生壹ケ月前ヨリ時々耕地ヲ巡視シ小蛾ノ蘭田ニ飛翔スルヲ目撃セバ畦畔所々ニ點火誘殺ス可シ三此蟲ノ莖ヲ脱シ皮ヲ食スルトキハ先ツ竹條ヲ以テ輕々掃下シ家鴨又ハ鶏ヲ放ツテ啄マシム可シ

因ニ云フ此蟲ハ山麓又ハ藪影等空氣流通宜シカラサル所ニ最モ多ク生スルモノニシテ平坦開濶ノ地ニテハ差シタル被害ナシ

「イナゴ」ハ人々ノ熟知セル直翅部ニ屬スル虫類ナルカ之カ驅除法ハ

一網袋ヲ作り之ヲ掬ヒ取ルヘシ

二該虫ハ秋末畦畔等ノ土中ニ卵子ヲ産下スルモノナレハ冬季畦畔上層ノ土ヲ削リ取り且ツ雜草ヲ燒捨ツ可シ

一 苧取乾立及拔分

大暑後立秋前晴天ヲ見定メ前日午後ヨリ其日ノ早曉苧取り之ヲ能々洗ヒ上ケ水垢又ハ土ノ附キタルヲ落
スヘシ其日ノ午前十時迄ニハ洗ヒ方ヲ終リ乾キタル地面即チ堤腹畦畔又ハ草生ノ地各自ノ物干場等へ薄
ク敷並ベ一日ニ一回裏返シ完ク二日間ニ乾立ツル者トス若シ一齊ニ乾揚ラサルトキハ大ニ光澤ヲ失フ就
中未乾中降雨ニ逢ヒタル程困難ナル事ハナシ何トナレハ未乾中雨天ニテ充分乾揚ラサル時ハ自然變敗ス
ルヲ以テ百日ノ辛勞一時ノ泡沫ニ皈ス故ニ苧取ノ節ハ宜シク天氣ヲ見定ムヘキコト肝要ナリ

上中等中繼用ノ蘭ハ蘭田ノ一隅ヲ凡ソ四五尺ト六七尺ノ長方形ニ深サ壹尺許リ掘鑿チ之ニ粘泥ト水トヲ溶
解シ染壺ト爲シ(其泥水ハ手足ニテ攪拌シ先脛毛ニ可也ノ泥色ヲ呈スルヲ度トス)洗ヒ揚ケタル生蘭ヲ其壺ニ漬ケ泥染ヲナシ普通蘭乾揚
ケノ例ニ依ルト雖モ裏返シニナストキ泥ヲ打離シ干揚クヘシ

蘭ノ乾揚ケ終ラバ左ノ三等ニ拔キ分クヘシ而シテ三等ノ最モ短キ分ヲ落シ捨ツレハ枯蘭ヲ除却スルコト
ヲ得ルナリ此ノ落蘭中ヨリハ又タ編笠蘭枕蘭等ヲ得ルコトアリ頓チニ廢物ニ非ズ

壹等蘭

(曲尺)

三尺四寸以上

貳等全

(全)

三尺以上

參等全

(全)

二尺三寸以上

七 島草栽培法

一 苗床及其培養

苗トシテ七島株ニ發芽セシムルモノハ豫メ畦畔ノ傍ニ苗場所ヲ見積リ其株ノ水ニ浸腐スルヲ防ク爲メ小高ク傾斜ニ地拵ヲナシ芒種(舊五月節)植付ノ際普通ノモノヨリモ株ト株トノ距離ヲ狹ク插秧シ置キ白露(舊八月節)收穫時期ニ至ルモ苧リ取ラス其儘据置キ翌年春分(舊二月中)ニ至リ之ヲ燒キ拂フヘシ左スレハ暫クニシテ新芽發生ス其時之ニ人尿ヲ施スヘシ立夏(舊四月節)小滿(舊四月中)ノ間ニ之ヲ鋤ニテ掘取リ多少古根ノ付キタル儘一反歩ニ付十五坪乃至二十坪ノ苗床水田ニ移植スヘシ

一 植付及其培養

七島田ノ地拵ハ植付前芒種(舊五月節)牛馬ヲ以テ耕シタル後之ヲ搔キ馴ス尤モ田狹クシテ牛馬ヲ入ル、能ハサルモノハ鋤ヲ以テ打返シ水ヲ灌キ克ク搔キ馴シ地表ヲ平面ニシ而シテ尙ホ高低アル部分ハ手ニテ之ヲ平面ニシテ根肥トシテ一反歩ニ付鯁粕五十斤位ヲ施シ儲彌植付トナリテハ苗ヲ取リ苗根連續ノ工合ヲ篤ク注意シ古根ヲ棄テ二三本位ニ分チ根ヨリ八寸位ニ尖端ヲ切り株ト株トノ間五寸五分位根入一寸貳參分位トシ足跡ヲ能ク埋メタル後插秧シ常ニ深サ一寸五分位ノ水ヲ給シ追肥トシテ人糞、人尿等ヲ施スモ宜シ雜草ノ生スルカ故ニ三四回除草スヘシ

一 害虫及其驅除法

年ニヨリ油虫發芽スルコトアリ其時ハ水ヲ灌クトキ菜種油ヲ注入シ而シテ莖ニ觸ル、樣注キ掛ケ除虫スヘシ

イナゴハ二人ニテ双方ノ畦畔ヨリ繩ヲ張リ漸次一方ヨリ七島草ニ觸ル、樣ニシテ之ヲ一隅ニ追寄せ而シ

テ布袋ヲ以テ掬ヒ取ルヘシ

自明治廿七年
至全四十一年
蘭草作付反別收穫及價額表

年 別	作 付 反 別	収 穫 高	價 額	一貫目價額
二十七年	二二一四 _反	六三四、二〇〇 _四	一一四、二五六 _四	拾 八 錢
二十八年	二四五六	七三六、八六〇	一四七、三七二	貳 拾 錢
二十九年	二二三六	六七〇、七一〇	一三四、一四二	全
三十 年	二三四二	七〇二、五四〇	一四〇、五〇八	全
三十一年	二二八二	六五四、六九〇	一九六、四〇七	參 拾 錢
三十二年	二二三五	六七二、〇六三	一八八、一七八	貳 拾 八 錢
三十三年	二一九八	六七二、八三〇	二〇一、八四九	參 拾 錢
三十四年	二七一四	九一九、二五八	三二一、七四〇	參 拾 五 錢
三十五年	四九四五	一、五七五、八七七	六七七、六二七	四 拾 參 錢
三十六年	四六一六	一、三八九、二四三	三〇五、六三三	貳 拾 貳 錢
三十七年	二八三〇	七九八、六〇〇	一九九、六五〇	貳 拾 五 錢

三十八年	二六二六	八〇五、〇一四	二八一、七五五	參拾五錢
三十九年	二六二五	七七六、九〇〇	三四九、六〇五	四拾五錢
四十年	三八〇四	一、五二一、六〇〇	五七八、二〇八	參拾八錢
四十一年	四一二八	一、四四四、八〇〇	二六〇、〇六四	拾八錢

四十三年	三六五七	一〇二、三九六	二四五、七五一	計拾四錢
四十三年	三五四三	一〇二、三九六	二六八、七八六	計拾六錢

年別	蘭苗肥料	肥料代價	諸雇給料	借地料	計金	收	草價額	純益	差引	差引
三三	一、一〇〇	三〇、〇〇〇	二四、一〇〇	三三、八〇〇	七六、一〇〇	三三五	九一、〇〇〇	一三、九〇〇		
三二	一、一〇〇	三〇、〇〇〇	二四、九〇〇	三三、四〇〇	七九、五〇〇	三二六	九四、八〇〇	一五、三〇〇		
三四	一、一〇〇	三二、〇〇〇	二五、八〇〇	三三、八〇〇	八一、八〇〇	三四九	一二三、一五〇	四〇、三五〇		
三五	一、一五〇	三三、〇〇〇	二八、四〇〇	二五、五〇〇	八八、一五〇	三三九	一二四、四七〇	五三、三〇〇		
三六	一、一五〇	三三、〇〇〇	三〇、一〇〇	二五、二〇〇	八九、五五〇	三二六	六九、五二〇			二〇、三〇〇
三七	一、一〇〇	三三、〇〇〇	三四、四〇〇	二四、六〇〇	九三、二〇〇	二九九	七四、七五〇			一八、四五〇
三八	一、一五〇	三五、〇〇〇	三四、四〇〇	二六、四〇〇	九七、〇五〇	三三八	一二四、八〇〇	一七、七五〇		

三九	一、三五〇	三五、〇〇〇	四〇、四〇〇	二八、八〇〇	一〇五、五五〇	三三二	一四四、九〇〇	三九、三五〇
四〇	一、四五〇	三七、〇〇〇	四三、〇〇〇	三〇、〇〇〇	一一、四五〇	四〇〇	一五、〇〇〇	四〇、五五〇
四一	一、二六〇	三三、六〇〇	四三、〇〇〇	二七、六〇〇	一〇五、四六〇	三六〇	九〇、〇〇〇	一五、四六〇
計	二、六〇〇	三三、六〇〇	三八、五〇〇	二五七、一〇〇	九二九、八〇〇	三、三四四	〇九五、三九〇	二二九、五二〇
十ヶ年 平均	一、二六二	三三、一六〇	三三、八五〇	二五、七〇〇	九二、九八一	三三四	一〇九、五三九	一六、五五八

備考 本表ハ蘭作シタルモノヲ賣却シタル収支計算ヲ示シタルモノナリ

本表ハ例年蘭作スルモノトシ取調べタルモノニ付蘭苗ノ價額欄ヲ設ケス

自明治三十二年
至全 四十一年 七島草作付反別、収穫及價額表

年 別	作 付	反 別	収 穫	高	價 額	一貫目	價 額
三十二年		四九四	五四、七七二		八、七六四	拾 六	錢
三十三年		五七〇	一一〇、七九三		一八、八三五	拾 七	錢
三十四年		六八〇	一一六、六〇一		二二、三二〇	貳 拾	錢
三十五年		六八六	一二九、〇九五		二三、二三七	拾 八	錢
三十六年		五九一	七七、一七六		一一、五七六	拾 五	錢

三十七年	五〇八	八〇、二六五	一二、〇四〇	拾五錢
三十八年	八〇〇	一六九、一二七	四二、二八二	貳拾五錢
三十九年	五二四	一一二、六六〇	四五、〇六四	四拾錢
四十年	五二一	一一二、〇〇〇	四四、八〇〇	四拾錢
四十一年	六五七	一〇四、九八七	三一、四九六	參拾錢
四十二年	五七一	一一四、四〇〇	三四、三二〇	參拾錢
四十三年	五四三	一一三、一七〇	三三、七九三	貳拾五錢

三潞郡木室村大字中木室五百八十八番地

士族 熊 本 壽 人

安政五年八月生

氏ハ本縣花薙ノ發達ニ關スル熱心ナル卒先者ニシテ本組合頭取又ハ組長タルヲ前後十年間染色ニ製織ニ捺染ニ其他花薙各般ノ進歩ニ對シ誘導補益ヲ與エ共産社ノ設立筑後物産株式會社ノ關係等ニ就テハ具サニ患苦ヲ嘗メ東奔西走幾ント寧日ナシ依テ明治三十九年佐賀市ニ開催セラレタル九州沖繩八縣聯合共進會ニ於テ農商務大臣ハ左ノ功勞賞ヲ授與セラレ今現ニ本組合組長タリ

功勞賞授與證

福岡縣三潯郡木室村

熊 本 壽 人

一金貳拾圓

夙ニ意ヲ花蕈業ノ振興ニ注キ染色及煮釜ノ改良ニ務メテ着々効果ヲ奏シ漸ク粗製濫造ノ弊ヲ生セントスルヤ刻苦勵精同業者ヲ糾合シテ組合ヲ組織シ銳意熱心斯業ノ改良發達ヲ圖ルコト二十年一日ノ如ク筑後花蕈業今日ノ隆盛ヲ見ルニ至ル其功蹟偉大ナリ

右第十二回九州沖繩八縣聯合共進會審査長ノ薦告ヲ領シ茲ニ之ヲ授與ス

明治三十九年四月十五日

農商務大臣從三位勳一等 松 岡 康 毅

三潯郡荒木村大字荒木千九百四十九番地

平 民 稻 益 一 義

慶應元年四月生

氏ハ夙ニ花蕈發展組合改造ノ志ヲ懷キ苦心經營多年ニ亘レリ依テ去ル三十六年氏カ組長ヲ辭スルニ當リ本組合ハ特ニ贈ルニ左ノ感謝狀ヲ以テシ氏ノ功勞ヲ表彰セリ

明治三十七年本縣ヲ代表シテ北米合衆國ニ航シセントスルイス世界大博覽會及米國都市ニ就キ親シク花蕈

ノ實狀ヲ視察シ今現ニ本組合顧問タリ

感 謝 狀

本邦製出ノ花莖ハ夙ニ諸外國ニ稱賛セラレ其產額年々増加シテ我國輸出品中重位ヲ占ムルニ至リタリ然レモ我國斯業者中時ニ粗製濫造ニ流レテ聲價ヲ失墜セシメタルコアリ況ンヤ支那ニ於ケル製莖ノ我カ勁敵タルト同時ニ又タ外國製販物類ノ競争ヲ試ムルアリ爲メニ本邦花莖業ノ施設ニシテ其宜シキヲ得サランカ忽チ輸出杜絶斯業ノ萎靡困頓ヲ招クコトナシトセス

我筑後莫蔭同業組合ハ明治三十二年六月稻益一義君ヲ迎ヘテ組合長ニ推シ製造販賣ノ施設一ニ君ノ畫策ニ任セタリシカ君就任以來銳意改良ニ着手シ斯業ノ爲メニ寢食ヲ忘レテ經營頗ル慘憺タルモノアリ三十四年ニ及ンテハ他ニ卒先シテ花莖敎習所ヲ新設シ次テ染色ノ改良標本ノ調製等斯業發達ノ上ニ於テ一日モ欠ク可カラサル新計畫ヲ立テ此ニ組合全般ニ向ツテ染色、意匠、製織ノ模範ヲ示シ以テ同業者ニ新智識ヲ與フルト共ニ筑後花莖ヲシテ外國市場ニ一頭地ヲ拔カシムルニ至リタリ君ノ功勞亦大ナリト云フヘシ

然ルニ君ハ他ニ大ニ企畫セル事業アリ其身心ヲ兩様ニ分ツベカラサルノ故ヲ以テ明治三十六年四月ニ及ヒ組合長ヲ辭セラル、ノ已ムヲ得サルニ至リ組合亦強イテ之ヲ留ムヘカラス此ニ於テカ君カ在職中ノ功勞ニ酬インカ爲メ組合ノ決議ニ依リテ此ニ金盃一組ヲ贈呈シ以テ聊カ感謝ノ意ヲ表ス

明治三十六年六月

福岡縣花蒔同業組合

稻 益 一 義 殿

三瀦郡蒲池村大字蒲生千百二十五番地

平 民 近 藤 善 太 郎

万延元年三月生

明治十九年筑後産商組合ノ設立アリシヨリ以來本年ニ至ル二十四年間役員トシテ本組合ト終始セルモノハ氏トス

氏ハ祖先以來莫産商トシテ盛ンニ花蒔ノ輸出莫産ノ取引ヲ事トシ今ヤ現ニ四百臺以上ノ製蒔機ヲ用ヒテ花蒔ノ製織ヲナシ一時ニ一萬本ノ注文ヲ受クルモ優ニ之ヲ弁スルノ備エアリト云フ

三瀦郡木佐木村大字蛭池 二百八十九番
二百九十番地合併

平 民 北 島 利

元治元年十月生

氏累代莫産商ノ家ニ生レ夙ニ花蒔ノ改良發展ニ留意シ本組合役員トシテ盡瘁十年一日ノ如シ殊ニ花蒔賣込業者トシテ取引最モ廣キノミナラス明治四十年以來支店ヲ米國桑港ニ設置シ大ニ花蒔直輸ノ道ヲ開カント

スルノ計畫アリ

三瀧郡木室村大字中木室六十六番地

平民 水 落 精 一

嘉永二年四月生

氏本組合役員トシテ花蕨業ノ改善ニ盡瘁スル多年去ル三十四年本組合カ染業特許ノ制度ヲ斷行セントスル
ヤ氏ハ役員中最モ硬論ヲ主張シ以テ之カ成効ヲ助ケタリ氏少壯身ヲ花蕨ニ委子以テ今日ノ地位ヲナス其苦
心談ハ氏ノ大ニ得意トスル所ナリト云フ

三瀧郡田口村大字北古賀百四十五番地

平民 鶴 周 一

天保十四年十一月生

氏明治二十八年以來本組合役員トシテ經歷最モ久シク事ニ當リテ諄々會テ圭角ヲ現ハサス常ニ平和ノ意見
ヲ把持シ組合ヲシテ磐石ノ安キニアラシム氏ノ功勞蓋シ尠少ナラスト云フ可シ

三瀧郡大莞村大字大藪三百七十四番地

平民 境 信太郎

安政元年十一月生

本組合カ今日ノ盛ヲナシ爾後萬年ノ繁榮ヲ保ツニ當リ決シテ遺忘ス可カラサル人アリ誰乎境信太郎氏はナリ氏奇才ヲ抱キ最モ計畫ニ巧ミニ腹中一旦案成ルヤ盡瘁晝夜ヲ捨テス我莫産業ノ昔ヨリ延ヒテ花薙草昧ノ時代ニ於テ夙ニ之ヲ國產トシテ大ニ擴張ス可キノ方案ヲ立テ或ハ組合ノ組織或ハ染色ノ改良或ハ製織ノ技術或ハ機械ノ撰擇或ハ外人ノ接待等東奔西走寧處ニ遑アラス其功蓋シ偉大ナリ依テ茲ニ特筆ス

八女郡水田村大字馬間田千百八番地

平民 吉田清一

安政六年六月生

明治三十二年本組合カ重要輸出品同業組合法ニ據リ大ニ活動ヲ初ムルヤ氏之カ役員トシテ盡瘁多年一難起ル毎ニ志操益々固ク本組合ヲシテ今日アラシムルモノ氏與リテ大ニ力アリ氏又タ意ヲ花薙ノ製織ニ傾ケ其技凡ナラサルモノアリト云フ

八女郡水田村大字島田四百五十七番地

平民 下川平

嘉永元年一月生

氏世々莫蔭商ヲ業トシ花蒔ニ對スル關係深ク本組合役員トシテ盡瘁多平實地ニ長ケ經歷ニ富ミ又タ本縣花蒔界ノ一老將タルヲ失ハス

山門郡城內村大字宮永町四十三番地ノ一

士族 安 東 多 記

嘉永元年二月生

氏ハ明治三十年以來本組合役員トシテ盡瘁一日ノ如ク資性恬淡胸中城府ヲ設ケス自ツカラ同業者中ニ推重セラル

山門郡三橋村大字藤吉四百十六番地

士族 碓 井 正 路

安政五年四月生

氏ハ安東氏ト共ニ山門郡ニ於ケル花蒔界ノ重鎮タリ夙ニ斯業ノ發展ニ熱中シ組合役員トシテ盡力渺カラス
今現ニ本組合副組長ノ職ニ居ル

久留米市通町百三十六番地

平民 佐田 恒助

嘉永三年六月生

氏ハ久留米市ニ於ケル莫薩卸商中ノ有力者ニシテ夙ニ内國用莫薩ノ改良ニ熱衷シ明治十一年久留米市ニ同業者ノ組合ヲ設ケテ以來三十餘年間常ニ組合役員トシテ執掌シ又タ莫薩業ト終始ス其經歷ノ久シク功勞ノ多キ推シテ我莫薩界ノ巨擘トナス可シ

山門郡三橋村大字磯鳥二百八十六番地

野村 列根

弘化元年九月生

三瀧ノ花蕙界ニ境信太郎氏アルカ如ク山門花蕙界ニ於テ其名ヲ忘ル可カラサルハ氏トス氏父ノ遺志ヲ繼キテ意ヲ花蕙ノ發展ニ注キ該業ノ微々振ハサルヲ歎キ百方配意興業ノ策ヲ講シ花蕙傳習所ヲ設ケ徒弟ヲ集メ講習ニ務メ幾十人ノ卒業生ヲ出シ多方ノ需メニ應シテ傳習ヲナサシムル等花蕙業ニ取リテハ實ニ創業ノ元勳ト云フ可シ當時傍ラ同業組合ノ組織ニ盡瘁シ其目的ヲ達シテ之カ役員タリ

三池郡江浦村五百二十一番地

平民 萩原 斗

弘化二年三月十八日

氏ハ熱心ナル花蒔製織家ニシテ夙ニ工場ヲ設ケ製織ヲ業トシ三池郡ニ於テ一時蘭作製蒔ノ勃興セシモノ氏
カ卒先誘導ノ任ニ當リタルニ因ル爾來幾多ノ變遷ニ逢ヒ三池郡ノ花蒔ハ萎靡振ハスト雖モ氏獨リ屹然トシ
テ動カス依然其業ヲ繼續シテ毫モ屈撓ノ色ナシ組合ニ對シテモ代表員トシテ盡瘁渺カラス氏ノ如キハ後凋
ノ節ヲ全フスル稀有ノ篤志家ト稱ス可シ

304

F95